地域おこし協力隊事例集

くらしの中に
総務省
Ministry of Internal Affairs and Communications

令和６年８月
総務省　地域力創造グループ
地域自立応援課

地域おこし協力隊事例集について

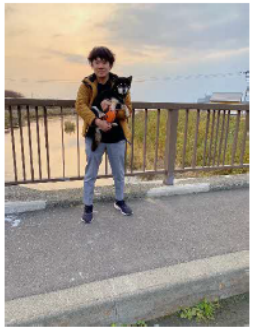
○　地域おこし協力隊の活動内容を活動分野別にまとめた「地域おこし協力隊事例集」を令和６年８月に作成・公表。

＜掲載イメージ＞

北海道石狩市　竹林　秀

商品開発・販売

基本情報



【年　齢】
24歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
東京都杉並区
【前　職】
法律関係
【活動時期】
R5.3～

協力隊に応募したきっかけ

学生時代のころから厚田のことを知っており、よくドライブに来ていました。特に聚富から見える夜景に惚れ、10年後ぐらいには住みたいなとざっくり考えていました。タコ飯を作っている方とは以前から知り合いで、東京から帰省するたびにお邪魔していたのですが、実はタコ飯の後継者を地域おこし協力隊として募集しているんだよねというお話を聞き、厚田に住むなら今ではないかと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年からは通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。また、最も重要な拠点づくりに関しては、大きなお金がかかること、屋根の修復等専門な知識が必要なこと等多くの困難があります。協力隊後を見据え、いつでも住むことができるように冬の間に計画を立て、来年までには使えるような状態にするために専門的な知識や資格の習得や、拠点づくりに取り組んでいきたいです。また、来年も引き続き地域との交流を深めて顔を覚えてもらいたいです。

活動内容

●地域の特産品（「タコ飯」の継承）

石狩市初めてのミッション型地域おこし協力隊として、地域の特産品「タコ飯」の継承を中心に活動しています。とはいえ、地域の方とも接したくて協力隊になったので、まずは地域のイベントや他の協力隊のイベントに参加、お手伝いすることを中心に活動しています。

ミッションであるタコ飯も一通り一人で作れるようになりました。二年目からはタコ飯を作る速度のスピードアップとともに、タコ飯の課題解決、拠点づくりを手がけていきたいです。

タコ飯は一通り作れるようになりましたが、活動していく中で課題が多く出てきました。まずはタコ飯を作るスピード、次にタコ不足、最後に最も重要なものが拠点づくりです。来年からは一日300個を一人で作れるようにスピードを上げること、今年は8月でタコが無くなってしまったので、通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））r2303001@city.ishikari.hokkaido.jp
（電話番号（職場））0133-78-2020

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（フェイスブック）https://www.facebook.com/vladimir.lewis.39

＜活動分野＞
1 移住・定住促進
2 不動産利活用
3 観光・情報発信
4 商品開発・販売
5 地域コミュニティ活動
6 漁業・水産業
7 農業・林業
8 環境保全・自然保護
9 医療・保健
10 デジタル
11 教育・文化
12 スポーツ
13 事業承継

01 移住・定住促進

福島県　玉川村　田中　瑞穂

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】　５６歳

【出身地】　熊本県

【転出元】　茨城県

【前　職】　桜川市地域おこし協力隊

【活動時期】令和５年２月～

（1年目）

地域おこし協力隊に応募したきっかけ

・令和５年１月まで茨城県桜川市の隊員であった。３年間の任期を終了するにあたり、コロナ禍で十分な活動ができなかったという想いが強く残っていたため、玉川村の隊員に応募した。
・ドラマやアニメのロケ地を巡る「聖地巡礼」が生きがいであり、２０年ほど前のドラマ「世界の中心で、愛をさけぶ」の空港のシーンを撮影した玉川村に訪れたことがあった。思い出深い地で地域おこし協力隊として活動したいと思った

今後の抱負・任期後の目標

・来年度に「移住サポートセンター」を正式発足させ、任期中はさらに発展させるべくがんばりたい。一般社団法人化等も視野に入れ、協力隊卒業後もいくつかの仕事を掛け持ちしながら、移住コーディネーターとしての活動を継続したいと考えている。なんとしても定住したい。

活動内容

【活動概要】

・移住コーディネーターとして移住促進に励んでいる。
・移住ブームであり、メディアへの露出が多くキーパーソンとして話すことも多い。
・KFB福島放送の「県民リポーター」を委嘱されており、自分で撮影した村の映像が「シェア！」という番組で放送されている。
・着ぐるみやパペットを活用し、多くの村民と交流。

【現在の活動についての感想】

・多くの村民から日常的に「がんばって！」「村のためにありがとう！」と激励と感謝の言葉をいただくので、意欲的に取り組んでいる。着任前はここまで歓迎してもらえると思っていなかった。
・村民の激励を受けて、「移住するなら玉川村」とプリントした服を着て、同じ内容のマグネットを貼り付けたクルマで活動するなど誰にでもアピールする姿勢で取り組んでいる。
・非常にやりがいがあり、時間を忘れて夢中になって活動している。

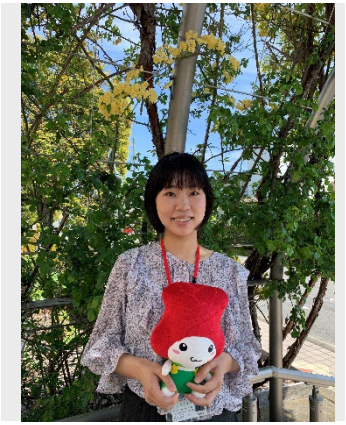
連絡先

【メディア等の取材連絡先】
電話番号：0247-57-2104（すがまプラザ交流センター）
携帯番号：090-6115-0229(個人)
メールアドレス：siberianrailway@gmail.com
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.instagram.com/ithea_myse/

群馬県佐波郡玉村町　東田　侑子

移住・定住促進

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
奈良県天理市
【転出元】
奈良県天理市
【前　職】
リフォーム会社
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

前職の経験から、家という箱だけではなく町の活性化につながる移住促進活動をしてみたいと思うようになったのがきっかけ。住み慣れた地域を離れ別の場所で、外側からの視点を生かして移住促進をやってみたいと思ったから。

今後の抱負・任期後の目標

移住者や移住希望者のための、町のくらしを紹介する媒体をつくっていくこと、町の住民や移住者どうしが交流できる場つくり、移住体験ツアーなどを企画していきたい
任期後の具体的な目標は今のところ決まっていないが、軸として、くらしを提案する仕事に就きたいという思いは変わらずにある。

活動内容

●重田家マルシェ

7月8日（土）、町内にある国登録有形文化財の「重田家住宅」を活用して地域おこし協力隊企画で重田家マルシェを実施しました。「玉村町でふらっと立ち寄れる朝ごはん」をテーマに町内外の出店を行い、文化財と地域・地域住民との交流の場をつくりました。予想を超えて400人もの方にご来場頂きました。

●移住者交流会

10月21日（土）、重田家住宅にて「たまむらまち移住者交流会」を開催しました。海外や他府県・市町村から玉村町へ移住して来られた方々に集まって頂き、町内でのくらしについて知っていること・知らないこと・良いと思うこと・不便なことを情報共有や意見交換をしながら交流を行いました。

●イメルダさんとフィリピン料理を楽しむ会

11月5日（日）、当町と地域おこし協力隊共催で、町内で飲食店をされるフィリピン人のイメルダさんにご協力を頂き、フィリピン料理教室を行いました。町内に住む外国人や日本人が参加し、食を通じた国際交流を行いました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人）y.u.u.k.o19960423@gmail.com
（電話番号（個人 ）070-9049-2895

【活動の様子を発信しているSNS】
Instagram　@tamamurakurashi

TAMAMURAKURASHI

埼玉県秩父市　西村 岳登

①移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
25歳
【出身地】
埼玉県秩父市
【転出元】
東京都葛飾区
【前　職】
株式会社ベルパーク
【活動時期】
R3.4～R6.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

「いつかは好きな土地で仕事をしたい。」「もっと自分を必要としてくれる場所や人と働きたい」と思っていたのが地域おこし協力隊を応募したきっかけ。
秩父市の地域おこし協力隊に応募したのは、元々観光で秩父に足を運んでいたため。秩父市民の人柄の良さや歴史、自然、都心に近いという理由も秩父市の協力隊に応募したきっかけである。

今後の抱負・任期後の目標

今後は大好きな秩父市で活動をしていきたい。
活動は大きく分けて二つ考えている。一つ目は秩父市を拠点に映像制作をしていくこと。秩父市で映像を作れる人として認知されたい。二つ目は、地域おこし協力隊OBとして新たに秩父市に着任する協力隊員のサポートや、埼玉県全体の協力隊のサポートをしていきたい。
協力隊員時代に培ってきた人脈やスキルを生かして、今後も秩父市に貢献していきたいと考える。

活動内容

●移住・定住促進業務

主に秩父市移住相談センターで相談員として移住相談や支援金の相談を受けている。あわせて、移住後のケアや相談にも対応している。また、JOINやふるさと回帰支援センターが主催する「移住フェア」や、姉妹都市の豊島区で開催された「イケBiz」など秩父市外のイベントへも参加し、秩父市をPRしている。

●映像制作

秩父市地域おこし協力隊員OGがはじめた、移住者の移住後の生活や活動を取材した「つながる、ちちぶ」のインタビュー映像の撮影や編集を行う。また、同秩父市地域おこし協力隊員の活動紹介映像や秩父市のPR動画作成を行っている。

●イベント企画・運営

主に移住検討者向けイベントの企画・運営を行っている。秩父市内で、秩父初心者をターゲットにした「秩父初心者ツアー」や移住検討者と移住者との交流を目的とした「秩父de焚火交流会」・「秩父BBQ交流会」などのイベントを開催し、大盛況を博した。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））nishi.2com@gmail.com
（電話番号（個人or職場））080-9119-6472

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）http://instagram.com/nishi_films246

千葉県白子町　小林　弘典

移住定住

基本情報

【年　齢】
37歳
【出身地】
埼玉県越谷市
【転出元】
千葉県白子町
【前　職】
リクルート広告営業
（個人事業主）
【活動時期】
R3.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

友人からの紹介がきっかけでした。
もともとは週末サーファーで仕事の休みの合間で九十九里へ来ていました。その時サーフィンつながりで知り合った方から『白子町で地域おこし協力隊』を募集していることを聞き、その名称すら聞いたこと無かったですが地方創生には興味があったのと、個人事業主で仕事をしており電波環境さえ整っていればできる仕事だったので応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

現在４年目で任期を１年間だけ延長してもらいました。
ラストの１年は自身のマネタイズに特化して活動していこうと思っています。
この３年間で作った任意団体での夏祭りやひまわり畑作り、朝市などは今後も続けていくことが目標です。
正直町のためにまだまだやりたいことや町に必要なことはたくさんありますが、地道にやっていくしかないと思っています。

活動内容

●白子町げんき夏祭りの開催

２０２２年に引き続き夏祭りの開催。
去年は２日間に規模を拡大し、出店者様なども昨年の倍。そして祭り最後には打ち上げ花火をあげました。このお祭りは白子町の伝統文化である「白子音頭」を持続可能なものにするためとコロナで衰退した町の復興のため２０２２年から始めました。

●スーパーが無くなった町に朝市の初開催

２０２３年３月より朝市の開催。
町唯一のスーパーが無くなり、いわゆる“買い物難民”を救うべく町内の事業者を集め２か月に一度開催。
各開催には15~20店舗ほど集まり盛り上げていただいた。集客は毎回５００～１０００人ほど。

●町に写真映えスポット作り

現在来春に向けて取り組んでいるのが、写真映えスポット作りです。
休耕地を利用し、町の花である「ひまわり」や「菜の花」「コスモス」といった花畑を作り華やかな映えスポットを作る予定で、植えるのも町の小学生などに参加していただく取り組みとしました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場）） kikaku@town.shirako.lg.jp
shirakogenkiproject@gmail.com
（電話番号（個人or職場）） 0475-33-2180(町企画財政課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://Instagram.com/shirakomachi_kyoryokutai
https://Instagram.com/shirakogenkiproject

東京都 檜原村　齊藤　隼人

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
３６歳
【出身地】
東京都練馬区
【転出元】
東京都福生市
【前　職】
教職員(特別支援学校)
【活動時期】
Ｒ３.４～Ｒ６.３

協力隊に応募したきっかけ

前々から自然が豊かな地域の暮らしに興味があり、檜原村には何度か足を運んでいました。その中で、出会った地域の方の温かさを感じました。

新型コロナウイルスの影響を受けて、前職の職場や日々の暮らしで思うような活動ができない事態に直面しました。その際に、自分の将来や本当やりたいことを考える中で「新しいことにチャレンジするなら今だ！」と決意し、檜原村の地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後は檜原村の環境を活かし、自然と人とを繋ぐ活動をしていきたいと考えています。村内で活動するＮＰＯで活動していく傍ら、自身でも「ひのはらサステナブル」として資源を活用しながらイベントやワークショップを企画していく予定です。

門松の作成をきっかけに、竹の活用に興味をもち、現在、竹の特徴や竹細工を学んでいます。昔から生活のあらゆる場面に竹が活用されてきました。成長が早い竹は、持続可能な暮らしの中で資源の１つになると考えています。

活動内容

●空き家の現地調査

村内の空き家の現地調査で、家屋の状況(外観)、接道状況、手入れの状況等を確認しています。空き家の所有者に対してアンケートを実施し、今後の空き家の意向を伺い、適切な管理を促すとともに、利活用の事例紹介や空き家の登録に関する補助金等を案内しています。

●物産展・地域交流等イベント

新型コロナの影響を受けて中止となっていたイベントも、２年目から徐々に再開されてきました。

村外のイベントでは、地域おこし協力隊として檜原村に移住して感じた、村の魅力や特産品を通じて、檜原村と村外の地域を繋げられるよう、ＰＲ活動をしています。

●資源の利活用と継承

長年にわたり門松を作ってきた方に教えていただきながら、門松作りを行いました。村内で材料を調達し、活動の合間を縫いながら、およそ一ヶ月をかけて作成しました。教えていただいた方の言葉に「準備が８割」というものがあり、表面からは見えない準備が大切であることを学びました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）muradukuri@vill.hinohara.tokyo.jp
（電話番号）042-519-9556

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（檜原村地域おこし協力隊Facebook）
https://www.facebook.com/hinohara.chioko.tokyo/

東京都三宅村　沖山　拓也

① 移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
29歳
【出身地】
東京都練馬区
【転出元】
東京都練馬区
【前　職】
保健師（看護師）
【活動時期】
R5.10～R8.10

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍に保健師として仕事をしているうちに命と向き合う場面が多く心が疲れていました。コロナ禍が落ち着いてきた頃を目途に「一度は別の仕事に就こう、東京を離れたいな。」と思いました。三宅島は父方の出身で地縁があり、なおかつ憧れであった田舎暮らしも実現できる場所だと考え、三宅島で仕事を探しました。その時に協力隊について知りました。父は「育ててもらった島に恩返しを出来なかった。」とよく話していたため、協力隊として自分が島に来ることで父の思いも果たせる、と応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

三宅島は噴火の度に人口が大幅な減少を続け、父の幼少期に比べると3分の１程度になってしまいました。しかし、何度噴火があっても地元の方は帰ってきますし、なにがしかの事情で帰れなくても父のように強い愛島心に溢れる方がいます。それだけの魅力とポテンシャルが三宅島にはあると、移住者の人たちも言います。火山噴火への畏怖とそれを含めた三宅島の魅力を発信し、移住・定住の促進、人口減少を食い止めたいです。また任期後は元実家の土地を利用し起業したいと考えています。

活動内容

●島ぐらし体験事業

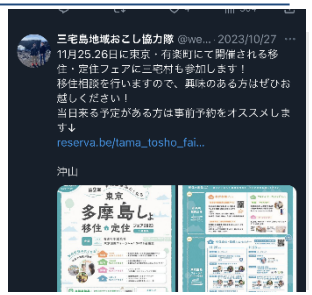
年に２～３回実施。1週間程と他自治体の移住体験事業と比べ長期間の宿泊が可能。移住検討者を対象にしているため、観光よりも島内の事業所体験や見学、住宅見学をメインに内容を組んでいる。応募フォームやチラシの作成、参加者との連絡調整、内容の検討、事業所間調整等を役場とともに実施。

●移住相談会

島ぐらし体験事業同様、年に２～３回都内にて実施。協力隊に赴任したばかりのため参加できていないが、以前に相談者として参加。役場、観光協会と連携し相談会の他に物販等も実施。

●SNS情報発信･メルマガ発信（仮）

X（旧Twitter）の発信は先輩の協力隊と実施中。
次年度以降、島外の方に向けたメルマガの発信を新たな事業として予定。現在はメールマガジン原案作成等に取り組んでいる。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））miyake.okositai@gmail.com
（電話番号（職場））04994-5-0984

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（X【旧Twitter】）@welcome_miyake

神奈川県真鶴町　松木 一平

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
31歳
【出身地】
神奈川県真鶴町
【転出元】
神奈川県小田原市
【前　職】
コミュニティカフェ店長
【活動時期】
R４.８～

協力隊に応募したきっかけ

生まれも育ちも真鶴町ですが、進学を機に町外で生活していました。真鶴町へのUターンを意識したのは、メインの商店街で多くの店舗にシャッターが降りている光景を目にした時です。「このままでは故郷が無くなってしまう」という危機感を抱き、何かできないのかと模索している中で地域おこし協力隊の募集が目に留まりました。「自分の故郷を守りたい」という一心で、迷わず応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

高校卒業後は調理師専門学校に進み、その後、300年の歴史がある京料理和食レストランで修行を積みました。
その後、自分のやりたい方向が見つかり、機動力を活かすために独立し、コミュニティカフェの運営に携わってきました。
地域のコミュニティづくりやマネジメントの経験を活かし、故郷である真鶴町を、再び活力ある希望溢れる町とするため、サテライトオフィスやワーカー誘致に全力を傾けて業務に取り組んでまいります。

活動内容

●真鶴町の地域課題の把握・分析

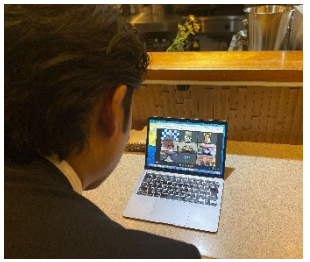
サテライトオフィス誘致活動に向けて、行政や町内事業者など様々な立場の方々から地域課題をヒアリングしています。
ヒアリングした課題をもとに、誘致すべきターゲット企業を選定し、誘致に向けてのアプローチを実施します。

●進出検討企業との商談

真鶴町に興味を持つ企業から、事業内容や真鶴町でやりたいことなどをヒアリングしています。
ヒアリングの内容をもとに、連携出来る進出検討企業と調整し、真鶴町に視察に来ていただきます。

●マッチングイベントの運営サポート

株式会社あわえや総務省が主催する、地方進出に興味がある企業とサテライトオフィスを誘致したい自治体とをマッチングするイベントがあります。マッチングイベントには真鶴町も出展するため、プレゼン日に向けて準備をしております。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））matsuki@awae.co.jp
（電話番号（職場））0465-68-2543

facebook　Instagram

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook　https://www.facebook.com/profile.php?id=100085972556691
Instagram　https://www.instagram.com/awae_manaduru/?hl=ja

石川県珠洲市　森田　貴志

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
３２歳
【出身地】
兵庫県西宮市
【転出元】
東京都渋谷区
【前　職】
商社/総合職
【活動時期】
Ｒ５.１～Ｒ７.１２

協力隊に応募したきっかけ

行政や地域のことを深く知ることができると考え応募しました。当時、将来は自然豊かな土地に住み、友人と会社をつくり、家族と人間らしい暮らしがしたいと考えていました。いわゆる地方にはどのような課題があり、何が求められているのかを知る必要があると考え、地域おこし協力隊での働き方を検討しはじめたのがきっかけです。
珠洲に移住することを先に決め、地域おこし協力隊の募集があったので迷うことなく応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

今後の抱負は「まずやってみる」です。
令和６年１月１日に能登半島地震が発生しました。震災後、何事もやりながら考えなければ前に進まないのだと実感しました。「まずやってみる」ことで知識や技術を学び、自分にできることを少しずつ増やしていきたいです。

活動内容

●U･Iターン相談窓口

移住相談をワンストップで受付し、「住まい」「仕事」「子育て」等のテーマに応じた対応をしています。また、震災により市外で暮らしている方に向けた相談窓口や、今後の珠洲を考える意見交換会も実施しています。今後は、関係人口を増やせるような活動を考え、実施していきます。

●住みやすい居住環境の充実

空き家所有者の相談窓口となり、空き家バンクの登録受付業務を行っています。また、住まいをお探しの方へ物件を紹介しています。震災により市内の住宅は甚大な被害を受けました。今後は、市民や移住希望者へ住まいの選択肢を提案していけるように活動していきたいです。

●子育て･教育の魅力向上

里山里海を活かした自然体験や、子どもたちの主体性を活かした探究学習など、学び合いの機会づくりを促進しています。震災により市外で暮らしている子育て世代もいて、再び珠洲で子育てがしたいと思えるような環境を、子育て世代の皆さんとともに創っていきたいです。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス：iju@city.suzu.lg.jp
電話番号：0768-82-7726
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram：@suzu.ijufront
・珠洲発暮らしのウェブマガジン「すっとずっと」

石川県　宝達志水町　池田　勝

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
44歳
【出身地】
大阪府大阪市
【転出元】
大阪府大阪市
【前　職】
建築・不動産関係
【活動時期】
R4.11～R7.10

協力隊に応募したきっかけ

前職での経験を活かし、何か役に立つ仕事に就けないかと模索していたところ地域おこし協力隊での移住コーディネーター募集に目が留まりました。
その後、移住体験に来た際に宝達志水町の素晴らしさに感動し、そこで即決致しました。

今後の抱負･任期後の目標

移住・定住に関わる仕事を続けて行きたいと思っています。協力隊の任期は３年ではありますが、地方への移住の需要・重要性は今の活動を通じて今後益々必要となってくるものであると実感しております。任期後もそういった仕事に携わって行きたいと考えています。

活動内容

【空き家の発掘】

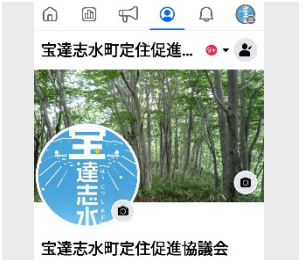
宝達志水町への移住を検討されている方へ、住まいのご提案として町内の空き家を活用して頂く為に、町内の空き家所有者様へ売却や賃貸での活用を促進しています。

【アテンド業務】

地方移住を検討されている方々に、宝達志水町を見に来て頂き、豊富な自然、町の方々との交流の機会を設け、町の素晴らしさを体験して頂きます。その為に、宝達志水町には滞在中にお泊り頂ける「暮らし体験の家」をご用意しています。

【SNSでの情報発信】

町外の方々へ、宝達志水町の素晴らしさを少しでも宣伝する為に、日頃の様子、イベントの開催、空き家情報など様々な情報を日々SNSで発信しています。



連絡先

（メールアドレス)ikeda@bunanomori.com
（電話番号）080-8992-4972

【facebook】
https://www.facebook.com/hodatsushimizuteiju

滋賀県彦根市　原田　佳美

移住定住担当

基本情報

【年　齢】
40歳
【出身地】
大阪府枚方市
【転出元】
大阪府枚方市
【前　職】
別海町地域おこし協力隊
【活動時期】
R5.1～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

元々北海道の別海町で移住定住担当の協力隊員として活動していましたが、コロナ禍を経て、実家との行き来のしやすい関西圏へ戻ることを検討していました。その際、彦根市地域おこし協力隊の募集を見つけ、北海道で学んだことを生かせるのではないかと考え、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

彦根への移住を検討される方が増えるような、観光ではない、普段の生活や日常が伝わるような「暮らす目線」の情報発信を心掛け、彦根の魅力や住みよさを伝えていきたい。

任期後に定住できるよう、自分に何ができるのか考えていきたい。

活動内容

●移住ポータルサイトの運営、パンフレット再編作業

移住希望者向けポータルサイトの運営。
先輩移住者のインタビューやエリアの紹介、補助金等の情報の更新等。
移住希望者向けサポートパンフレットの再編、発行。

●移住希望向け「ひこね暮らし見学会」開催（予定）

12月2日開催予定の移住希望者向けツアーの企画、運営。観光とは一味違う目線で市内の城下町エリアを街歩きしながら、空き家等の活用事例見学や、空き家の内覧、起業等に関する事柄のセミナーなどを開催。
移住ツアー以外でも、常時オーダーメイドでの案内も受付ており、申込みがあれば対応している。

●彦根市の魅力発信

・SNSを利用した彦根市の魅力の発信。イベント情報だけでなく、日々の生活など彦根の暮らしが伝わる発信を行っている。
・移住フェアへの参加による魅力周知
移住フェアなどに出展（滋賀移住交流促進協議会の一員として参加）し、彦根市や滋賀の住みよさや魅力を周知している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））ijusokushin@ma.city.hikone.shiga.jp
（電話番号（職場））0749-30-6101
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

京都府舞鶴市　原田　翔太

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
30歳
【出身地】
広島県広島市
【転出元】
神奈川県秦野市
【前　職】
(株)日産自動車
新車開発・車体設計
【活動時期】
R4.10～R7.9

協力隊に応募したきっかけ

子育てをきっかけに妻の実家のある京都府北部への移住を決意しました。
仕事を探す中で、せっかくだからその場所でしかできないこと、地域に関われること、知り合いが増えそうなことをやりたいと考えていたところ、移住相談をしていた京都移住コンシェルジュさんから紹介いただきました。
自治体の雰囲気が良かったことと、受け入れ業者の(一社)KOKINの活動に興味を持ったことも決め手の一つです。

今後の抱負・任期後の目標

舞鶴市を若者のエネルギー溢れるまちにしたいと考えて、活動しています。学生をはじめとした若い人が何か挑戦をしたいと思った時に相談やサポートができるような場所を作っていきたいです。また、研修の開催など、学びを通した人との繋がり作りも今以上に広げていきたいと思います。

活動内容

●合同新人研修：舞鶴同期会の企画運営、講師

2023年度から、舞鶴同期会という市内事業者の合同新人研修を企画運営しています。初年度から10社から20名程度参加いただいており、参加者からも事業者からも大変好評のプログラムになっています。若手の繋がりづくりはもちろん、最終発表として自社のことを新人が発表できるようにすることで、将来的に学校などで若い職員が自社を紹介し学生の市内企業への就職を促進することも狙いです。

●市内中学校高校の探究学習のサポート

舞鶴に3校ある高校全てと、7校ある中学校のうち5校に対し、探究学習のサポートや進路講演などを行うなど関わりを持っています。中学生がチャレンジカフェを開くサポートや、高校生とビーチコーミングの企画、地域を知ってもらい何かできることを考えてもらう授業など、要望に応じて生徒と地域をつなぐ取り組みをしています。

●西駅自習室の開催

西舞鶴駅で生徒が時間を潰す場所がないという声を聞いたため、使用されていない駅内の会議室を自習室として使ってもらう取り組みをしています。本年度はテスト期間と長期休暇の一部のみですが、4高校から58名の生徒が利用登録をしており、リピーターもいます。勉強の質問や進路相談も受け付けます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人))shota.harada.0925@gmail.com
(電話番号(個人))080-3173-3332

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(X)https://twitter.com/Sho_Maizuru
(Instagram)　https://www.instagram.com/shota.harada.39/

広島県廿日市市　田崎　裕司

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
35歳
【出身地】
広島県広島市生まれ
大阪府高石市育ち
【転出元】
東京都新宿区
【前　職】
アパレルEC経営
【活動時期】
R5.9～

協力隊に応募したきっかけ

ビジネススクール時代の友人が地域おこし協力隊になったことをきっかけに地域おこし協力隊に興味を抱き、廿日市市の地域おこし活動の存在を知りました。
私の実家がある広島市に隣接し、世界遺産の宮島があり、自然も街も両方楽しめる廿日市市の暮らしに魅力を感じました。また、個人事業主として活動しているので、兼業できることも応募の決め手になりました。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】
空き家バンクの運営に携わっており不動産を扱うため、様々な専門知識が関わってきます。暮らしに関わることの知識を深め、地域への移住・定住をトータルでサポートできる人材になりたいです。

【任期後の目標】
不動産売買や相続・登記関係など専門性の高い分野においても相談に乗ることができる存在になりたいです。

活動内容

●空き家バンクの運営サポート

「空き家バンク制度」は、主に一般の不動産業者の介入がない中山間地域などの空き家を、市を通じて紹介し、市に移住したい人に空き家の情報を定住するシステムです。
宅地建物取引業者と連携しながら、売りたい人と買いたい人をマッチングできるように活動しています。

●地域セミナー・勉強会への参加

空き家を把握するためには、地域の方の協力が必要不可欠です。地域の方にも空き家に関する理解を深めてもらい、地域全体で取り組めるように空き家に関する勉強会を開催しています。
私自身もまだまだ勉強する側ですが、今後は発信する側になれるように取り組みたいです。

●移住定住イベントへの参加

広島県主催「オールひろしま移住フェア(有楽町)」に参加し、県外の方に広島と廿日市市の魅力を伝えました。私自身も大阪や東京といった都市部で暮らしていた経験があるため、自身の経験談を交えながら地域移住に関するアドバイスができればと心がけています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））h.chiikishienin@gmail.com
（電話番号（職場））0829-72-1112

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（はつかいち空き家バンクHP）https://hatsukaichi-akiyabank.com/
（廿日市地域支援員ブログ）https://201community-supporters.com/

佐賀県武雄市　山崎　裕次郎

移住定住促進

基本情報

【年　齢】
30歳
【出身地】
東京都武蔵野市
【転出元】
東京都武蔵野市
【前　職】
大学研究員
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

１、おもしろそう
「ふるさとビデオクリエイター」という内容で武雄市は地域おこし協力隊を募集しておりました。これまでアフリカの人々の暮らしに密着した研究をしており、その経験を今度は武雄の暮らしで活かせると思い応募しました。
２、嫁ターン
妻が佐賀県出身で、将来は妻の地元で暮らしたいと考えており、佐賀にゆかりもない私はまずは地域おこし協力隊で地域とつながりを作りたいと思ったためです。

今後の抱負・任期後の目標

１、武雄に移住者を増やす
武雄っていいところ！を動画で発信しております。動画を通じて、いってみよう、住んでみようとなる方が増えることを目標にしています。
２、だれもが交流するゲストハウス
武雄にとりあえず来てほしいので、宿泊ハードルの低いゲストハウスを造り、地元の方も気軽に来れる空間にして外からも内からも交流できる空間を作る準備をしています。

活動内容

●活動内容　武雄の魅力発信YouTube

武雄の魅力が詰まったYouTubeチャンネル「たけおんちゃんねる」に毎週動画をあげています。
動画の企画、取材、撮影、編集、アップ、チャンネル管理を全て1人ですることで、伝えたいメッセージを動画で直に伝える活動となっています。

●活動内容　インスタグラム版「たけおんちゃんねる」

YouTubeが主な活動ですが、より手軽に情報を発信する媒体として、インスタグラムも運営しています。
内容は武雄のいまが分かる！を軸に、イベントや美味しいグルメ、おすすめのお店などを紹介しています。

@TAKEON_CHANNEL

●活動内容　動画による伝統文化保存･紹介

武雄には浮立や流鏑馬など、多くの伝統的な文化がある傍ら、映像として残っていない、古い映像のままになっているものも多いです。そのため、動画制作の活動の中で、武雄の伝統文化を撮影、紹介し、多くの方に知ってもらい文化保存の一助となる活動をしています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））yamazaki.yujiro@gmail.com
（電話番号（個人））090-9647-7560
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

YouTube

Instagram

@TAKEON_CHANNEL

熊本県和水町　森田　真理絵

移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
３４歳
【出身地】
福岡県大刀洗町
【転出元】
福岡県大刀洗町
【前　職】
介護福祉士
【活動時期】
Ｒ５.９～
（１年目）

協力隊に応募したきっかけ

福岡県の大刀洗町というのどかな田舎町で育ち、幼いころから家族で熊本にキャンプや川遊びに来ていました。そのことがきっかけで自然に興味を持ち、将来は熊本に移住したいと考えるようになりました。
和水町を訪れ人の温かさや自然の豊かさを知り、この魅力をより多くの人に発信したい、町を盛り上げたいという気持ちが強くなり応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、「和水町移住定住支援センター」の業務運営体制の充実を図るべく近隣の市町村や役場、不動産と連携し取り組んでいきたいと考えています。
「空き家バンク」の登録件数を増やすことで移住希望者の選択肢が増え空き家の解消にも繋がると思うので、移住者の目線で積極的に業務に取り組んでいきます。

活動内容

●移住センター勤務

和水町菊水ロマン館の敷地内にあるエアストリーム内にて空き家の紹介やお試し暮らし住宅の案内、移住相談対応など、移住定住の相談窓口として、サポートを行っております。

●お試し暮らし住宅

町外から移住を検討されている方を対象に、和水町での暮らしを具体的にイメージしてもらうため、お試し暮らし住宅を整備しています。
ご利用者様の入退去対応や住宅の整備、除草作業、近隣のスーパー、温泉施設の紹介、地元の移住者との交流など様々な角度から支援させて頂いております。

●空き家バンク・調査

和水町内の販売(賃貸)できる住宅を所有されている方から依頼を受け、物件情報を「空き家バンク」へ登録していただき、協力隊による物件調査を行います。その後、物件情報をネット上に掲載し、移住定住希望者に対し内覧対応を行うなど、家を売りたい方買いたい方を繋げるマッチング業務に従事しております。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス）rokkyman.52.m.m.m@gmail.com

(移住センター)　0968-79-7535

沖縄県久米島町　新井　健太

① 移住・定住促進

基本情報

【年　齢】
34歳
【出身地】
埼玉県飯能市
【転出元】
埼玉県所沢市
【前　職】
団体職員
【活動時期】
R3.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

朝ドラ「ちゅらさん」を観て以来、沖縄の離島に住むということが夢でした。その夢を叶えたいという想いで移住を決断しました。
前職では地元事業者と関わる業務に携わっており、地域とつながる仕事にやりがいを感じていました。その中で、地域おこし協力隊の制度を知り、地域に密着した活動に興味を持ったことが協力隊に応募したきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

今後の抱負は、多くの人やモノと久米島をつなぐことです。久米島にはたくさん魅力が詰まっており、一番の魅力は人の温かさです。特に久米島出身の方の久米島への想いは、久米島の活力となる可能性を大きく秘めていると思います。移住してきてからこれまでたくさんの人に支えられてきたので、任期終了後は島の方の想いをカタチにしていきたいと考えています。現在、今後の目標に向けて島内で就職活動中です。

活動内容

●移住相談

久米島移住を検討している方の相談を対面、電話、メール、オンラインで対応しています。来島して相談される方向けには、生活のイメージを深めてもらえるよう「オーダーメイド型移住体験サポート」を実施しています。また、都心で開催される移住イベントに参加し、移住希望者の拡大を図っています。

●移住関連の情報発信

久米島移住に関する情報をまとめた移住ガイドブックを作成し、移住相談で使用するほか移住促進団体などに設置しています。HP「島ぐらしガイド」では“くらし”・“住まい”・“しごと”の情報を中心に発信中。島内のコミュニティFMラジオ局では、移住に関する番組を担当しています。

●コワーキングスペース仲原家の活用

職場の仲原家は琉球古民家でコワーキングスペースとしても開放しています。一般的なコワーキングスペースとは異なり、開放的で日常の喧騒から離れた空間となっています。月に2回、定住支援の一環として、移住者がつながりを作る交流会に活用いただいています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）info@shimagurashi.net
（電話番号）098-894-6488

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（島ぐらしガイド）http://shimagurashi.net/

02 不動産利活用

宮城県栗原市　三浦 大樹

不動産利活用

基本情報

【年　齢】
43歳
【出身地】
宮城県栗原市
【転出元】
宮城県仙台市
【前　職】
会社員（建設会社）
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

大好きな地元、栗原市のために働きたい一心で協力隊に応募しました。きっかけになったのは約10年前、母校の岩ケ崎高校が無くなるかもしれないという噂を耳にした事です(現在も無くなっておりません)。母校と地元が大好きだった私は、寂しさと共に帰郷して地域に貢献したい気持ちを強く持ちました。それからUターン移住までの間に独学でwebのスキルを習得、地域に愛されるクラフトビール醸造所を設立する事を決め、協力隊に応募。妻と当時1歳の子どもと共に移住しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年、地域に愛されるクラフトビール醸造所を設立します。資金、技術、経験がどれも無くゼロから立ち上げるため、地域の方と一緒に造り上げる事が出来るのが強みだと考えております。協力隊になってからお会いする方全員にクラフトビール醸造所を造りたいとお話しし、大変多くの方に応援をいただいております。地域の皆さんと一緒に、「どうやったら地域に愛されるか」を考え、地域のお店や会社、ブランドとコラボし栗原市の素晴らしさを発信していきたいと考えております。

活動内容

●商店街の新規出店のサポート

六日町通り商店街シャッター開ける人！として、新規出店のサポートを行っております。先輩協力隊の活躍もあり、シャッター商店街から8年で21店舗の新規出店、2021年はばたく商店街30選に選出されるという実績を残しております。

●商店街のイベントの企画・運営

商店街の集客イベントとして春から秋にかけて定期的にイベント実施しております。中でも40年続く「くりこま夜市」は、一時期は来場者が少なすぎてイベント自体を止める案が出たところから、本年は一回あたり1万人の来場者を記録するまでになりました。

●クラフトビール醸造所立ち上げ

商店街のシャッターを自身でも開ける活動として、クラフトビール醸造所を造ります。地域の高校によるラベルデザインや、農家さんに協力していただき特産品であるお米を原料にする等、地域みんなで造るビールを目指します。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））daiki.miura0521@gmail.com
（電話番号（個人））080-3325-2823

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）https://www.facebook.com/daiki.miura.142/

新潟県三条市　佐藤　芳和

不動産利活用

基本情報

【年　齢】
34歳
【出身地】
新潟県三条市
【転出元】
東京都荒川区
【前　職】
RFA(2014-2021)
,and Sato Architects主宰
(2021-)
【活動時期】
R4.8～活動中

協力隊に応募したきっかけ

大学進学・就職で東京に15年ほどいましたが、独立し、自身の建築設計事務所をはじめ、今後のライフスタイルをどうするか考えていたタイミングで、地元である三条市で空き家対策をミッションとする協力隊を募集しているのを見つけたことがきっかけです。空き家というのはまさに建築の領域そのものであり、その活用方法を考えることは街の将来につながります。これまで培ってきた建築・都市に関する専門性・キャリアとも親和性があり、地元にも貢献できると感じたため、協力隊への応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

自身の設計事務所で建築設計を行いながら、引き続き三条市のまちづくりに関わっていきたいと考えています。協力隊に着任してまもなく、燕三条エリアの民間プレイヤーを中心に空き家対策を行う団体である(一社)燕三条空き家活用プロジェクトの設立、商店街の空き家を改修・活用した「三-Me.」の立ち上げ支援を行いました。また前職では建築の設計だけでなく、地方自治体のまちづくりやエリアビジョンの計画立案にも携わってきたので、キャリアや経験も活かし、地元三条市のまちづくりに貢献していきたいと考えています。

活動内容

●空き家相談窓口対応

空き家の所有者が抱える金銭面や利活用、相続等の悩み・相談を建築や不動産の専門家として専門知識を元に一緒に解決していきます。必要に応じて、提携する各種専門家・団体への橋渡しも行っています。

●空き家等の流通・利活用・管理・除却の促進

空き家バンク等を通じた空き家等の市場流通や補助金等による活用・除却の支援、マッチング後の利活用しやすい環境の整備などを市の関係部局や提携団体と連携しながら取り組んでいます。

●空き家の解消に向けた啓発や発信

空き家問題は所有者・関係者等が「自分事」として考えることが解決の第１歩となるため、イベントの開催や広報物・ステッカー等を作成し、継続的に打ち出すことで、空き家に対する市民の意識啓発に取り組んでいます。

●自治会へのヒアリングによる空き家の掘り起こし

民間の空き家対策団体と連携し、自治会長・民生委員に自治会内で把握している空き家調査を実施しました。市内にある空き家の可視化を行い、所有者に空き家相談窓口や空き家バンクの利用を促しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス：職場）kankyo@city.sanjo.niigata.jp
（メールアドレス：職場）vh.worker@gmail.com
（電話番号：個人 ）090-1453-3894

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（燕三条空き家活用プロジェクト）www.tsubamesanjo-akiya.jp/
（,and Sato Architects）www.and-sa-to.com

03 観光・情報発信

岩手県花巻市　坊迫舞香

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
30歳
【出身地】
滋賀県甲賀市
【転出元】
滋賀県甲賀市
【前　職】
IT企業
【活動時期】
R3.09～R6.09

協力隊に応募したきっかけ

今までに約20カ国の国を旅行し、改めて日本の良さ、価値に気がついた。自分が大好きな日本をもっとたくさんの海外の方に知ってもらいたい、日本で日本の良さを未来に残すビジネスがやりたいと思い、日本全国で場所を探していた。前職の出張で花巻市に訪れ、自分の夢を地域の方に語ったところ、「花巻でやりなよ」と言われたことが移住のきっかけ。花巻市の協力隊の制度は柔軟で、スタートアップに使えると思い応募した。

今後の抱負・任期後の目標

アドベンチャーツーリズム×バケーションレンタルを組み合わせたビジネスモデルを展開する。

活動内容

●ぼうまい村フェス　10hectareclubの開催

自分が1年間で感じた花巻（東和町田瀬）の魅力を限りなく詰め込んだ音楽フェスを企画。参加者でもちつきを行い、くるみもちを作ったり、ひっつみをふるまったり、神楽、和太鼓など地域に根付く文化を県外の方に体験してもらった。約100人規模のイベントとなった。

●ぼうまい村　農作業体験（のための研修）

ぼうまい村の特産品を作りたいと思い、庭に野生でも生えているホップ栽培を始めた。隣の遠野市は日本有数のホップの産地であるため、そちらで研修を受け、自分の村で栽培を開始した。そのほか蕎麦や夏野菜を栽培し、農作業体験をイベントにして、実施した。

●ジビエに関する取り組み（狩猟免許取得）

花巻市では駆除対象でしかないイノシシやシカに価値を感じ、ジビエに関する事業に取り組むため狩猟免許を取得した。

連絡先

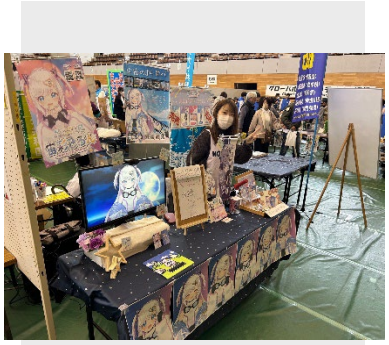
【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））info@hugmapache.com
（電話番号（個人））080-8341-3976

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（HP）https://bomaimura.com/

秋田県能代市　尾崎　和代

観光・情報発信

基本情報



【年　齢】
３４歳
【出身地】
秋田県能代市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前　職】
フリーランス
（イラスト等）
【活動時期】
Ｒ５.２～Ｒ８.１

協力隊に応募したきっかけ

私は子育てをしながらイラストの仕事を細々としておりましたが、安定した収入のために再就職を考えるようになりました。幼い子どもが2人いるため、再就職にあたっての優先事項は『子育てのしやすい環境』でした。
能代市は待機児童がおらず保育園へすぐに入園できるといった点や、私の地元であるため市内近隣に頼れる親族や友人たちがいるといったことから、仕事をしていても子育てのしやすい環境であると考え、まずは移住先を能代市に決めました。
移住先決定後に能代市の就職先を探していた際、以前知人が地域おこし協力隊として活動していたことを思い出し、能代市の地域おこし協力隊を調べたところ募集中の枠を見つけました。
条件としても良く、イラストのスキルなども活かせると考え、応募に踏み切りました。

今後の抱負・任期後の目標

私の担当は『宇宙のまちづくり』です。
現在は 宇宙のまち×Virtual Projectとして、Vtuber「宙彩しろん」を主体としたSNS活動を市内外に向けて発信しています。ゆくゆくは宇宙のまち・能代のお土産品の開発や観光ガイドパンフレットの作成、また、市内の小中学生に向けた宇宙の学習会などを行い、子どもたちに宇宙への興味関心をもっと持って頂きたいと考えております。

活動内容

●宇宙のまち×Virtual Project

Vtuber「宙彩しろん（そらいろしろん）」による能代市のＰＲプロジェクトです。キャラクター名の剪定にあたっては、市内の小中学校および一般向けに公募をおこない、1615件もの応募をいただきました。
能代市は、ＪＡＸＡ能代ロケット実験場があることから、宇宙のまちづくりを進めております。
宙彩しろんによるXやYouTube等のＳＮＳでの能代のＰＲ情報発信のほか、市内で行われるイベントとのタイアップにより、能代市の宇宙のまちづくりを盛り上げています。

連絡先

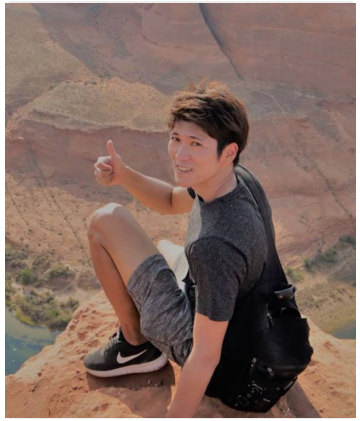
【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（能代市担当））katsuryoku@city.noshiro.lg.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（X）https://twitter.com/UVP_Noshiro
（YouTube） https://www.youtube.com/channel/UCQV2OwZTTN-JO1d3KDpKxiw

茨城県　永松　裕士

③観光・情報発信

基本情報



【年　齢】
27 歳

【出身地】
東京都 港区

【転出元】
神奈川県 川崎市

【前　職】
楽天グループ株式会社

【活動時期】
R4.5～

協力隊に応募したきっかけ

楽天グループで培った起業家精神を基に、地域が抱える課題をビジネスの手法を用いて解決をしたいと思い、茨城県北起業型地域おこし協力隊に応募。

豊富な海外経験、語学力、映像企画・製作力を活かし、茨城県北地域の外貨獲得に貢献したいと考えている。

今後の抱負･任期後の目標

行政や企業からの請負型事業をするだけではなく、地域の小規模事業者・伝統文化事業者と連携して、「メディア×EC」プラットフォーム事業を確立させること。

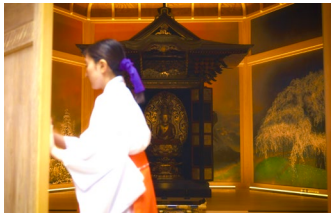
今後の外貨獲得市場No.1市場であるインバウンド需要の波に地域を巻き込んで、活性化を促すことが目標。

活動内容

●インバウンド向け　地域ブランディング事業

適切なマーケティング・ブランディング戦略の構築、それに基づいた映像製作・チャンネルの運営を包括的に遂行。

「綺麗な景色」や「インフルエンサー頼み」の端的なプロモーションではなく、インバウンド層の「伝統・文化的体験」欲を満たす、コンテンツを展開。



●国内向け行政プロモーション (観光･移住･ブランディング)

単発のコンテンツを展開し、再生回数に応じて一喜一憂するのではなく、市が掲げるブランドメッセージ設計、ターゲット設定、コンテンツ企画製作、メディアの運営を包括的に担当することによって、地元民のシビックプライドを向上させ、地域の活性化を図る。

●伝統文化･工芸品の海外プロモーション/商品プロデュース/EC販売事業（準備中）

伝統文化や伝統工芸に携わる小規模事業者と連携して、海外富裕層の需要にマッチした商品のプロデュースからプロモーション、販売まで伴奏し、収入・後継者不足の課題を解決する。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】 contact@monotalk-studio.com

（メールアドレス（個人or職場））contact@monotalk-studio.com
（電話番号（個人or職場））090-4246-7346

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
www.monotalk-studio.com

群馬県渋川市　長沼　未希

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
26歳
【出身地】
山梨県都留市
【転出元】
山梨県都留市
【前　職】
飲食店勤務
【活動時期】
R1.8～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

学生の頃から「地域に密着して地域の人と一緒に仕事がしたい」と思っていました。前職を辞め、地元に戻ったタイミングで地元で活躍する地域おこし協力隊員と出会い、地域おこし協力隊とは何か、活動を通しての地域との関わりなどを聞いていく中で「私のやりたい仕事はこれだ！」と思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

2019年から始まり５年目となった協力隊生活も残り半年を切りました。今年は地域の方々とNPO法人を立ち上げ、イベントの企画をする傍らでコミュニティカフェをOPENさせるべくＤＩＹを進めています。このカフェは任期後の勤め先となり、デザイン事務所も置かせてもらえることとなっています。残りの任期は自分の任期後に向けて準備をしていくとともに、協力隊のうちにもっとたくさんの人脈を作っておきたいと思っています！

活動内容

●イベント企画・お手伝い

市で開催する大きなイベントから地域の人が開催する小さなイベントまで幅広く携わっています。自分自身でもイベントを企画したり、運営や撮影、チラシのデザインなど様々な形でお手伝いをしています。今年はほぼ毎月主催イベントを開催してきました。

●情報発信

情報発信に必要な魅力発掘、写真・動画の撮影から自分で行ない、Instagram、X、Facebook、YouTube、ウェブサイトなどの様々な媒体での情報発信をしています。また、物産展や県内外のイベントにも参加し、渋川市のPRを行なっています。

●デザイン

イベントのチラシやポスター、地域商品券、物産展のPOP等のデザインをしています。また、協力隊の情報発信用ウェブサイトもデザインし日々更新しています。今年は「伊香保女子旅」というパンフレットも制作しました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス個人）ngmk5190@gmail.com
（電話番号個人）090-9299-8279

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（webサイト）https://shibukawakyouryoku.wixsite.com/mysite
（Instagram）https://www.instagram.com/_ngmk__/

東京都三宅島三宅村　　落合　直翔

観光・情報発信

基本情報

【年齢】
29歳
【出身地】
埼玉県所沢市
【転出元】
神奈川県平塚市
【前職】
小松製作所
【活動時期】
R3.7～活動中

協力隊に応募したきっかけ

昔から自然や離島が大好きで、自給自足への憧れがあり、いつか島暮らしをするという夢がありました。移住前は重機メーカーに勤めていたのですが、休日に遊びに行った”三宅島の地球の力強さを全身で感じられる大自然”に惚れてしまい、移住を決断しました。そこで三宅島の地域おこし協力隊の募集を見つけ応募したのがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

三宅島でゲストハウスをオープンしたいです。
魚突きが得意なので、自分が採った魚でお客さんをおもてなしします。

活動内容

三宅島では雄大な星空が広がっており、星空ガイドをしたりSNSを活用して、その魅力を伝える活動をしています。
また東京都内のイベント時には動画やプレゼン資料を作成し、星空だけではなく、三宅島全体のPR活動を行っています。

①星空ガイドの広告

②都内でのイベント時の
三宅島PR活動の様子

連絡先

メールアドレス（個人）：naoto.ochiai.0610@outlook.jp
電話番号（個人）：090−9000−8057
【活動の様子を発信しているSNS】
https://www.facebook.com/Miyakemura.muraokoshi?locale=ja_JP
https://www.instagram.com/welcome_miyake/?hl=ja
https://twitter.com/welcome_miyake

石川県小松市　デイビス・グレアム・ダグラス・スタイン

③観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
28歳
【出身地】
イギリス　ロンドン
【転出元】
東京都世田谷区
【前　職】
AI inside
【活動時期】
R5.9～

協力隊に応募したきっかけ

小松市は、美しい自然、美味しい食べ物、多種多様な産業や生産に恵まれた知られざる街です。
定期的にこの地を訪れ、地元の人々と触れ合うなかで、小松を国際的なデスティネーションとして発展させるために、努力したいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

クラフトやフードチェーンに携わる情熱的な人々と、一流の海外のシェフ・アーティスト・インフルエンサー、食やアートに関心のある日本人を結びつけるプラットフォームを作りたいです。
GEMBAで繋がった生産者・職人・会社と一緒に、そして個人で企画しているイベント「ishinoko」を通して海外から学びに訪れるお客様向けのコンテンツを引き続き企画したり、そのブランドを展開していきたいと考えています。

活動内容

●インバウンドのお客さんに魅力的な体験を構築

海外からのお客様に、小松の魅力を知っていただけるようなプログラムを考えています。
さらなる小松の魅力を発掘したり、コンテンツ制作やプロモーションや翻訳など、海外からのお客様を受け入れるためのさまざまな業務を行っています。

●食関連の生産者やシェフのプログラムを充実

個人で企画しているプロシェフを招くプログラムをGEMBAに連携。小松の食に携わる生産者や酒造を訪れ、小松の美味しいものを知って学べる内容として展開しています。

●通年プログラムをよりスムーズに参加できるように

駅や空港に来た観光客が、年間を通じて小松のものづくりを知ることができ、すぐに参加や見学ができるようなプログラムを構築しています。

連絡先

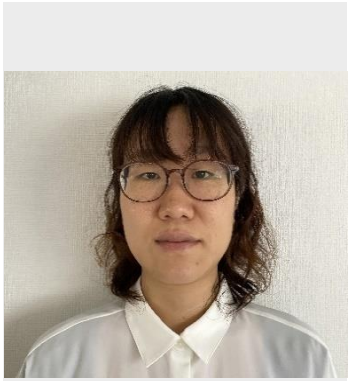
【メディア等の取材連絡先】

grahamdsdavies@gmail.com
080-2121-9416
www.ishinoko.jp

石川県小松市　山田　彩加

③観光・情報発信

基本情報



【年　齢】
33歳
【出身地】
愛知県清須市
【転出元】
愛知県清須市
【前　職】
株式会社伝泊プラス工芸
【活動時期】
R５.１０月～

協力隊に応募したきっかけ

ものづくりの街として発展してきた小松市は四季折々の景色が見られ、文化的にも非常に興味深いです。 前職が宿泊業で観光分野に関心があったことに加えて、私自身もものづくりが好きなので、今回応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

過疎化が進んでいる大杉町でキャンプなどアウトドアができる場所を開拓し、交流人口を増やす取り組みをしたい。

活動内容

●GEMBAモノヅクリエキスポの事務局

GEMBAモノヅクリエキスポの事務局としてエキスポを盛り上げていきます。各事業所のお手伝いをします。

●商品開発,販路支援　KAKEDASUの立ち上げ

各事業所それぞれの想いを聞いて、商品開発を支援します。

●通年プログラムの増設

エキスポイベント以外で通年プログラムの開催できる事業者の支援をしていきます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人）) sagoyama3521@gmail.com
（電話番号（職場）） 050-1809-0007

石川県　内灘町　河合 祐輔

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
石川県金沢市
【転出元】
石川県金沢市
【前　職】
飲食店勤務・フリーカメラマン
【活動時期】
R5.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

これまでの経験を活かし、地域活性化に貢献できればと思い応募しました。
また、子育てのしやすい環境を考えたところ、子育て支援が充実していること、自然が豊かで公園が多いこと、金沢市までのアクセスが良いこと等、全ての環境が整っていた内灘町に移住したいと決めました。

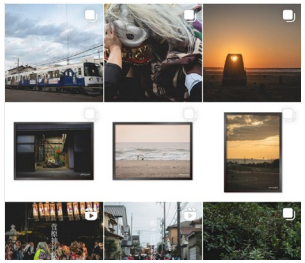
今後の抱負･任期後の目標

写真や映像を通して地域住民との交流を深めながら、国内外に内灘町の魅力を発信していきたいと考えています。
任期後については、カフェの経営を考えており、観光客と町民が気軽に訪れることができる憩いの場を作りたいと考えています。

活動内容

●情報発信、ＰＲ

SNSを活用した内灘町の魅力発信を行っています。
観光地として有名どころはもちろん、あまり知られていない観光スポットなどを紹介しています。
また、町や地域のイベント等の撮影も行っており、多くの方々と関わる機会が多いため、学ぶことが沢山ありとても刺激になります！



●観光ボランティアガイド

内灘町観光案内所にて、観光案内やレンタサイクルの貸し出しを行っています。
訪れる方々に満足いただけるよう「おもてなしの心」を大切にしながら日々業務に取り組んでいます。
内灘町に遊びに来られた際は、みなさん是非立ち寄ってくださいね！

●みにくるツアーガイド

内灘町の観光スポットをみにくる（ＥＶミニカー）で周るツアーガイドを行っています。
河北潟にある雄大な牧場や夏には内灘海岸等を周遊でき、美しい景色を満喫できます。
みにくるを通して、多くの方々に内灘町の魅力を感じていただけるよう頑張ります！

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）kawai.utok@gmail.com
（個人電話番号 ）080-4254-9496

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/kawai.utok/

長野県大町市　大崎 凌

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
33歳
【出身地】
富山県魚津市 (実家)
【大学時代】
石川県野々市市
【転出元】
岐阜県大垣市
【前　職】
精密加工業 正社員
【活動時期】
R05.08～R08.07(予定)

協力隊に応募したきっかけ

以前から、イベントで出会った別の地域の協力隊員の活動に憧れていました。今でも人として尊敬しています。
色々あり前職を辞めようとするも転職先が決まらず、最後の望みで協力隊に応募したら内定を頂いたので決めました。
ブラタモリみたいなことが好きなので今の仕事が合っています。
地方創生に以前から興味があったこと、旅行が好きで各地を実際に見ていたこと、信頼できる仲間から応援されたこと、これらが自分を後押ししました。

今後の抱負・任期後の目標

地域の方々と積極的にコミュニケーションして大勢の信頼を得る。活動にも積極的に参加する。
コーヒー焙煎の修行をして腕や知識レベルを上げる。
個人事業主になり無店舗でコーヒー豆をネット販売する。
株式会社を立ち上げて、コーヒー焙煎をベースとしたカフェをオープン。インバウンドから地元の方々までが集える場所にしていく。
自治体を超えて広域に、カフェや環境に関するイベントを開く。サステナブルアウトドアブランドを立ち上げる。

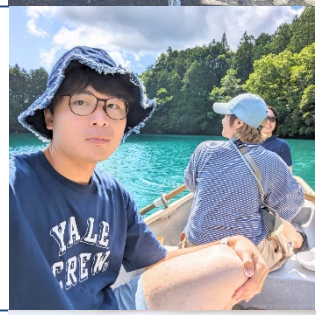
活動内容

●アーカイブ化事業

「信濃おおまち みずのわプロジェクト」の主テーマとして、大町市内に点在している「水」に関する情報を整理してわかりやすい状態にすることで、教育・観光・移住など多方面で誰もが簡単に使える状態にしていきます。立ち上げからなので試行錯誤中です。

●取材とSNS発信 (Instagram:@mizunowa_omachi)

「大町の水」をテーマに、地域の企業・店・農家・サービスなどを取材して発信しています。地域全体を底上げ的に活性化するのを目指しています。それ自体が自身の勉強にもなります。
動けるうちに動いておくことが、地域にとっても自身にとっても未来への投資になると信じています。



●地域交流・イベントや団体への参加

業務の内外問わず、大町市周辺の行事や団体に参加するようにしています。自分から動けば周りが巻き込んでくれます。興味のあるイベントで参加可能なものは、業遠方であっても積極的に参加しています。
活動は随時個人SNSで発信しています。水に関連するものは公式の方でも発信する場合があります。

連絡先

長野県 大町市役所 総務部 企画財政課 企画調整係
信濃大町地域おこし協力隊
TEL：0261-22-0420(内521, 内522)／FAX：0261-23-4304
E-mail：ryo.osaki@city.omachi.nagano.jp
Gmail： swordpraks1990@gmail.com (個人)
Instagram:@tabitabigram (個人)， X:_tabi_tabi (個人)

長野県筑北村　庄司真実

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
東京都江戸川区
【転出元】
東京都江戸川区
【前　職】
農家アルバイト
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

前職の勤め先の農家の方が地域おこし協力隊OBの方で、「地域おこし協力隊」というのがあるよ！と教えていただき、初めて知りました。
長野県内の協力隊を探していて、筑北村の募集を見つけ、地域のために自分もお役に立ちたいと思い、応募しました。
同時に空き家も探していて、不動産屋さんに紹介していただいた家をみて「いいなぁ」と思い、空き家を購入しました。 知り合いもいなく、どういう土地かも分からないまま筑北村にやってきました。

今後の抱負・任期後の目標

私は推し活をしていて、住んでいる地域に推し活ができる場所がありません。だったら自分で作ればいいのでは？と思い、姉と一緒に「推し活ができる飲食店」をはじめます！
お店の名前は【筑北村のスマイリーカフェとにこにこごはん屋さん】です。定食や居酒屋メニューも楽しめます。
おすすめは村唯一のソフトクリームとラテプリントです。
協力隊卒業までにお店を軌道に乗せることが目標です。

活動内容

●観光情報発信

・2022年10月に観光情報を発信するSNS「X（旧Twitter）」「インスタグラム」を開設
・筑北村協力隊Facebook
・安曇野FM
・筑北村てくてくブログ
・TV出演

●修那羅石神仏ガチャ

観光スポットである「修那羅山安宮神社」にある石神仏をガチャにしました！お手軽なお土産、PR、そして神社や石神仏を知ってもらい、大切な文化財の保存につながればと思い、企画しました。
ガチャをした後も楽しめるイベントとして「フォトコンテスト」と「塗装ワークショップ」も開催！
第２弾は令和6年7月27日に発売！

●キャラクター

村にPRキャラクターがいませんでしたが、
昨年の夏に観光課で行った「推し神仏探しスタンプラリー」のキャラクターとして修那羅大天武と猫神様になりたいネコのキャラクターを誕生させました。
村の公式PRキャラクターになれるように育成をしています。

筑北村キャラクター

天舞くん　ちくにゃん

連絡先

観光情報「X」（旧Twitter）　観光情報 Instagram　協力隊 Facebook　協力隊 Instagram　個人「X」（旧Twitter）　個人 Instagram

京都府宇治田原町　高橋　一樹

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
和歌山県　橋本市
【転出元】
大阪府　大阪市
【前　職】
学生
【活動時期】
R3.3～ R6.3
（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

学生時代、大学を休学し、コピーライターとして大阪の出版会社で勤めておりました。1日の多くの時間をPCの前で過ごし、自然が身近にない生活に違和感を感じていました。鹿児島県にある屋久島へ一人旅へ行き、田舎暮らしの豊かさに感化され、田舎の人の温もりや自然の豊かさを感じながら〈生きる選択肢〉を探していました。そんなタイミングで、宇治田原町と出会い、まちの人や自然に魅力を感じて協力隊を応募するに至りました。

今後の抱負・任期後の目標

憧れの生活とはいえ、食べていけなければ活動は続けていくことができません。任期後、生計を立てられる事業を築いていきたいです。また、地域の方々に返せないほどの恩恵をいただいており、なんらかの形でお返ししたいので、自分が生計を立てられるだけでなく、地域の方々に少しでもお返しできる事業を築いていきたいと思います。
また、大阪で仕事をしていた時、生きる気力を失っていた時期がありました。いつか、そんな人たちを温かく迎え入れる環境を作ることができたらと思っております。

活動内容

●観光交流拠点施設「宗円交遊庵やんたん」の運営支援

宇治田原町の観光交流の拠点「宗円交遊庵やんたん」の運営支援として、接客・会計・渉外・在庫管理等を担っています。イベント運営のサポートも任されており、2022年10月に開催された「やんたんマルシェ」では、企画・準備・出展者の呼びかけ等を行いました。

●地域の自然を利用したイベント・講座等の開催

令和3年度・令和4年度には、地域にある豊かな自然を活かした子ども向けイベントを開催。計4回のイベントを開催し、累計33名の参加がありました。今後も地域の自然・文化に触れることのできるイベント等を開催する予定。

●地域の特色を活かした商品開発と情報発信

「協力隊通信」として、地域の観光施設等をインスタやFBで発信中。また、昨年度からの取り組みとして、耕作放棄茶園を整備し茶の実を収穫して〈美容オイル〉を商品化・販売しています。収穫や皮むき等の作業は地域の方々にもお手伝いいただいています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
〔メールアドレス〕shoukou@town.ujitawara.lg.jp（宇治田原町産業観光課）
〔電話番号〕0774-88-6638（宇治田原町産業観光課）
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（協力隊通信）
https://www.instagram.com/ujitawara_kyoto/?hl=ja
https://m.facebook.com/宇治田原町観光情報－150800842112695/

和歌山県御坊市　渋谷　茉央（しぶたに　まお）

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
23歳
【出身地】
大阪府　大阪市
【転出元】
大阪府　大阪市
【前　職】
学生
【活動時期】
R5.4～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

大学時代は、展覧会やアートプロジェクトの企画と運営、SNSを活用した広報活動を経験し、就職活動でもそのような経験と特技を生かすことができる環境を求めるようになり、移住スカウトサービスを通じて御坊市を見つけました。特技と経験が、地方にこそ需要が眠っていることと、自然が身近にある暮らしを自分もできるという可能性を感じ、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

「地域の魅力」や「情報発信」とは何なのか追求しながら、広報活動や面白いことづくりに取り組んでいきたいです。昔から「田舎には娯楽がない」とくくられがちですが、豊かな自然や伝統といった、お金を積んでも手に入れられないような田舎の強みも、暮らし始めてから強く実感しています。「こんな娯楽がありますよ」と提示できるようなモノや人々が絡み合うコト作りをしたいです。

活動内容

●観光資源の開発・情報発信

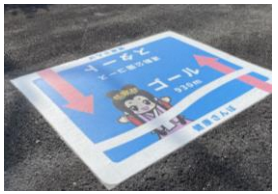
WEST EXPRESS銀河（JR）での車内物販ＰＲ、野口オートキャンプ場でのキャンピングカーオフ会、サイクルフェスタHUBなど各種イベントでの御坊市の物販・観光ＰＲやＳｉｏトープでの鯉の餌ガチャなどの観光体験の開発などに取り組んでいます。

●御坊市観光ＰＲ大使「みーやちゃん」のＰＲ

「宮子姫伝説」の認知度を高めるために地域の方々が作られた　ゆるキャラ「みーやちゃん」の更なる認知度の向上のため、ぬりえコンテストの実施や各種イベントでの出演等を実施しています。
その他、情報発信では、みーやちゃん公式Instagramの運営を開始し、Twitterの運営を引き継ぐなど、御坊市の情報をSNSを中心に発信しつつ、みーやちゃんの認知度向上に取り組んでいます。

●御坊市公共物にかかるモノのデザイン

今年度に新装するマンホール蓋や、市が所有する公園内のウォーキングコースにかかる道路標示、注意喚起の看板といった公共物のデザインにも取り組んでいます。



連絡先

- メールアドレス｜bm-27315@city.gobo.lg.jp
- 電話番号｜0738(23)5531
- Instagram （個人）｜ @shibutanimao
- Instagram＆Twitter 御坊市PRみーやちゃんアカウント（運営担当）｜ @gobo_mi_ya

島根県大田市　西田（髙田） 優花

地域・観光振興

基本情報

【年　齢】
39歳
【出身地】
京都府福知山市
【転出元】
東京都小平市
【前　職】
株式会社オールアバウト
グローバル推進室
【活動時期】
R5.6～現職

協力隊に応募したきっかけ

前職で地方創生／インバウンド・アウトバウンド事業に関わる中で特に日本のさまざまな地域資源の個性が世界にとって大きな価値を有していることを感じ、東京からマクロに働きかける重要性を超え、地域に入りこんでその魅力の再発見と高付加価値化を実施したいと考えるようになったため。

今後の抱負･任期後の目標

温泉津地域のブランド確立と地域資源の高付加価値化を実施し、インバウンド／アウトバウンド双方への取り組みを強化し、スタートアップ地域として未来志向の取り組みに積極的に地域が面となって取り組めるように働きかけたい。

活動内容

●温泉津ブランディング

中国経済産業局 令和4年度「デザインで魅力的な地域に!中国地域プロジェクト」の採択を受け、「地域のブランド」構築を実施。タグラインとステートメントを策定し、地域の各所でのブランディング活動を継続中。

●地域コンテンツの高付加価値商品化

やきもの館での窯元との作陶体験や福光石切場匂いける石像彫師との彫刻体験、地元の若林酒造との日本酒ペアリングを楽しむ夜神楽公演など、地域が持つコンテンツ資源を磨き上げを行う事業のサポートを実施。

●みなとオアシス #湧くで温泉津 立ち上げ

温泉津港は釣り人に愛され夏は花火大会で活用される一方、日常的な港としての利活用が活性ではないため、みなとオアシスとして登録し、ヨット利用者のマリーナとして、また地域振興の朝市活用など可能性の幅を広げていくよう取り組む。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（個人）nishida@genshosha.jp
電話番号（個人）070-8430-6827

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.instagram.com/yukanishida_/

山口県防府市　上原　晴人

③ 観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
30歳
【出身地】
千葉県千葉市
【転出元】
千葉県千葉市
【前　職】
WEBマーケティング
【活動時期】
R5.8.1～R8.7.31

協力隊に応募したきっかけ

「自分のスキル（WEBサイト運営・SEO対策）を活用した仕事」×「社会貢献性が高い仕事」がしたいという思いからローカルメディアというWEBサイトを立ち上げたいと考えるようになりました。ローカルメディアを運営するうえでの問題を解決するための手段として、地域おこし協力隊に注目。
人口や観光コンテンツの充実度、事業者の数、募集要件、サポート体制など様々なフィルターで地域を絞り込んだ結果、双方から見たマッチ度が高い防府市を見つけました。

今後の抱負･任期後の目標

メイン業務をSNSによる情報発信、WEBサイトによる情報発信としています。

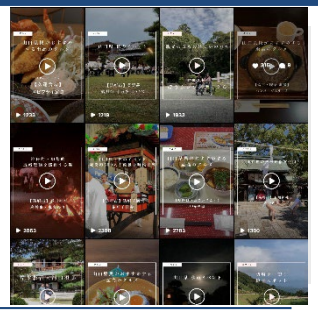
SNSにおける目標は、「取材を通じて地域に詳しくなること」「アカウントを成長させること」「退任後も職員が運用できる体制を作ること」です。

WEBにおける目標は、データ収集を終え基本的なページを作り、まずはサイトを公開することです。

活動内容

●SNSアカウントのグロース

防府を知ってもらうことを目的とします（0→1施策）。そのため拡散性が高く視聴ハードルが低い「短尺動画」による投稿を徹底する戦略を用いています。毎週100-150人フォロワーが増加しており、1動画につき約300いいね、 約3000再生されるアカウントに成長しています。



●新規メディアのリリース

防府に来ることを比較検討している人や実際に防府来た人が簡単に情報を発見できることを目的とします（1→100施策）。
戦略は「オンライン」と「オフライン」の2種類。オンライン施策は検索キーワード対策（SEO対策）。オフライン施策は施設やお店にポスターやPOPなどを設置することを考えています。

既存で観光コンベンション協会の公式サイトがありますが、新規サイトを立ち上げ、棲み分けをし上原個人に帰属させています。「1.個人サイトならではの細かな立ち回りができること」「2.退任後も職員の負担になることがなく自走できること」が本施策の特徴です。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
■メールアドレス（個人）　www.haruto.uehara0804@gmail.com
■メールアドレス（職場）　h.ueharahofukan@gmail.com
■電話番号（個人）　080-5017-5078
■電話番号（職場）　0835-25-2148
■ほうふもうら　https://hofu-moola.com/
■インスタグラム　https://www.instagram.com/tabitabi_hofu/

愛媛県四国中央市　大廣　将也

観光・情報発信

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
愛媛県四国中央市
【転出元】
高知県土佐市
【前　職】
観光協会職員
【活動時期】
R4.4～(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

「日本一の紙のまち」である四国中央市では、観光の仕事はないと諦めてきた人生でした。2019年大学卒業後、新卒で旅行会社に就職するも2020年、新型コロナウイルス流行により退職しました。観光協会職員に転職してからも、観光事業の制限が緩和されず、地元での転職先を探していく中で協力隊の募集に出会いました。観光促進がミッションの協力隊が募集されており、地元の観光を外からの移住者に任せるのではなく、地元出身者が盛り上げるべきだと考え、協力隊の応募を決意しました。

今後の抱負･任期後の目標

高校卒業後、7年間を県外で過ごしたのちに帰ってきた地元は落ち着く場所であり、今後も楽しく人生が送れる場所であると確信しております。3年目や任期後も、自分らしく地元で楽しんでいる姿を発信し、移住希望者や次期地域おこし協力隊にとって移住したい場所の選択肢にしてもらえるよう活動していきたいです。

協力隊の任期中は、自分のやりたいことを実行してミッションを遂行していますが、任期後は地域や次世代のサポートをしていきたいと考えております。

活動内容

●地域資源を活用したイベントの企画･運営

「日本一の紙のまち」四国中央市が誇る手漉き和紙の文化、香り高い新宮茶、豊かな自然環境等を活かしたイベントを企画・運営し、観光促進に努めています。«これまでの実績»
・四国中央市フォトロゲイニングin新宮
・手漉き和紙×新宮茶体験　　など

●愛媛大学、川之江高等学校と連携した観光促進

愛媛大学「観光文化論」の授業でゲスト講師を務め、受講生100名から新宮で観光促進に繋がる体験型イベント案と観光MAPリニューアルの意見を募集しました。観光まちづくり分野を学ぶ大学生と観光MAP作成を、母校の川之江高等学校で結成された【川高協力隊】とは協働して新規体験プログラム造成を行っています。

●移住フェアへの参加、協力隊募集オンライン説明会の開催

首都圏で開催されている移住フェアに参加し、移住希望者へ四国中央市のPRを行いました。次期協力隊募集にも力を入れています。また協力隊募集に関して、個別でオンライン説明会を開催することで、遠方からでも協力隊に関心のある方が応募できるよう、努めています。

連絡先

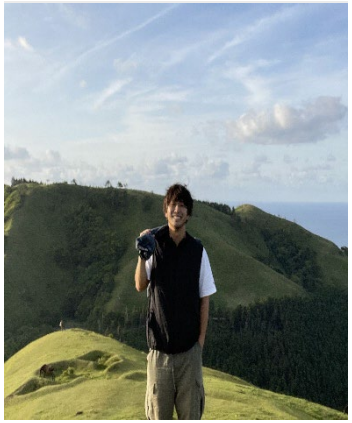
【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（職場）　MAIL:m.ohiro@city.shikokuchuo.ehime.jp
電話番号（職場）　TEL:0896-28-6410

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（四国中央市地域おこし協力隊Facebook）
https://www.facebook.com/chiikiokosi.shikochu

高知県　安芸郡　東洋町

③ 観光・情報発信

基本情報



【年　齢】
26歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
東京都世田谷区
【前　職】
人材系
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

自然と共に暮らしていきたいと昔から考えていました。そのきっかけは小さいころ週末に釣りや虫取りに両親に連れて行ってもらっていたからだと記憶しています。
しかし、中々踏ん切りがつかない中で東京で開催された「高知県移住フェア」に参加しました。偶然、東洋町のブースでお話を聞き、仕事内容や人そして自然など私自身が探しているものとマッチングしたことで協力隊に応募、移住のきっかけとなりました。

今後の抱負･任期後の目標

地域おこし協力隊としては、観光案内所としての更なる機能強化(情報の発信方法、動画コンテンツ拡大)を図っていきます。また、海上アスレチックの利用者増の為に広報や規模拡大にも力を入れていきます。そして新たな地域活性化の足掛かりになる新しいコンテンツ発掘に他の隊員と協力しながら尽力していきたいと考えています。
任期後の展望としてはまだ明確なものはなく、様々な事に挑戦し選択肢を広げている最中です。これからも新たな可能性を模索していきたいと考えています。

活動内容

●海上アスレチック運営

人材確保から海上アスレチックの設置撤収営業まで一気通貫で行っています。地元の方々と協力しながら海上アスレチックを通じて東洋町の魅力を発信することができ、今では夏の東洋町の名物となっています。

●野根川オートキャンプ場運営

令和4年5月にOPENした「野根川オートキャンンプ場」の管理・維持を他の隊員と協力しながら行っています。常に利用者様に気持ちの良い思いをして帰っていただくをモットーに心がけています。最近ではキャンプ場予約サイトで高知県内3位に入るなど徐々に知名度も広がってきています。

●観光案内所業務

観光案内所の役割として観光案内や町の情報管理、HPの更新等を積極的に行っています。
SNS運営も行っており、町の魅力が詰まったショート動画を作成し、発信していくことにも力を入れています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））kanko@toyo-kochi.com
（電話番号（職場））0887-23-9500

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（あああああ）https://　　ＱＲコードも可

04 商品開発・販売

北海道石狩市　竹林　秀

商品開発・販売

基本情報

【年　齢】
24歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
東京都杉並区
【前　職】
法律関係
【活動時期】
R5.3～

協力隊に応募したきっかけ

学生時代のころから厚田のことを知っており、よくドライブに来ていました。特に聚富から見える夜景に惚れ、10年後ぐらいには住みたいなとざっくり考えていました。タコ飯を作っている方とは以前から知り合いで、東京から帰省するたびにお邪魔していたのですが、実はタコ飯の後継者を地域おこし協力隊として募集しているんだよねというお話を聞き、厚田に住むなら今ではないかと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

来年からは通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。また、最も重要な拠点づくりに関しては、大きなお金がかかること、屋根の修復等専門な知識が必要なこと等多くの困難があります。協力隊後を見据え、いつでも住むことができるように冬の間に計画を立て、来年までには使えるような状態にするために専門的な知識や資格の習得や、拠点づくりに取り組んでいきたいです。また、来年も引き続き地域との交流を深めて顔を覚えてもらいたいです。

活動内容

●地域の特産品（「タコ飯」の継承）

石狩市初めてのミッション型地域おこし協力隊として、地域の特産品「タコ飯」の継承を中心に活動しています。とはいえ、地域の方とも接したくて協力隊になったので、まずは地域のイベントや他の協力隊のイベントに参加、お手伝いすることを中心に活動しています。

ミッションであるタコ飯も一通り一人で作れるようになりました。二年目からはタコ飯を作る速度のスピードアップとともに、タコ飯の課題解決、拠点づくりを手がけていきたいです。

タコ飯は一通り作れるようになりましたが、活動していく中で課題が多く出てきました。まずはタコ飯を作るスピード、次にタコ不足、最後に最も重要なものが拠点づくりです。来年からは一日300個を一人で作れるようにスピードを上げること、今年は8月でタコが無くなってしまったので、通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））r2303001@city.ishikari.hokkaido.jp
（電話番号（職場））0133-78-2020

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（フェイスブック）https://www.facebook.com/vladimir.lewis.39

宮城県気仙沼市　田島　愛莉

④商品開発・販売

基本情報

【年　齢】
22歳
【出身地】
群馬県伊勢崎市
【転出元】
群馬県伊勢崎市
【前　職】
大学生(2023年卒)

【活動時期】
2023年4月～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

ふるさとワーキングホリデーで気仙沼を訪れた際、気仙沼の人の温かさと挑戦に満ち溢れた環境に心惹かれ、移住を考えるようになりました。気仙沼に移住するなら基幹産業である水産業に関わりたいと思っていたところ、気仙沼水産資源活用研究会について知りました。「気仙沼の豊かな水産資源に新たな価値を見出し、若者が帰ってきて働きたくなるような産業をつくりたい」というビジョンに魅力を感じ、気仙沼水産資源活用研究会の協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

【今後の抱負】kesemoの事務局としてkesemo PR活動を行うと共に、水産業に関する知見を深めていきたいと考えています。

【任期後の目標】任期後のビジョンは、明確には決まっていませんが、「水産業」×「教育」によって気仙沼の魅力を地元の子どもたちが再確認できる機会の提供や他地域への発信を行っていきたいです。

活動内容

●気仙沼水産資源活用研究会(kesemo)事務局

気仙沼の水産資源から新しい価値を創造するために、地元企業20社以上の知恵と思いを結集させた水産加工製品ブランド「kesemo」の事務局として活動しています。主に、各WGや役員会など会議の開催・記録を行っています。また、市内イベント等に参加し、研究会の取組紹介や開発商品のPRにも力を入れています。

●学生ボランティアとして活動

教育に関心があり、大学生の時は中学校で学生ボランティアとして活動していました。気仙沼に移住してから、教育に関わる機会はあまりありませんが、気仙沼ESD（持続可能な開発のための教育）を中心として地域資源を積極的に活用する気仙沼の教育に魅力を感じています。そのため、任期中から市内の教育に携わる方法や機会を模索しています。

●ぬま大9期生として活動中

「気仙沼で何かやってみたい」そんな想いをもつ若者が、約半年間、”自分を知ること”と”地域とつながること”を大切にした全６回の講義を通して、自分が気仙沼で実行するプラン（＝マイプラン）をつくりあげていくプログラム「ぬま大」に参加しています。
気仙沼に移住し、水産業に関わっていく中で、「気仙沼と地元群馬をつなぐ活動がしたい」「内陸地域の子どもたちが魚や海を身近に感じ、興味を持つきっかけを作りたい。」という気持ちが芽生えました。現在は、「やってみたい」を実現させるためのアクションに取り組んでいます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）contact@kesemo.com
（電話番号 ）気仙沼市産業部水産課内　0226-22-3435

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
気仙沼水産資源活用研究会（kesemo）　https://kesemo.com

石川県　金沢市犀川地区　山部　裕太

商品開発・販売

基本情報

【年　齢】
32歳
【出身地】
北海道小樽市
【転出元】
北海道札幌市
【前　職】
銀行員
【活動時期】
R４.４～R７.３（予定）

協力隊に応募したきっかけ

地域おこし協力隊をやりながら、将来の夢を叶えられると思ったことがきっかけです。カレーの聖地金沢でカレー屋を起業したいという夢があり、一旦は金沢の一般企業への就業を考えていたのですが、偶然地域おこし協力隊の募集を見つけ、選択肢の１つとして捉えるようになりました。金沢に初訪問した際に、募集地域を視察する機会をいただき、地域の方の温かさや、山手の自然豊かな環境に感動しました。自分の思い描くカレー屋のビジョンが浮かび、応募に至りました。

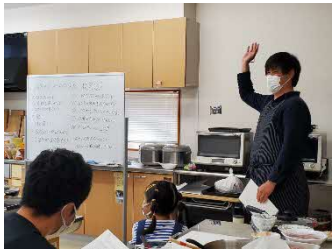
今後の抱負・任期後の目標

カレー屋起業に向け、物件探しをはじめ、綿密な経営計画を立てていくことが目の前の課題です。そのためには、地域資源の再発見や情報発信、地域の方々とのコミュニケーションは欠かせません。また、スパイスカレー教室やこども食堂「みんなのカレーハウスさいがわ」の運営、「さいがわスパイスカレープロジェクト」の推進といった「カレーで地域おこし」事業にも力を注ぎたいと思います。

活動内容

●山ちゃんのスパイスカレー教室

地域の方々に、スパイスから作る「スパイスカレー」を知っていただきたいという想いで始めました。10月末現在で計８回実施しており、対象は地元の小学生と保護者の方で、「食育」もテーマにして行っています。また、地域の方や農家さん等のご協力のもと、色々な取組に挑戦しています。



●こども食堂「みんなのカレーハウスさいがわ」

2023年6月から開催している、スパイスカレーを中心としたカレー専門のこども食堂です。地域住民であれば誰でも参加可能で、これまでに３回開催し、毎回予約は満席でした。地域の方から寄付いただいた野菜を使い、美味しいカレーを食べながら多世代交流を図るのが目的です。

●さいがわスパイスカレープロジェクト

「犀川地区を表現したデカ盛りのスパイスカレーを作ろう」というコンセプトで、今年４月から始めました。地元のデザイナー、陶芸家、料理好きの方々、金沢大学の学生をメンバーに構成し、アイデアを出し合いながら着々と進んでおります。先日、ＮＨＫで放送もされ、完成へ期待が高まります。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））saigawa.kyoryokutai@gmail.com
（電話番号（個人or職場））080-6099-3712

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタグラム）https://www.instagram.com/saigawa_kyoryokutai

SAIGAWA_KYORYOKUTAI

長野県塩尻市　竹内　桜咲子

商品開発・販売

基本情報

【年　齢】
24歳
【出身地】
福岡県那珂川市
【転出元】
福岡県那珂川市
【前　職】
漆器製造会社勤務
【活動時期】
R5.10～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

・もともと漆器に興味があり、伝統工芸の専門学校（専攻：漆工芸）に進学し、漆器職人を目指していた。
・専門学校時代に塩尻市の漆器工房にインターンシップで訪れており、当時から木曽漆器に興味を持っていた。
・前職の漆器産地は徹底した分業制だったこともあり、職人として下地から仕上げまでの技術習得をしたいという思いから、別の産地での修業を検討していた。
・漆器の魅力を同世代に広めていきたいという思いがある。

今後の抱負・任期後の目標

活動期間中は、師匠となる産地の熟練職人から漆塗り技術を学び、漆器製造の一連の基本技術を身に付けるべく研鑽を積んでいきたい。また、日々の活動や木曽漆器に関連する情報発信を通じて、木曽漆器の認知度向上や同世代へのPR役割を担っていきたい。

任期後も定住し、一人の木曽漆器職人として産地の仕事をしながら自分の作品も作っていくことで、産地の後継者となることを目指す。

活動内容

●国指定伝統的工芸品「木曽漆器」の技術習得

木曽漆器産地の「職人の高齢化」「後継者不足」「技術継承」といった課題解決のため、産地の卓越した技術を持つ熟練職人のもとで、下地から仕上げまで一連の漆器製造技術の習得を目指す

●木曽漆器の認知度向上のための情報発信

・日々の修業の様子をSNS発信で情報発信
・漆器の製造工程や技術を紹介する動画制作

●地場産業振興のためのPRイベント参加

・市のブランド発信のための県外イベント等に参加し、漆塗りの実演や来場者に木曽漆器の魅力を伝えるアテンド等を行う予定

※画像はイメージです

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））bamboonosato_19@yahoo.co.jp
（電話番号（個人or職場））080-9051-0884

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.instagram.com/kisoshikkicooperator_/

京都府和束町　田中　美代子

商品開発・販売

基本情報

【年　齢】
44歳
【出身地】
京都府城陽市
【転出元】
東京都江戸川区
【前　職】
販売スタッフ
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

茶農家の「作り手の思い」をたくさんの人に伝えていく取組みに携わりたいと思った。和束町の風景はとても美しく、長い年月をかけて大切にされてきた茶畑に、和束町に住む人々の「丁寧な生き方」を感じた。そんな和束町で今ある和束町の魅力の中に、和束町民が当たり前すぎて気づけなかったものを見出し、観光に訪れる観光客の方々に和束町の温もりを感じていただけるようPRしていきたい。

今後の抱負・任期後の目標

和束町の地域おこし協力隊としての任期中、そして任期後の一町民となった後も、私のライフワークとして行う全ての行動目的が「和束町の魅力に惹かれ、気付き、移住とUターンで戻ってくる町民人口を増やす」こと。和束町には茶農家さんをはじめ、様々な分野で「作り手」として、そして、未来を創造していく力を持った素敵な人たちがたくさんいる。インターネットを使い、和束茶の魅力をより多くの人に発信できる能力と、日本文化としてのお茶の知識を得るために日本茶インストラクターの資格取得を目標に掲げる。

活動内容

●和束茶カフェ

和束茶カフェにて、和束町内の茶農家さんが生産されたお茶を陳列。お客様の好みに合ったお茶を選び、購入いただくことで、和束茶の魅力発信や顧客満足に努めている。

●茶源郷見聞録

お茶の歴史、文化、作り手の想い、楽しみ方、品種など和束茶産業の様々な情報を発信するWEBサイトを制作。

●イベントへの出店

人一倍大きな声で、積極的な呼び込みで多くのお客さんの注目を集め、たくさんの人々に和束茶を手に取ってもらっている。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））chiikiryoku@town.wazuka.lg.jp
（電話番号（個人or職場））0774―78-3002

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

高知県大豊町　岡本　裕太

④商品開発・販売

基本情報

【年　齢】
34歳
【出身地】
群馬県富士見村
【転出元】
山口県下関市
【前　職】
大手食品メーカー
【活動時期】
R3.11～R6.10

協力隊に応募したきっかけ

昔からやりたかった狩猟の仕事をするために
唯一、ジビエの地域おこし協力隊を募集していた
大豊町への移住を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

自ら捕獲した鹿の角を使ったアクセサリー、ペットフードの製造販売をしてジビエで生計を立てる。
有害鳥獣の被害を削減できるように今後活動エリアを広げ、技術を向上させる。

活動内容

●野生鳥獣の捕獲～加工販売

自作の罠を使い、鹿・猪などの野生鳥獣を
生け捕りにし、解体から加工まで一貫製造を行っている。（現在研修中）

●有害鳥獣駆除
地域からの要望を受けて、田畑を荒らす有害鳥獣を駆除する。

●アクセサリーの制作
捕獲した鹿の角を有効に活用するためアクセサリーとして指輪、ピアスなどに加工し販売している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））gibierlabo0604@gmail.com
（電話番号（職場:大豊町役場））0887-72-0450

【活動の様子を発信しているSNS】
（インスタグラム）

05 地域コミュニティ活動

北海道乙部町　長尾　寛

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
39歳
【出身地】
北海道乙部町
【転出元】
東京都渋谷区
【前　職】
会社員
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

東京で暮らしていたのですが、いつかは地元に戻って地元の為に出来る仕事をしたいと考えていました。コロナウィルスの感染拡大をきっかけで、仕事を退職し、地元に戻ってきました。

今後の抱負・任期後の目標

現在行っている活動を続けながら、他の道南地域の協力隊と連携し、乙部町、道南全体で移住、定住、交流、関係人口増加に繋がるような活動をしていきたいです。

活動内容

●見守り・配食サービスの実施

一人暮らしの高齢者を対象した見守りや配食サービスを実施している。

●モルックの普及活動

障がいの有無に関わらず、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方ができるスポーツとして近年注目されているフィンランド発祥のスポーツ「モルック」を健康づくりの一環として普及させる活動を行っている。

また、今年度より地域の方々と一緒に「乙部町モルック協会」を立ち上げ、大会を開催するなど、地域の方々と一緒に交流を深め、モルックの普及活動に努めている。

●任意団体「to be O market」によるイベント活動

町内の農家や事業者などの有志が集い、地域を盛り上げる活動を行っている任意団体「to be O market」（トゥービーオーマーケット）のメンバーとして、地域を盛り上げる様々なイベントを開催している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））h.nagao53@bz04.plala.or.jp
（電話番号（職場））080-8293-9923

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.facebook.com/otobe.ciikiokoshi/

山梨県　都留市　宇田川絵里香

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
３５歳
【出身地】
大阪府豊中市
【転出元】
東京都調布市
【前　職】
個人事業主
【活動時期】
R４.６～R７.５

協力隊に応募したきっかけ

幼少期から引っ越しや観光などで様々な土地を訪れることや、都市と田舎の里山のどちらにも住んだ経験があります。自然を身近に感じられ地域との関わりを持てるライフスタイルを確立したいという想いや、自身が地域活性に貢献できる仕事や活動ができることを理想としていた経緯があり、地域おこし協力隊募集に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後も学びや気づきを得られる機会を作っていくことや地域の様々な分野で活躍されている方と連携したプログラム運営にもチャレンジしてみたいと考えています。
所属している(株)つるでつながるのビジョンに共感しているため、大人も子どもも共に育ち合うまちを都留市の魅力である豊かな自然や個性豊かなプレイヤー、大学生など幅広い人々とつながり合いながら形にしていくことが今後の目標です。

活動内容

●コワーキングコミュニティの運営

地域の交流センター内コワーキングスペースの利用受付やイベントの企画運営を行っている。ただの作業場ではなく地域の人と学生と移住者をつなぎ、新たな仕事を生み出し、仲間どうしで共有しあう。そんな交流の拠点をハブに様々な人と人がつながり合うことを大切にしています。

●地元大学生と連携した企画運営

活動拠点のすぐ側にある都留文科大学の学生をインターン生として受け入れており、学生が将来の働き方や生き方の選択肢と可能性を広げるきっかけとなるようなイベントや移住者インタビュー記事の作成などを共に企画・運営している。例：ゆる～く将来について考えよう／国際協力のお仕事を知ろうなど。

●ママフリーランス養成講座

活動を通じて在宅で仕事がしたい、自分の持つスキルを活かしたはたらき方がしたいと考える子育て中の方がいらっしゃることを知り共に成長しあえる学びの場・コミュニティを運営。フリーランスとして仕事をしていくための基礎づくり、実践を始める機会を提供しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））erika.uda@tsuru-tsunagaru.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.instagram.com/teraco_tsuru/
https://note.com/tsuru_tsunagaru/
https://tsuru-mikke.com/

石川県羽咋市　久郷 愛

⑤ 地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
52歳
【出身地】
富山県富山市
【転出元】
富山県富山市
【前　職】
医療事務派遣社員
【活動時期】
R4.11～R7.3
（任期満了予定）

協力隊に応募したきっかけ

美術大学で現代工芸を学んだあと、関東圏で就職。30代後半にふるさと富山県にUターン。旧友の誘いで飲食業に就き、のめり込むように食の現場を楽しみながら経験を積む。私たちが口にする水や食材の質、生育歴の良し悪しに関心を持つようになり、オーガニック、有機栽培、自然栽培を学び始める。羽咋市は自然栽培に力をいれており、自然農でビジネスを実践する友人の紹介があって協力隊に応募。

今後の抱負･任期後の目標

現在在籍している鹿島路町には西洋蜜蜂・日本蜜蜂の養蜂家がおられ、非加熱の天然蜂蜜を採取し販売されている。単花蜜の採取拡大に向け、遊休農地を活用し完全無農薬の花畑の育成や植樹を計画されている。オーガニックを軸とした考え方に深く共感を覚え、養蜂の補助作業など教わりながら開始。並行して他県のクラフトミード業者にOEMでオリジナルミードの製造企画を持ち込んでいる。企画を叶え任期後の独立の契機としたい。

活動内容

町会事業1 紅はるか栽培と加工品販売

令和3年度に開始の町会が取り組むサツマイモ事業。協力隊1年目（令和4年度）秋の収穫作業が初仕事。紅はるか品種の道の駅での店頭販売開始と、加工品としてサツマイモの甘酒、鹿島路産りんごの甘酒、焼き菓子など露店営業のスタイルで提供を行う。パッケージデザイン・ロゴデザインなども手掛ける。

町会事業2 紅はるか栽培に農機導入

協力隊2年目（令和5年度）サツマイモ事業に農業機器を導入するため、クラウドファンディングを立ち上げ目標額を達成した。本年度の収穫作業に導入が間に合い稼働開始。作業効率が格段にあがり、人員削減に一役買った。

鹿島路産蜂蜜をつかったミードの商品開発を目指す

他県にあるクラフトミード工房見学時の様子。鹿島路町の養蜂家オーナーの協力のもと、OEMによるオリジナルミードづくりの企画進行中。各道の駅・レストラン・酒屋への営業はじめ、ふるさと納税品の登録を目指す。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（個人）kugohagi@gmail.com
電話番号（個人）　090-5178-4029

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

@KASHIMAJI_ANTENNA

奈良県奈良市　寺尾　志保

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
41歳
【出身地】
神奈川県大磯町
【転出元】
神奈川県大磯町
【前　職】
観光　イベント運営
【活動時期】
R3.9～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

任用前より何度か奈良市へ訪れる機会があり、地域に対して親しみや魅力を感じおり、地域の課題解決や魅力発信に貢献したいと考えていた。
その中で、自身が得意としているフィットネス活動やイベント運営を通して、地域内の高齢者の見守り活動や、活動サポートを実施することで、貢献につながると考え本地域へ応募した。

今後の抱負･任期後の目標

・地域の方が老若男女問わず、気軽に集まれるコミュニティの場の創出

・スポーツクラブ・フィットネススタジオ等の運動を行える施設の設立及び運営

・他地域のイベントに参加し、奈良市東部地域のＰＲ発信活動

活動内容

●高齢者見守り活動

地域内の集会所、公民館を利用した高齢者の見守り活動を企画・運営。
自身の取得資格を活用し、高齢者の健康増進運動を中心としたプログラムを実施している。その他、地域の方が気軽に集まることが出来る文化イベントを主催し、コミュニティ構築に取り組んでいる。

タオルを使った運動

●地域の観光素材の強化

各種イベントに参加し、地域の方とのコミュニケーションを深めるとともに、運営のサポートを行っている。
イベント参加を通して、観光資源の魅力発信や、自身のフィットネスプログラムと連動した企画を立案・実施することで、更なる素材の強化を図っている。

イベントPR活動

●オンラインツールを活用した情報発信

・ＳＮＳを活用した地域イベントや観光資源のＰＲ活動。

・zoomを使用したオンラインフィットネス講座の実施。
→場所や時間に関わらずイベントに参加できる環境の整備。

オンラインでの介護予防教室

連絡先

【連絡先】
奈良市東部出張所
mail: toububr@city.nara.lg.jp
TEL: 0742-93-0001
【SNS 活動報告】
Facebook　https://www.facebook.com/narachiikiokoshi
す・とうぶ　https://www.city.nara.lg.jp/soshiki/31/10562.html(広報紙)

岡山県矢掛町　橋本　宜幸

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
25歳
【出身地】
広島県福山市
【転出元】
広島県福山市
【前　職】
牧場勤務
【活動時期】
R5.5～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

元々、6次産業に関心があり地元の畜産会社に入社しましたが、企業規模が大きく生産にしか携われない状況が続いていました。そこでもっと小規模で個人が生産から加工、販売まで関わることのできる仕事を探しているときに知人から地域おこし協力隊の制度について教えてもらい、大学時代を過ごした岡山県の中で、６次化に関わる募集をしていた矢掛町に応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

限られた時間の中で活動するにあたり、無理に新しいことを始めるのではなく今ある生産物や伝統を活用した特産品作りに取り組みたいと考えています。
特に活動拠点である水車の里フルーツトピアの名前にもある水車を使用した特産品を作ることが目標です。

活動内容

●水車の里フルーツトピアの管理運営

水車の里フルーツトピアという体験農園の管理運営に参加させていただいています。
フルーツ狩りや各種イベントの案内や事務作業、環境整備に加え、自身の企画したイベントを開催することもあります。

●水車の里農園で農作業

水車の里フルーツトピアに併設される農園では苺や葡萄、梨などを始めとする農産物を育てています。植え付けや剪定、収穫など様々な仕事を体験して勉強しています。

●商品開発

水車の里農園を含む矢掛町の産品を使用した商品開発を行っています。
水車の里のある矢掛町車谷という地域では、その昔10を超える水車小屋があったそうです。今では使われなくなった水車を活用した商品を作りたいと思っています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）hashimotoyakage@gmail.com
（電話番号）　0866-83-3423
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
個人　(Instagram)　@hashimoto9820
矢掛町(Instagram)　@yakage_chiikiokoshi

高知県四万十町　井上　佳奈

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
32歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
埼玉県鴻巣市
【前　職】
食品メーカー研究職
【活動時期】
R3.2～R6.1

協力隊に応募したきっかけ

自分のキャリアを見つめなおす中で、より自分が心地良いと思う環境で、ライフワークとなるような仕事をしたいと思うようになった。特に、地域と密接に関わる仕事に興味があり、調べている中でたまたま地域おこし協力隊の制度を知った。地域づくりの活動をしながら、地域資源を活用して起業を目指したいと思い、応募を決意した。

今後の抱負・任期後の目標

・これまで地域で行ってきた活動を、地域に定着させられる形にしていきたい。
・地域資源を使用した商品開発を進め、地域の食材の活用と地域の認知度アップに貢献していきたい。

活動内容

●地域内の交流促進とチャレンジの場作り

地域の規格外食材の販売をメインとしたマルシェを定期的に開催。マルシェでは、地域の住民や小学生が、手作りの飲食物や物品の販売なども行う。地域でのイベントが少なくなる中で、地域住民同士の交流の機会となっている。また、出店を地域住民から募ることで、お菓子や物品を販売をしてみたいという地域住民のチャレンジの場となっている。

●地域について考えるワークショップの開催

高知大学地域協働学部の先生を講師に招き、地域住民と地域づくりについて考えるワークショップを開催。地域づくりについての考え方や進め方、他地域の事例を学びながら、参加していただいた高知大学の学生と役場職員、地域住民の方で、地域が目指していく姿を改めて考える機会とした。

●特産品のショウガを使用した商品開発

四万十町はショウガの生産量が日本一であり、地域では、ショウガを練りこんだかりんとうが食べられている。現在、このお菓子をベースとし、より多くの方に受け入れられる商品づくりを行っている。四万十町の特色あるお菓子として、より多くの方に食べていただくことで、この商品を通じ、特産品の活用と四万十町の魅力を伝えていきたい。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））103050@town.shimanto.lg.jp
（電話番号（職場））0880-22-3124
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
四万十町地域おこし協力隊facebook
https://www.facebook.com/towakyoryokutai

熊本県益城町　吉海 雄大

⑤地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
31歳
【出身地】
熊本県芦北町
【転出元】
熊本県熊本市
【前　職】
熊本大学 特定事業研究員
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

熊本地震が発災した2016年から現在に至るまでに、地元大学の研究員として復興の現場で活動をしてきました。その活動も日常的な住民の方とのコミュニケーションから復興事業へのお手伝いなど多岐にわたってきました。足繁く益城町に通うなかで、インフラ復旧と住まいの再建が復興のゴールになっているのではないかと課題が芽生え、大文字の復興ではない、復興(地域づくり）の在り方を提示する必要があるのではないかと考えました。地域おこし協力隊として、この先10年の暮らしのイメージを地域と一緒に模索しながら、培った経験を地域により還元できる手段として、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

大文字の復興ではなく、地域に根ざした復興(地域づくり)を目指したいと考えています。そのために、断片的になりがちなハード事業とソフト事業の両方に関わりを持ちながら、軸の通ったまちづくり活動の実践を続けていきたいと考えています。地域と協働した活動の結果、町内の暮らしに少しでも貢献できたらと思います。
地域おこし協力隊としての活動の傍ら、益城町で建築デザインの事務所も開設しました。任期後も継続して公共事業へのデザイン・発注協力、地域まちづくりへの伴走支援を行いながら、民間事業者としても積極的な活動を目指しています。半民半官としての動きを維持しながら、町内外、県外にも活動を徐々に広げたいと思います。

活動内容

●公共空間活用プロジェクト

熊本地震後に整備された公共空間を地域の方に愛してもらえるように誕生(竣工)をお祝いしたり、日常の延長につながるイベントを実施したり、地域と協働した活動を行っています。その一部は、熊本地震からの記憶の継承としても位置づけられています。

△木山橋開通記念イベント

△熊本地震4.14のつどい

●公共事業デザインプロジェクト

公共性の高い事業は関係者も多く、未来形を想像するのが困難です。関係の目線を共有するために、与件をヒアリングし、未来のイメージを描き、事業を整える取組みを行っています。イメージはあくまでたたき台で、未来のために訂正を繰り返します。

△K地区施設周辺整備PJ

△T地区広場整備PJ

●まちづくりスクールプロジェクト

まちづくり活動は個人の想いの強さから始まります。一方で、多くの知恵や協力のうえで成り立つとも考えています。企画立案の視野を広げ、実践の質を高めるプログラムの開発を行っています。23年度初開講なので結果は未だですが、持続的な活動を目指しています。

スクール受講のポイント
1）まちづくりへの想いを持った仲間に出会える
2）まちづくりの最前線に関わる講師と学びを高めることができる
3）企画立案の視野を広げ、実践の質を高める技術が身につく
4）提案で終わるだけでなく、実施まで目指す
5）協力隊が伴走支援を行う

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））yoshiikai.yuta@gmail.com
（電話番号（職場[復興まちづくりセンターにじいろ]））096-284-1711
※普段は復興まちづくりセンターにじいろを拠点にしています。
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（協力隊Instagram）右図QRコード
（協力隊FB）https://www.facebook.com/profile.php?id=100082493079756

MASHIKI_KYORYOKUTAI

大分県大分市　中村　浩人

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
58歳
【出身地】
大阪府藤井寺市
【転出元】
大阪府茨木市
【前　職】
・建設会社勤務
・大手テーマパーク管理業務
・ルワンダで活動
【活動時期】
R3.4～R5.3

協力隊に応募したきっかけ

子供たちも独立し、好きな場所で好きなことをして暮らしていきたいという思いがあり、夫婦ともに温泉が大好きなため、大分県への移住を考えていたところ、大分市の地域おこし協力隊の募集を知りました。

これまで従事してきた建築関係のことやボランティア活動、友人を集めて行ってきたイベント活動など、経験を活かして町おこしやコミュニティ活性化に役立つことが出来ればと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

退任後はそのまま大分市大南地域に住んでいます。

任期中に連携して活動していた戸次本町街づくり推進協議会へ入会、紹介いただいた会社へ就職し、引き続きイベント活動やボランティア活動など、地域・社会貢献活動を主に行っています。

活動内容

●イベントの開催など

「戸次本町つきいちマルシェ」
大南地域の特産品、野菜、加工品などを販売する朝市

「蔵（くら）シックコンサート」
蔵ならではの響きで生演奏を楽しめる帆足本家酒造蔵でのコンサート

「戸次本町クロスロードマルシェ」
ルワンダを中心とした多国籍イベント
コンサート、アフリカルワンダのスラムでのお話、アーティストのライブペイント、色々な国の料理、雑貨など多種多様のお店が出店

「戸次本町まちなみ探検隊」
子どもたちに戸次本町のまちなみや、街の人などをデジタルカメラで撮影してもらい、趣のあるまちなみとカメラに興味を持っていただくワークショップ

●地域間交流など

・愛媛県伊方町へ視察
…交流を図り、相互に地域の魅力を発信
・愛媛県伊方町のマルシェ出店
…戸次ごんぼの会商品販売や大分市観光PR

連絡先

【メディア等の取材連絡先（個人）】
（メールアドレス）hirotonakamura3939@gmail.com
（電話番号）080-3591-7352

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）大分市地域おこし協力隊
https://www.facebook.com/oitashichiikiokoshikyouryokutai

鹿児島県南さつま市　橋口　里菜

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
28歳
【出身地】
大分県大分市
【転出元】
大分県大分市
【前　職】
ゼネコン　施工管理
【活動時期】
R5.1～R7.12

協力隊に応募したきっかけ

前職は建設業に携わっており、仕事をしていく中で自分の手でものづくりがしたいと思うようになりました。元々田舎暮らしに興味があったのもあり、漠然と「古民家再生とかいいな～」っと思っていたタイミングで、協力隊制度を教えてもらい調べてみると、ちょうどその時期に南さつま市がコミュニティ大工（まちづくりの視点で行う空き家再生）の募集しており、応募を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

まずはミッションである「おためし住宅（移住体験施設）」を地域と連携してつくることでコミュニティ形成をするとともに、地域の方に空き家問題や人口減少への関心を高めてもらえるようにしたいです。その中で自分のスキルを磨きつつ新たな技術の習得、コミュニティ大工のノウハウを培い、任期後の生活に活かしていければと思います。

活動内容

●空き家を活用したおためし住宅（移住体験施設）

地域の空き家を改修し、移住希望者向けのおためし住宅のオープン・運営を行います。住宅機能だけではなく、イベントスペースも同時に整備することで、地域住民と移住者をつなげる拠点となるように計画しています。

●観光と暮らしの情報発信（協力隊新聞の発行など）

豊かで美しい自然と地域に根付いた行事、観光情報をSNSを中心にPRしています。移住者側の目線で、外部への発信はもちろんのこと、地域住民に向けても発信（協力隊新聞の発行など）することで、地域の魅力を再発見してもらえるように努めています。

●”トゥクトゥク“を利用したPRと事業

南さつま市の協力隊は 東南アジアでお馴染みの三輪自動車タクシー「トゥクトゥク」を公用車としており、“動く広告”の役目も担っています。隊員の移動だけではなく、今後は移住者向けツアーの移動車や地域交流イベントなど、活躍の場が増える予定です。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））minamisatsuma.kyoryokutai1@gmail.com
（電話番号（個人or職場））0993-67-0303(清原地区公民館)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/chiiiiikiokoshi_373stm/
（Facebook）https://www.facebook.com/chiiiiikiokoshi373stm

(ポッドキャスト)

鹿児島県南さつま市　堀内　元気

地域コミュニティ活動

基本情報

【年　齢】
40歳
【出身地】
神奈川県平塚市
【転出元】
東京都調布市
【前　職】
コミュニティFMラジオ局
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

3人目の子どもが生まれたタイミングで妻の故郷である鹿児島への移住(嫁ターン)を決断しました。前職のラジオ局では地域に根付いた情報発信の他、観光番組を担当しており、観光や地域情報の発信に興味をもっていた中「情報発信ディレクター(移住定住促進・観光情報)」をミッションとした協力隊の募集を南さつま市が実施していたため、応募しました。

また、家族だけでなく、鹿児島に住む妻の知人のアドバイスも後押しになりました。

今後の抱負･任期後の目標

担当するエリアは限界集落で、現時点で世帯数とほぼ同数の空き家が存在します。「10年後、ここはどうなっているか・・・」という地域住民の不安を少しでも解消できるよう、空き家を有効活用し移住者増を目指します。そのためには『この地のファンをつくること』と考え、この地にしかない、『まだ知らない鹿児島』を発信していきます。

任期後はビジターが留まれるような観光拠点を手掛けたいです。宿泊に加え、飲食・買い物・観光アクティビティが集約された、地域にも愛される施設が目標です。

活動内容

●空き家調査と空き家MAPの作成

活動地域の空き家を調査し、独自の「空き家MAP」を作成しています。目視による建物の状態確認の他自治会長や地域住民から家主や管理者の連絡先等を入手し、空き家の有効活用を相談/交渉しています。

●観光と暮らしの情報発信

豊かで美しい自然と地域に根付いた行事、観光情報をSNS(インスタグラム・フェイスブック・アメブロ)を中心にPRしています。また、私自身が子育て世代のため、学校や病院・買い物など、不便な面も含めリアルな子育て生活/暮らしを発信しています。

●”トゥクトゥク“を利用したPRと事業

南さつま市の協力隊は 東南アジアでお馴染みの三輪自動車タクシー「トゥクトゥク」を公用車としており、“動く広告”の役目も担っています。隊員の移動だけではなく、今後は移住者向けツアーの移動車や地域交流イベントなど、活躍の場が増える予定です。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））minamisatsuma.kyoryokutai2@gmail.com
（電話番号（個人or職場））0993-68-0606(久志地区公民館)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/chiiiiikiokoshi_373stm/
（Facebook）https://www.facebook.com/chiiiiikiokoshi373stm

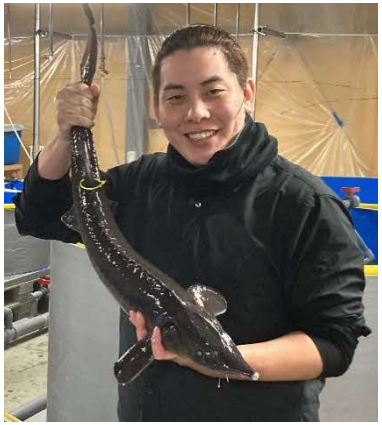
(ポッドキャスト)

06 漁業・水産業

北海道　美深町　　有坂 征志

漁業・水産業

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
茨城県
【転出元】
東京都国分寺市
【前　職】
プログラマー
【活動時期】
R4.6～（２年目）

協力隊に応募したきっかけ

何気なく地域おこしのサイトを眺めていた際に「チョウザメ飼育」のその文言が目に飛び込んできました。チョウザメとはなんだったか、ふと気になりWikipediaを確認し、そうかキャビアが採れるのかと――日本で養殖を行っているとは知らず、さらには北海道の美深町という東京から約1300㎞離れている環境に果たして自分自身が適応できるのか――いや、チャレンジするしかないと。逆に今ここで逃したら二度と関われないかもしれないと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

継続してチョウザメが収益に繋がるような商品や、そういったキッカケを探して「美深町のチョウザメ」を盛り上げていきたいです。
任期後はまだ決めかねている部分もありますが、商品開発や養殖事業に関わってきて自身の意見や行動の大切さに気付きました。また新たな土俵で自分の価値をさらに高めていくことも考えながら活動をしていきます！

活動内容

●チョウザメの飼育をしています

チョウザメ飼育研究施設やチョウザメ館で、朝夕の給餌や施設の管理をしています。
１年目の去年は、人生で初めて除雪を経験しました。

●育てた魚を加工

ちょうどよいサイズになったチョウザメを捌いて、ドレスやフィレにして出荷しています。
美深に来てから魚を捌けるようになりました。
また、キャビアを採卵して、塩漬にしたものを瓶詰にして販売しています。

●新商品をつくりました

何度も試作を重ねて、魚肉を使ったカマボコをつくって町内のイベントで販売しました。次の新商品を開発中です。

●プライベートでも『魚』と楽しんでいます。

チョウザメを飼育する施設で一緒に働く仲間たちと、近くの海や湖に釣りに出掛ける機会が増えました。
釣った魚をその場で調理して食べたり、自宅に持ち帰って調理したりして、プライベートでも楽しんでいます。秋には釣りの話で盛り上がっています。

連絡先

【メールアドレス】　b-shinko@town.bifuka.hokkaido.jp
【電話番号】　01656-2-1645

【美深町地域おこし協力隊Instagram】
bifuka_chikiokoshi

北海道利尻富士町　　鈴木　太郎

漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
43歳
【出身地】
神奈川県横浜市
【転出元】
静岡県三島市
【前　職】
システムエンジニア
システムインテグレータ
【活動時期】
R3.5～R6.4

協力隊に応募したきっかけ

10年以上前から離島や過疎集落での生活に憧れていたところ、知人からの話を伺い決意した。

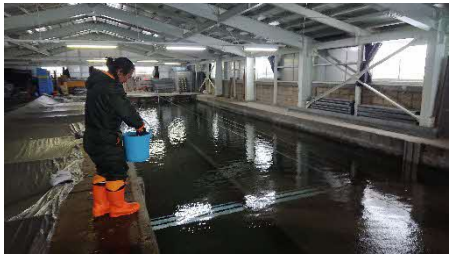
今後の抱負･任期後の目標

PADIダイビングインストラクターとしてのスキルアップをし、利尻のレジャー産業の一つとして確立する。また、レジャーに限らず、潜水技術を必要とする業務を請負い事業として成立させる。
夏季は、観光施設の草刈・整備を行う業務を事業として請負う。

活動内容

●栽培漁業の推進

サケの受精卵を浜頓別町頓別から移植して、ふ化から体重1g以上の稚魚になるまで養殖を行い、4、5月にかけて放流をする。



●潜水業務

アワビ、ナマコ等の生態調査及び海中施設の確認・点検。

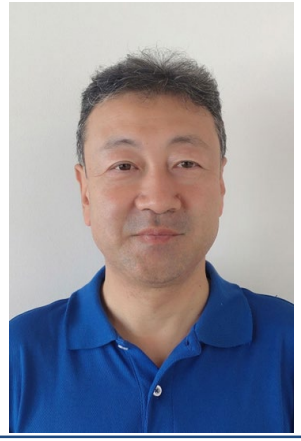
連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））Suzuki.tallo@icloud.com
（電話番号（個人））080-6844-0880

宮城県南三陸町　西城　俊行

漁業・水産業

基本情報



【年　齢】
５８歳
【出身地】
宮城県気仙沼市
【転出元】
宮城県仙台市
【前　職】
宮城県庁（水産行政）
【活動時期】
Ｒ５.４～Ｒ８.３

協力隊に応募したきっかけ

全国的に漁業就業者は大幅に減少している。特に東日本大震災をきっかけに高齢化、担い手不足が課題となっている。また、近年の物価高騰で漁業所得が減少し、地域の活力が低下している。
こうした状況を踏まえ、５年後、１０年後、孫の代まで浜に担い手が定住できるように漁業所得向上と地域の活性化に寄与したいと考え、協力隊に応募した。

今後の抱負･任期後の目標

・東北初となる養殖ワカメJAS認証取得を目指す。
・JAS認証したワカメを国内外に販売し、漁業所得の向上に貢献し、水産業の発展に寄与したい。
・任期後も海外とのビジネス交流を通じて、浜の活性化の取り組みを行いたい。

活動内容

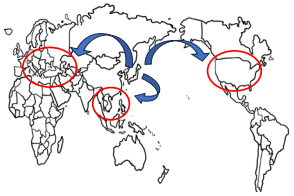
●養殖ワカメのブランド化（１年目）

・漁業者とのJAS認証勉強会（R5.5）
・国の認証機関による有機ワカメJAS認証資格取得講習会（R5.10）
・国の認証機関への有機JAS申請（R5.12）
・認定機関による継続審査中

JAS認証資格取得講習会

●国内外の販路開拓(2年目～)

大手水産加工会社と連携し、地球環境問題に関心のある欧米、米国に向けたJASワカメの営業及びPR活動に取り組む。
また、国内の安全・安心志向者向けの市場への販売・PRを行う。
・JAS認証取得（小分業者登録含む）



販売先イメージ

●有機ワカメJAS認証地区の拡大（２年目～）

有機ワカメJASの需要取引に対応するため、町内のJAS認証取得者を目指していく。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場）sanriku002@outlook.com
（電話番号（職場）090-7079-6333

東京都西多摩郡奥多摩町

漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
25歳
【出身地】
岩手県盛岡市
【転出元】
静岡県静岡市
【前　職】
営業職
【活動時期】
R4.3～

協力隊に応募したきっかけ

幼少期から魚が好きで、社会人になってからも魚に関わりたいという思いがありました。
転職を考える中で、地域おこし協力隊の存在を知っていたため、魚に関わりながら地域の力になる任務が無いかを探して現在の移住先に出会いました。

今後の抱負・任期後の目標

3年の任期の中では後半に入ってきたため、現在の水産加工「やまぼこ」事業のほか、勤め先にある管理釣り場を利用し、魚を通じた教育普及活動もしていきたいです。
また、協力隊の任務を今後就任する隊員に引継いでいけるよう、任務先の小河内漁業協同組合の運営立て直しや、地域との関わりの土台作りを続けていきたいです。

活動内容

●漁業協同組合の仕事

人手不足が深刻化している小河内漁業協同組合で、養殖や業務のサポートをしています。
ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめを養殖池で飼育しており、ほぼ毎日養殖魚の管理を行っています。
また、内水面漁業として、河川への放流や、河川の美化、遊漁事業にも関わり、漁協の立て直しに力をいれています。
今後はさらに漁協の運営に携わらせていただきながら、今日の内水面漁業の在り方を勉強していきたいです。

●新商品の製造

奥多摩さかな養殖センターで廃棄されていた採卵後のヤマメをすり身にし、揚げかまぼことして販売しています。
現在は町内の飲食店さんにお使いいただいている他、イベントに出店し、販売しています。
まだまだ事業としては始まったばかりで、すり身として使用しない部分を廃棄しないようにどうするか、など課題も多くありますが、残り1年の任期で事業拡大していけるよう頑張りたいです。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）okutama.kyoryokutai@gmail.com
（電話番号）0428-86-2623

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（X 旧Twitter）@okutama_osakana

新潟県粟島浦村　川原　燎

漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
32歳
【出身地】
愛知県清須市
【転出元】
愛知県犬山市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R3.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

愛知県に住んでいた時、会社員をしながら地域の有害鳥獣捕獲に参加していました。有害鳥獣捕獲が自分の仕事にならないかと思いながら生活していたところ、X（旧Twitter）で、新潟県の粟島で有害鳥獣捕獲専門員を募集している情報が流れてきたため、これは行くしかないと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

現在は、山の猟師から海の漁師へと転向し、海で仕事を行っています。
今後は自分で獲った魚を自らブランド化し、粟島の認知度をもっともっと上げていくことが目標です。

活動内容

●粟島定置網漁

粟島定置の船に乗船し、漁の手伝いをしています。
夏は朝４時に起床、冬は５時に起床します。最初は慣れずに辛い思いをしましたが、今ではその時間に起床することが体に染み付きました。
漁の醍醐味は大量の魚が揚がってきた時の興奮です。
大量の魚が揚がってくる様子は圧巻です。

●漁師のサポート･個人漁

個人漁師の手伝いを通じて、様々な漁法を学べることに面白さを感じています。
また、任期満了後も島で暮らしたいと考えているため、自分で漁をしています。素潜りで牡蠣を獲ったり、水中銃で魚を獲るなどし、獲れた魚介類は自分で出荷をしてします。

●積極的に地域行事へ参加

粟島で個人的に一番好きな行事は、祭りです。毎年10月27日に行われる内浦祭礼では、樽の乗った樽神輿を持って集落内を走ったり、引いたり、上下左右に激しく振って回ります。
大漁祈願・海上安全・家内安全を祈願して行われるお祭りで、１年で一番楽しみな時間です。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））ryo.hunting.0013@gmail.com
（電話番号（職場））0254-55-2111

【活動の様子を発信しているSNS】
（Instagram）　awashima.team_fisherman　　ＱＲコード

AWASHIMA.TEAM_FISHERMAN

福井県小浜市　坂田　凱斗

⑥漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
18歳
【出身地・転出元】
大阪府大阪市
【前　職】
なし（高校卒）
【活動時期】
R5.5～R8.4

協力隊に応募したきっかけ

私は幼いときから漁師になることが夢でした。そのことから、大阪で行われた漁師就業フェアに参加した際、小浜市の漁業についてのお話をお聞きしました。その後、小浜市での現地研修や4日間のインターシップを通し、私の好きな海や自然に溢れた小浜市に大変魅力を感じ、この小浜市で漁業を学びたいと強く思い、志望しました。

今後の抱負･任期後の目標

１年目は牡蠣養殖だけでなく他の漁業についても学び知識、技術を身に付けていきたいです。
今後は本格的に牡蠣養殖に取り組む親方の下に就き、一人で1年中製品を出荷できるように、牡蠣養殖をメインとした漁業を行い販売を行っていきたいです。
将来的には、牡蠣養殖を法人化し、収入の安定化と若い方が漁業に従事しやすい環境をつくることができればいいなと考えています。

活動内容

●産学官連携養殖研究作業

カキの養殖の研究で、福井県立大学や小浜市漁業協同組合・市が連携。養殖開始前のカキの大きさなどを測定。

●養殖漁業者作業研修

天然マガキ種苗の剥離作業、生け簀組み作業　等

●水産物販促･ＰＲ活動

シーフードショーや催事に参加し、水産物の流通販売およびＰＲ活動に参加。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））kaidoubantian@gmail.com
（電話番号（個人））090-6551-9012

三重県　大紀町　齊藤　宏和

漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
５１歳
【出身地】
北海道
【転出元】
静岡県 菊川市
【前　職】
官公庁（水産庁）
民間企業、農業
【活動時期】
Ｒ４.８～Ｒ７.７

協力隊に応募したきっかけ

三重県在住の友人から「大内山川漁協で地域おこしの募集をしているので来ませんか？」との誘いを受け、内容を伺ったところ、お役に立てる部分も多そうであり、地域の活性化に一役買えると考え応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

地域おこし協力隊での３年の期間は、漁協の取組を他の関係する分野と繋ぎ、大紀町の観光振興全体を活性化できるように連携を図っていきたいと思います。

また、地域おこし協力隊卒業後は、可能であれば、このまま大紀町に在住して、主に内水面漁業や水産業に関する仕事を中心として生活し、地域全体の活性化への取組を続けられれば理想的だなと考えています。

活動内容

●川の環境整備、遊漁者増加から地域振興へ

地域おこし協力隊に就任し、大内山川漁協が進めている遊漁者を増やす対策、その中でもＩＣＴ化により漁業者が電子遊漁券（フィッシュパス）をネット経由で購入できる環境の整備を進めています。

この取り組みは、特にアユやアマゴが釣れる環境の維持増大が最も重要な要素の一つです。釣れる環境を維持し釣り人を増やすためには、アユやアマゴを食べてしまうカワウの飛来を減らす対策や、快適な対策を作るための清掃活動や河川工事による環境への影響低減、素敵な環境や魚の豊かさを広報する活動などが重要ですが、これらの内容を達成するには国や県等に対する様々な働きかけや情報収集、関係する民間団体や企業等との調整・協力、生態系の維持やその調査研究、有意義に活動できるようにするための予算確保も必要となってきます。かなり広範囲ではありますが、これらのような内容を大内山川漁協はじめ関係する皆さんとともに進めています。

多くの要素を出来る限り迅速かつ適切に進め、より良い形で大内山川に多くの釣り客が訪れ地域振興に貢献できるよう頑張っていきます。

連絡先

（メールアドレス）：　大内山川漁業協同組合 <ayuriver@ma.mctv.ne.jp>
（電話番号（職場））：　0598-74-0666

兵庫県新温泉町　小林将朋

⑥漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
43歳
【出身地】
兵庫県新温泉町
【転出元】
千葉県八千代市
【前　職】
飲食企業の企画広報
【活動時期】
R5.4～R8.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍にて人生を見つめ直し、これからの仕事や生きがい、子どもの教育環境などを考慮し、大阪・東京での会社勤めを辞め、家族3人で私の地元 新温泉町にUターンしました。新温泉町は日本海に面した港町で、水産事業が大きな資源でもあります。今の仕事は、水産振興として松葉ガニをはじめとした海産物資源のPRやブランディングを、浜坂漁協で行っております。前職では飲食店のマーケティングやブランディングを担当しており、そのノウハウを活かし、故郷での地域おこし協力隊となりました。

今後の抱負・任期後の目標

目標は『浜坂ブランド世界一』を目論み、広報やブランディングを担っております。今後の抱負としては、漁協のECお取り寄せ販売の売上貢献や、新温泉町へのメディア取材増加を考えております。そのため、SNSでの魅力的な発信や未開拓の動画でのアプローチ、漁協サイトの充実を図っております。さらに、魚食普及の一環として、小学生の自然学校などで、日本海の魚と触れ合い、勉強し、食事できる料理教室を実施するなど、浜坂の魚を世界に向けて広く発信する目標を立てております。

活動内容

●漁協ブランディング・マーケティング活動

・漁協サイトのリニューアル改善実施
・週2回のSNS投稿にて漁協情報発信と露出度拡大
・パンフレットを刷新しEC顧客へのDM実施
・EC商品購入者へのアンケートハガキ実施
・赤えびブランドのメディアリリース実施

●地元への魚食普及活動

・地元小学生へのお魚料理教室実施
・赤えびの学校給食支給風景の取材と動画制作
・協力隊 退任後のキッチンカーでの魚食普及の準備
・地域課題 体験プログラム『ローカルクエスト』サポート

●観光客の誘致活動

・但馬全体でのインバウンド向け動画制作
・個人動画による新温泉町魅力発信の準備
・浜坂ブランド向上のための水産ポスター制作

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））masatomo_kobayashi92@icloud.com
（電話番号（個人））080-1469-4702

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/kobayashi_hamasaka @KOBAYASHI_HAMASAKA

香川県小豆島町　本田　美咲

漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
３１歳
【出身地】
東京都　町田市
【転出元】
香川県　小豆島町
【前　職】
料理人
【活動時期】
Ｒ３.５～Ｒ６.３

協力隊に応募したきっかけ

コロナウイルスをきっかけに地方移住に興味を持ち、最終目標である飲食店開業にマッチする場所を探しました。
美味しい海産物があるところ、お店のスタイルに合う食材が手に入るところ、という基準で移住場所を選定し、ここだ！と思えたのが小豆島でした。
しかし、水産業衰退が小豆島も例外ではないと知り、現状を知ることで自分が役にたてることがあるかもしれないと思い、応募にいたりました。

今後の抱負･任期後の目標

活動３年目の現在、念願の飲食店開業に向けて準備を進めています。お店では、地元食材にこだわったお弁当やお惣菜を販売する予定です。
３年間活動してきた経験を活かし、一次産業の方の思いも含め、地元食材の魅力をお伝えできるような料理を提供していきたいと思っています。
少しでも地域貢献できるよう、地元に根付いたお店になることを目標に、尽力していきます。

活動内容

●SNSで発信

小豆島ではどのような漁が行われているのか、現場での雰囲気をそのまま発信できるよう実際に漁に同行し、撮影しています。また、漁師さんにインタビューとして思いを伺い、それらをSNSに投稿しています。

●料理教室の開催

小豆島で漁獲される新鮮な魚介類を使った「さばき方教室」や「お魚料理教室」を開催しています。
料理人という経験を活かし、自宅でも簡単に作れる本格的魚料理や、簡単に捌けるコツをお伝えし、魚料理が身近になるよう魚食普及に尽力しています。

●小豆島の魚に特化した制作物

小豆島で漁獲される魚に関心を持ってもらうため、小学生へのイベントや水産出前授業の際に配布する地魚の勉強ができる下敷き「小豆島のおさかな３０選」と、料理教室の参加者に配布する地魚料理に特化した「お魚レシピbook」を作成しました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））shodoshima.souzaiten@gmail.com
（電話番号（職場））070-4978-4549

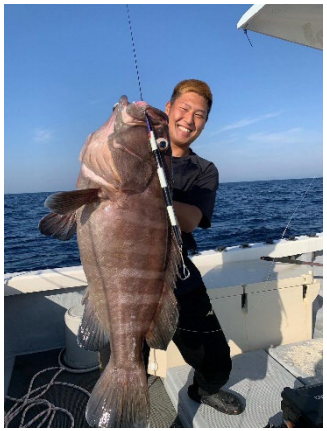
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram　Facebook

高知県室戸市　小笠原　雪斗

漁業・水産業

基本情報



【年　齢】
18歳
【出身地】
高知県高知市
【転出元】
高知県高知市
【前　職】
カツオ漁船乗組員
【活動時期】
R５.６～R８.５
（１年目）

協力隊に応募したきっかけ

椎名大敷の研修で初めて室戸を訪れ、その時に地域おこし協力隊についての話を聞きました。自分は昔から釣りが好きで、室戸は昔から魚がよく釣れるイメージがあり、さらには釣り人からすれば、夢の魚であるカンパチが釣れることでも有名です。
趣味である釣りを通して室戸ならではの田舎の良さ等をたくさんの人たちに伝えていきたいと感じたことが、室戸市の地域おこし協力隊に応募したきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

協力隊として、今後も釣り等を通して室戸の良さをSNS等で伝え続けていきたいです。
任期後は室戸に住み続けたいと考えており、椎名大敷に就職を考えています。
将来の目標としては、個人事業主として室戸で「遊漁船」を起業したいと考えています。任期後すぐには難しいと思っているので、まずは椎名大敷でたくさん経験を積んでいきたいと思っています。

活動内容

定置網漁業の振興（椎名大敷組合）

●水揚げ

まず、大敷ですることは「朝もち→水揚げをしながら魚を仕分ける作業」です。「朝もち」とは、朝に網をもちあげ魚を獲る作業のことをいいます。
室戸は特にその日によって獲れる魚が違うので何が獲れるかが自分の中で楽しみの１つでもあります。例えば、ジンベエザメやクジラ、マンボウ等大きい魚が入っていることがあり、これは大敷で働いている特権だと思います。釣り人からしたら夢の魚である30ｋｇクラスのカンパチも獲れます。

●定置網の修繕・入れ替え

定置網は、修繕するために入れ替えをします。例えば、ロープが劣化したり、網が汚れたり（海藻がつく）、大破れ等があればすぐに入れ替えが必要になります。右の写真は、実際に網を修繕している時のものです。網の修繕の作業では、網を縫うのがとても早い先輩がいます。よく縫い方や結び方（いろんな種類の結び方がある）を教えてもらっているので、自分の今後の活動に活かしていきたいです。

●SNSで室戸市のPR活動

大敷で獲れた魚や、趣味の釣りでその時に釣れた魚を自身のSNSに掲載しています。将来の目標としている起業も想定して掲載もしています。右の写真は室戸市で釣れたイカです。釣りを通じてたくさんの人と交流することもできました。
夢をつかむには室戸は１番だと私は感じており、私は**「夢の海域」**だと思っています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）
mr-010200@city.muroto.lg.jp(地域おこし協力隊窓口：まちづくり推進課)
mr-010900@city.muroto.lg.jp(担当課：産業振興課)
（電話番号）0887-22-5147(地域おこし協力隊窓口：まちづくり推進課)
0887-22-5116(担当課：産業振興課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
小笠原　雪斗　instagram（個人・右のQRコード）

YUKITO_195

福岡県福岡市　北山　雄一

⑥漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
32歳
【出身地】
千葉県千葉市
【転出元】
千葉県千葉市
【前　職】
目黒区役所
【活動時期】
R5.11～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

公務員として働く中で、日本の再興に貢献したいが、制約の多い現在の立場ではできることが限られているなと感じていました。そんな中で興味を持ったのが「地域おこし協力隊」です。福岡県は以前から旅行などでよく足を運んでいる地域であり、起業している友人も多く住んでいるため、私の活動拠点としては最適だと思いました。玄界島を見学した際には、島民の方の温かさや、島の観光資源の多さに感動しましたが、来島者数は少なく島の魅力が島外に伝わってないように感じました。島に眠っている沢山の魅力を引き出し多くの方に届けられるように、島民の方々と協力しながら活動したいです。将来的に起業したいと考えているため、地域おこし協力隊の活動を通して、地方創生の一助となるビジネスプランも考えていきたいと思います。

今後の抱負・任期後の目標

大学時代からマーケティングやコピーライティングを学んでおり、特にインターネットを活用した集客、情報発信が得意です。また、写真部に所属していたので、一眼レフカメラでの撮影や画像編集ソフトを扱うことができます。これらのスキルを、島の魅力発信のために活用できたら嬉しいです。

冷静に物事を俯瞰し分析する視点と、失敗を恐れずにチャレンジする行動力のどちらも大切にすることを心掛けています。地域おこし協力隊として働く際には、島民の方々の意見やアイディアをしっかりと踏まえたうえで、得意のマーケティングと情報発信によって島の魅力を多くの方に届け、それらを起点として関係人口を創出し、島の発展に貢献したいと思います。

活動内容

●水産業の支援

・定置網漁やワカメの加工など漁協の活動支援

・特産品や未利用魚を活かした新規ブランド品の開発

●地域コミュニティの活性化・活動支援

・玄界島島づくり推進協議会の運営支援

・地域が開催するイベントの運営支援

●行政支援

・災害時の避難所開設・運営支援

・その他地域支援課の業務補助

●その他地域の課題解決や活性化につながる活動

・情報発信など

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）（個人）atdk.y.k@gmail.com
（職場）genkai72@mopera.net（玄界公民館）
（電話番号）（個人）090-1858-8826
（職場）092-809-1243（玄界公民館）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（玄界島公式HP）http://genkaijima.com/info/
（玄界島公式Instagram）https://www.instagram.com/genkaijima_official/

長崎県新上五島町　黒田　泰晴

漁業・水産業

基本情報

【年　齢】
45歳
【出身地】
福岡県柳川市
【転出元】
千葉県市川市
【前　職】
会社員（不動産管理）
【活動時期】
Ｒ４．１～Ｒ６．１２
（３年目）

協力隊に応募したきっかけ

数年前にプライベートで転機となる事があり、元々勤めていた業界、業種とは違う業種の仕事に挑戦してみたいと思う様になりました。
全国の色々な地方で、企業、事業承継、地域おこし協力隊など、様々な仕事のお話をうかがいました。九州の仕事が多かったのですが、東京に長く居た為、その時は殆どの募集されていた地方へ直接伺いました。
その中で、ご縁があって現職に採用して頂き、今に至ります。

今後の抱負・任期後の目標

まだ定まったものはありませんが、任期後は、任期中に得た知識や経験を活かして、お世話になったみなさまのお役に立てる様な仕事を手掛けたいと思います。

活動内容

●釣り文化振興モデル港

所属する上五島町漁業協同組合が管理している青方港が、釣り文化振興モデル港に指定されています。
日本の港湾では原則として釣りが禁止されていますが、釣り文化振興の為に国土交通省が指定した上記モデル港が日本に16港あり、その中の1つとなります。
こちらの運営、管理、宣伝、メディア対応等を行っております。

●その他

「水産業と観光業の連携事業」が私の地域おこし協力隊としてのミッションとなっております。
いくつかの観光ガイドのボランティア団体に所属し、島の観光を盛り上げられる様に努めています。
また、森林ボランティア、日本語ボランティアの団体にも所属しています。

連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/chioko_snkm/
（Facebook）https://www.facebook.com/kami510chioko

大分県中津市　佐藤　晶二

水産業

基本情報

【年　齢】
51歳
【出身地】
大阪府泉大津市
【転出元】
大阪府岸和田市
【前　職】
自営業
【活動時期】
R1.12～R4.11

協力隊に応募したきっかけ

中津市の漁協の方から「ひがた美人」の話を伺い、その方々の想いに自身の心が動かされ、仲間になりたいと思いました。
中津が、一度離れた人もまた帰ってきたくなり、まだ見ぬ誰かにとっても、中津が重なる場所であってほしい、そんな思いを持ちました。そんな場所にするお手伝いをしたいと思いました。

今後の抱負･任期後の目標

今後は、中津市に定住し、大分県漁協中津支店の正組合員となり、漁業者（漁師）として生計を立てていくために、漁師の先輩から多くのことを学び、活かしていきたいと思います。
そして、この中津干潟を守っていき、ここでしかできない漁業の継承者になりたいです。

活動内容

●牡蠣養殖

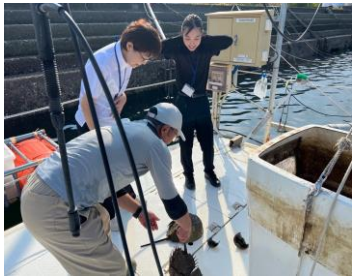
中津干潟の特性を活かし、潮の干満で牡蠣を養殖しました。中津のカキ養殖は、養殖用のカゴに牡蠣を入れ、潮が満ちれば牡蠣は多くの海水とミネラルをその身に蓄え、潮が引くことで身が締まり、「ひがた美人」は美味しくなります。

●アサリ、ハマグリ試験養殖、種苗生産

中津産の親貝にこだわり、卵を採取し、稚貝を中間育成し、沖の漁場にもっていき養殖を行った。卵から販売できるサイズまで２年の期間がかかりました。また、餌となる植物プランクトンも製造し、こだわって生産を行いました。

●漁

主にコチ、ベタ、ワタリガニを建網漁で採取しました。それに並行し、篭漁を行い、コウイカ、モンコウイカ、カニを主に採取しました。篭にも工夫を加え捕獲量や業務効率の向上を図りました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）tiikishinko@city.nakatsu.lg.jp
（電話番号）0979-62-9033
※上記連絡先は中津市役所地域振興・広聴課（協力隊担当課）

07 農業・林業

北海道茅部郡森町　小川航輝

農業・林業

基本情報

【年　齢】
29歳
【出身地】
フランス　レンヌ
【転出元】
北海道札幌市
【前　職】
リノベ札幌株式会社
【活動時期】
R5.2～R7.1

協力隊に応募したきっかけ

私は前職で札幌にて建築の設計をする傍ら、ShopBotというデジタルデータによる木材加工機の運用管理をしていました。ShopBotは手加工が難しい曲線や3D加工を得意としていて、ものづくりの幅を大きく広げるポテンシャルを秘めていると思っています。木材が豊富なこの場所でShopBotを使って地域の方々がものづくりを自由に行える場所を作りたい思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

滞在型観光に向けたカヌーづくりをはじめとしたものづくりコンテンツや地域おこし協力隊の活動をする中で交流を深めた第一次産業者の方々との連携の元、森町が泊まって楽しい場所となるようにしていきたいと思っています。また、その中で前職の建築の知見を活かして地域の居場所づくりや宿事業を手掛けられたらと考えています。

活動内容

●道南スギカヌーづくり継承

町産材のPR、事業継承として木製カヌーづくりに挑戦。森町でカヌーづくりを趣味でやっておられる方と出会い、その方の最後の弟子として技術を継承し、道南スギでカヌーを制作。カヌーづくりから体験までを観光事業として展開予定。

●にばんきび収穫祭

サイズが小さい、実が詰まっていないため破棄されてしまうにばんきび。味としては全く問題のないとうもろこしが捨てられてしまう現状を打開するために、道南地域にお住まいの親子向けに収穫体験イベントを開催。

●杉タグによる魚単価向上

漁師さんと協力して出荷する魚につけるタグを道南スギで制作。タグのデザインも漁師さんと何度も打ち合わせを重ねて制作し、出荷した魚は今までよりも単価が上がり、ブランディングとして成功を収めることができた。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））ruisseau.koki@gmail.com
（電話番号（個人））080-7269-2784

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.instagram.com/mori_no_francois
https://www.facebook.com/ruisseau.koki

北海道別海町　三原　萌佳

農業・林業

基本情報

【年　齢】
28歳
【出身地】
大阪府寝屋川市
【転出元】
大阪府寝屋川市
【前　職】
和田税理士事務所
【活動時期】
R3.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

3年前、趣味である旅行やアウトドアは、コロナ禍で外出が制限され、ストレス発散が出来ない日々。そんな中「30歳になる前に、体を動かす仕事がしてみたい！」「北海道に住んでみたい！」と、強く思うようになりました。酪農業に従事し、様々な方とも交流のできる「別海町の協力隊」をネットで見つけ、応募。別海町の友好都市である枚方市は、私の出身地に隣接する市で、高校・アルバイト先が枚方市だったこともあり馴染みがありました。その点も、訪れたことのない地に移住する、ひとつのきっかけでした。

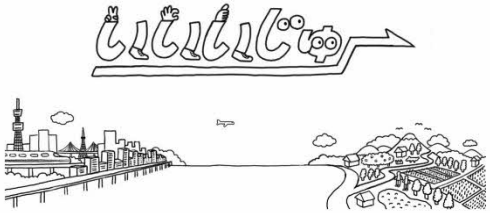
今後の抱負･任期後の目標

別海町では、エゾシカによる牧草の食害に悩む農家さんが多くいます。そこで「自分が役に立てることはないか？」と考え、有害駆除を行うため、狩猟免許を取得しました。まだまだ、ハンターが仕事になるレベルではありませんが、地域に頼られるような活躍をしたいと思っています。
また、インバウンド向けの宿泊施設の運営や、牧場の6次化にも興味があるので、酪農業を営む農家さんと一緒に、新しいことにどんどん取り組んで、今後もチャレンジしていきたいと思います。

活動内容

●NHK移住ドキュメント「いいいじゅー！！」放送

地域おこし協力隊として大阪から移住し、酪農に関する仕事などを追ったNHKの移住番組の密着取材に応じました。
放送日以降大変多くの反響が寄せられました。



●「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテスト

農林水産省主催の標記動画コンテストで、優秀賞を受賞。動画コンテストの作品はYOUTUBE上でも公開されており、他方面から高い評価を受けています。

●酪農女性の活動を支援するイベントの開催

「べつかい酪農女性プチサミット」等、酪農女性の活動を支援するイベントの中心メンバーになり、多くの参加者を集めるなど、大変活躍しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス：別海町役場農政課）nousei@betsukai.jp
（電話番号：別海町役場農政課 ）0153-74-9251

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（研修牧場Instagram）別海町酪農研修牧場(@betsukai_kenboku写真と動画
（個人SNSまとめ）MOEKA lit.link(リットリンク)

秋田県小坂町　　熊澤 圭祐

⑦農業・林業

基本情報

【年　齢】
35歳
【出身地】
神奈川県平塚市
【転出元】
神奈川県藤沢市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R4.4～（現役）

協力隊に応募したきっかけ

両親が秋田県出身、かつ母親が小坂町出身のため、幼少時代は夏休みによく遊びに来ていました。
令和3年10月、初めて妻と子供を連れて小坂町を旅行で訪れた際に宿泊したホテルで「小坂七滝ワイン」に出会ったことから興味を持ち、ワイン用のブドウ栽培やワイナリーでの業務を地域おこし協力隊として募集していることを知りました。
妻から快く背中を押してもらい、自然豊かな小坂町で子育てをしていきたいという想いから応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

ワインコンクールの開催をきっかけに、BBQ検定を受けてワインとのマリアージュを考えたり、美味しい楽しいイベント企画をたくさん生み出していきたいです。
小坂町でのヤマブドウ系のワインの明るい未来のために、私も一粒の実になってワイン事業の発展に関わっていきたいです。
また、協力隊の退任後はブドウ栽培についてさらに学びを深め、自分の土地でブドウを栽培して、そのブドウでワインを醸造したいと思っています。

活動内容

●ブドウ栽培

春先に余分な芽を取り除く「芽かき」、その後新梢を棚に固定し、日当たりにムラが出ないよう、病気にならないよう誘引作業をしていきます。
品種にもよりますが、8月下旬からは収穫がはじまります。ひとつひとつ手作業で選別をしながら丁寧に収穫を行います。

●山ぶどう系品種のワイン醸造

日本の滝百選「七滝」のそばにある「小坂七滝ワイナリー」でワイン醸造に携わっています。
8月下旬からはブドウの収穫と並行して醸造作業が始まります。ブドウの房から梗を取り除き、果皮を破って果汁を出す除梗破砕作業から瓶詰、すべて手作業のラベル貼りまで繊細な作業が続きます。

●PRイベント等への運営協力

今年小坂町を会場に「第1回日本山ぶどうワインコンクール」が開催され、集計係として運営に関わり、会場の緊張感を肌で感じました。
また「小坂七滝ワイナリー」のワインが金賞に値する茜賞を受賞したことで多くの反響があり、より多くの方々に小坂のワインをPRしていきたいです。

連絡先

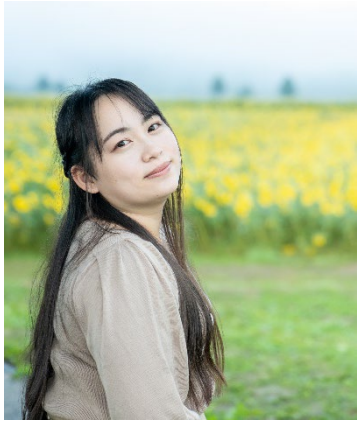
【メディア等の取材連絡先】小坂町総務課企画財政班　担当：木村
（メールアドレス（個人or職場））kikaku@town.kosaka.akita.jp
（電話番号（個人or職場））0186-29-3907

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
特になし⇒今後、広報での連載、SNS等での発信を検討中

福島県郡山市　菅井　恵美

農業・林業

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
東京都江戸川区
【転出元】
東京都江戸川区
【前　職】
都内区立保育園　栄養士
【活動時期】
R2.6～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

福島へ行ったことすらありませんでしたが、郡山出身の友人をきっかけに連休のたびに郡山へ遊びに行くようになりました。行き来を重ねるうちに友人知人が増え、東京での仕事や当時通っていた夜間のスクーリングもひと段落つきそうだというタイミングで郡山の知人から「地域おこし協力隊」をご紹介いただきました。東京へ帰ってくるたびに視覚的情報量の多さにストレスを感じていたこと、新たな土地で自分のスキルが活かせる仕事がしたいと考えるようになり、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

今年度取り組んだイベント2本が多くの方からご好評いただき、開催後も次回開催の期待の声が寄せられました。引き続き地域の魅力をPRする取り組みをしながら、今後はさらにターゲットを外へ広がりを持たせられたらとも考えています。

任期後については着任1年目に興した会社の運営と、会社とは別に個人事業主としても開業しキッチンカー事業も並行して進めていきたいと考えています。会社では既に郡山の特産品「鯉」を活用した6次化商品開発やYouTubeを活用した魅力発信事業、移住定住促進事業に取り組んでいます。キッチンカー事業では県内産食材を使用した商品を販売予定です。どちらも地域に根差した取り組みをしていきたいです。

活動内容

●地元ワイナリーの魅力発信！

地元ワイナリーを会場にイベントやワークショップ、コンサートなどを開催し、まずは知ってもらう・足を運んでもらうきっかけづくりをしています。アルコールを取り扱っているので成人向けコンテンツが多くありますが、イベント等を取り組む際にはお子様にも楽しんでいただけるような内容になるよう心掛けています。

イベントのフライヤーデザインや企業さんの記念ラベルデザインなどにも携わっています。

●地域の「食」をテーマにイベント開催！

R5.7月「こおりやまサマーナイトマルシェ（来場者1,500人）」、R5.9月「こおりやま秋のパンまつり（来場者3,500人）」を開催し、郡山や周辺市町村の飲食店さんにご出店いただき、大勢の方に足を運んでいただけたイベントとなりました。それぞれテーマを設け、色々な角度から「郡山の食」をPRしたイベントとなりました。

その他、新米イベント、米粉料理教室にも携わり、栄養士としての視点も取り入れながら活動しています。

●YouTubeを活用したPRも力を入れています！

郡山市や周辺市町村の情報をYouTubeで発信しています。地元飲食店やローカル商品の紹介、田植え体験、地元バスケットボールチームへの取材などを行っています。「えみたろ」の愛称で地元の方々にも覚えていただき、イベントなどでも視聴者の方からお声がけいただくほどになりました。

動画投稿本数：112本
チャンネル登録者数：1230人

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））emi.s@fukushima-local.com
（電話番号（個人or））080-9261-9958

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（個人Instagram）
https://www.instagram.com/emi___taro

協力隊 Instagram

協力隊 YouTube

福島県磐梯町　大森　佳幸

農業・林業

基本情報

【年　齢】
35歳
【出身地】
福島県　喜多方市
【転出元】
埼玉県　入間市
【前　職】
物流関係
農業
【活動時期】
R3.4～（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

地元、会津に戻り農業がしたいと思い、まずは農業の知識などを学び、環境やその地域に合った農業を知るため協力隊に応募。

今後の抱負・任期後の目標

まずは、現在行っている堆肥製造の結果をもとに来年度の計画を決め実行に移す。また藍を栽培しており今後、薬作りから藍染めまで行っていき、任期後の就農において1つの収入源としてやっていけるようにしていく。

活動内容

●堆肥製造

町内の未利用資源を利用した、町独自の高品質で安価な良質堆肥の製造を令和３年度から製造を行っており、試行錯誤を重ね完成を目指している。

●ばんだい薬草の会

ばんだい薬草の会という会があり、おたねにんじんや藍の栽培を行っており、栽培した藍を薬作りから藍染めまでを出来るような環境作りをしていく。

●耕作放棄の再生

現代では耕作放棄が増加している中で耕作放棄の再生に取組むことでなぜ、耕作放棄になってしまったのか、現状の把握や、再生する難しさが実感できると思い取組みを行った。

連絡先

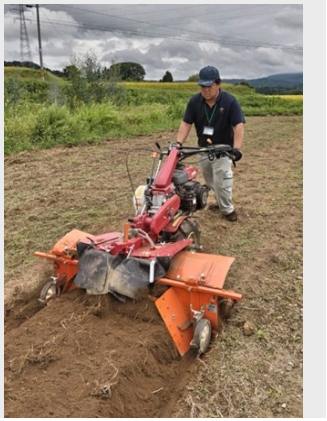
【メディア等の取材連絡先】
yoshiyuki_oomori@town.bandai.fukushima.jp
（磐梯町役場農林課 ）0242-74-1217

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram個人）https://www.instagram.com/ohmori1988
（Instagram農園）https://www.instagram.com/miokasalo

福島県磐梯町　中村　仁

農業・林業

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
鳥取県鳥取市
【転出元】
鳥取県鳥取市
【前　職】
農業法人
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

私は9年間農業に関わってきました。その中で違う焦点から農業を見てみたい、鳥取以外の地域の農業はどのような違いがあるのか。今までの経験を活かせることがあるのではないかと思い地域おこし協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

磐梯町に合った有機、特別栽培の手法を模索して実用化できるようにしたい。

活動内容

●水稲有機、特別栽培　秋耕

私は現在水稲の有機栽培、特別栽培に関わってます。その中で紹介するのは秋耕についてになります。
秋耕とは、稲刈り後の藁を苦土石灰、発酵鶏糞と共に鋤き込むことです。
そうすることによって藁が分解されて浮き藁を無くし肥沃な土壌を作ることができます。

●水稲有機、特別栽培

令和6年度の水稲栽培圃場をお借りして実際に有機栽培の手法を使って1年間栽培をさせていただきます。すでに上記の令和5年度秋耕からスタートしており地温等のデータもとっていく予定です。

●イタリア野菜研究会

イタリア野菜は徐々に国内での需要が高まり全国的に生産量を増やそうという動きが出てきてます。
そのため同じ地域おこし協力隊で研究会を立ち上げ磐梯町でも新たな特産品として栽培できるのか少量ではありますが試験栽培に取り組んでます。

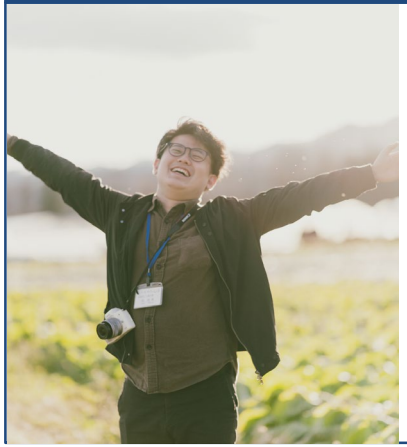
連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））Masashi_nakamura@town.bandai.fukushima.jp
（電話番号（職場））0242-74-1217

群馬県中之条町　枝 拓未

⑦農業・林業

基本情報



【年　齢】
22歳
【出身地】
茨城県桜川市
【転出元】
茨城県桜川市
【前　職】
大学生（卒業し大学院へ）
【活動時期】
R3.4～ R5.10 現在
（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

大学で地域づくりやまちづくりについて学ぶ中、地域へのフィールドワークや福島県の奥会津での二拠点生活を半年間するなど地域との関係を深めてきました。そんな中で、中之条町にもフィールドワークに訪れ、半年間月1回で通っている間に中之条町と中之条町の人々にひかれ地域おこし協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、定着するための準備をきちんとしていき、より中之条町に貢献できる活動をしていきたいです。また、現在事務局をしている地域の人たちと立ち上げたNPO法人をきちんと回る形にし、地域の糧としていきたいです。

活動内容

●高校生農業インターンの受け入れコーディネーター

令和4年度から、都内の高校生数名を2週間中之条の農家さんにインターンするプログラムのコーディネーターをしました。毎日の生活はもちろん、日々のインターンシップでの困りごと、各農家での活動の目的設定など高校生が実践的により学びになるプログラム運営をしました。

●地域おこし協力隊関連、その他関係人口の受け入れ

地域おこし協力隊関連として、おためし協力隊や協力隊インターンの受け入れコーディネートを行いました。そのほか、中之条町をより多くの方にしていただくため、地域づくりやまちづくり、観光を入り口にした講座の運営や町に興味を持っていただいた方の受け入れもしています。

●農業振興関係業務

上記の二つは農業をはじめとした町の担い手を確保していくための活動です。その他には、町に新設された第6次産業化、開業支援のための調理施設の運営やオンラインでのお米の販売、役場でのマルシェなど小さいことからコツコツ始めています。昨年から2人体制になりましたので動きを大きく加速させていきます。

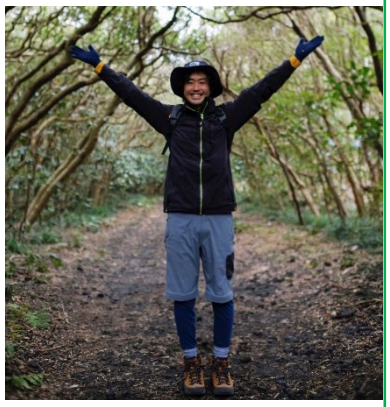
連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メール）nakanojotiikiokosi@gmail.com（電話番号）070-4115-8936
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook（個人）：
https://www.facebook.com/profile.php?id=100012878470318
インスタ（NPO法人中之条コネクト）
https://www.instagram.com/nakanojoconnect/

東京都大島町　神田　遼

農業・林業

基本情報



【年　齢】
30歳
【出身地】
千葉県市原市
【転出元】
東京都江東区
【前　職】
旅行会社
【活動時期】
R2.10～ R5.09
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

都内で会社員をしていたのですが将来的に地方、田舎暮らし、島暮らしへの憧れがあり、地域での活動がしたいと思っていたところ地域おこし協力隊という制度を知りました。その求人の中で現在の仕事の募集があり即決で応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

任期後も伊豆大島への定住を予定しています。個人事業での開業を予定しています。2022年7月に伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドとなったのでガイド業と現在の直売所を掛け合わせられるイベントを造成したいと考えております。卒業後はゲストハウスの立ち上げを予定しており任期中に着手して開業を目指しております。

活動内容

●店舗のSNS運用

農産物直売所「ぶらっとハウス」に勤めているので日々の店舗での様子やイベント情報などをSNSを通じて宣伝、発信しています。

●イベントの企画運営

店舗での仕事の他にも定期的にイベントの企画運営をしています。店舗としてのマルシェ開催に加えて少し小規模な収穫体験、野鳥観察会など野菜の販売以外での広がりを目指して日々活動しています。

●特産品を使った商品開発

季節ごとの特産品を使ったジェラートの製造をメインに商品開発をしています。それに加えてドリンクなどの商品も開発しています。商品を充実することにより長い時間滞在できるような店舗の仕組みも考えています。

連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(ガイドHP QRコード) (Twitter:@2knd0) (Instagram:@2ryknd0)

東京都利島村　上田　哲郎

農業・林業

基本情報

【年　齢】
44歳
【出身地】
東京都利島村
【転出元】
東京都
【前　職】
飲食業
【活動時期】
R３.４～R６.３

協力隊に応募したきっかけ

元々、利島村出身で中学卒業してからは都心で生活、仕事をしていたが、下の子どもが小学校入学するタイミングで、地元に帰り、家業を継ぎながら椿関係の仕事に関わりたいと考えて応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

退任後も椿の苗木づくりや椿山の管理、野菜づくりに関わり続け、協力隊活動を活かし、島の農業に貢献していきたいと考えています。

活動内容

●椿山の管理

椿油の原料になる椿実を効率よく拾える環境づくりを1年かけて行っています。春から夏にかけての草刈は重労働で、秋から冬の実拾いは根気のいる作業です。段々畑の形状となっているため、より効率的にできないか試行錯誤しながら管理を行いました。

●野菜の生産

ハウスでの野菜づくりは椿山作業と並行できるような野菜を選択し生産し、主に小松菜などの葉物を中心に色々と挑戦しました。収穫できたものを農協の購買店舗で販売しました。

●椿の苗木づくり

椿実の優良木の枝を使用し、挿木による苗木づくりを行いました。育苗ポッドの用土も複数使用することで育成状況に違いがないか定点観測を続け、将来的には、年間3,000本程度の苗木をコンスタントに出荷できることを目指しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）oginoryou@toshimamura.org
（電話番号）04992-9-0046（利島村役場 産業観光課）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
なし

山梨県甲斐市　寺沼　健斗

⑦農業・林業

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
東京都新宿区
【転出元】
千葉県市大網白里市
【前　職】
会社員（農業従事）
【活動時期】
R４.４～現在

協力隊に応募したきっかけ

甲斐市の地域おこし協力隊募集要項を見て、農業振興を通した地域の活性化が主な活動内容の協力隊であり、高校や大学で農業について学んできたこと、また、肥料メーカー勤務や農業現場で従事してきた経験を活かした活動ができると思ったことに加え、将来は自身で農業経営を行いたいという希望を持っており、実現に向けた行政の支援も受けられるため。

今後の抱負・任期後の目標

将来は、ふどうと桃を中心とした果樹農家として生活していきたいと考えています。そのため、甲斐市内での就農に向けて、研修先の農家での実習に励みつつ、農地候補地を探していきます。

また、趣味であるアウトドアを組み合わせた「農業×アウトドア」で何かイベントを実現させたい。

活動内容

●甲斐市特産野菜の栽培補助

甲斐市の特産物である「赤坂トマト」や「ぎゅぎゅっとネギ」、また、芋焼酎「大弐」の原料となるさつまいも「黄金千貫」などの栽培補助に従事しています。作物の栽培方法や野菜の流通を学ぶことができ、地元農家さんとの交流も図られています。

●棚田保存会の活動支援

甲斐市には、日本の原風景ともいえる田園風景である「御領棚田」があります。この棚田の景観を保全する活動を棚田保存会と一緒に行っています。機械に頼らない手作業での水稲耕作は、大変な作業ですが、貴重な経験となっています。

●地域行事やイベントの運営補助

市内で行われる伝統行事である「おみゆきさん」や「水神祭」「学問祭り」等のお祭りや、農業関係のイベント運営に携わり、地域の魅力の再発見と、その情報発信を行っています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（甲斐市農林振興課））
nourinshinkou@city.kai.yamanashi.jp
（電話番号（甲斐市農林振興課））055-278-1707

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（甲斐市HP）

静岡県磐田市　山本　真由美

農業・林業

基本情報

【年　齢】
45歳
【出身地】
静岡県浜松市
【転出元】
静岡県浜松市
【前　職】
保育士
【活動時期】
R５.５～R８.４

協力隊に応募したきっかけ

保育士として仕事をする中で、自然の中で遊ぶ子どもたちの姿が輝いていたため、自然の中で保育をしていきたいと考えるようになりました。今までの人脈や経験を活かしながら、自然に対する知識を学び、身に着けるとともに、専門家と繋がりを作り、新たな活動ができたらと思い応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

・子ども向けの自然体験活動イベントの実施
・農業体験農園の開園

活動内容

●森林に関する知識習得

獅子ヶ鼻トレッキングや静岡県森林環境指導者養成講座への参加、森林インストラクター受験など、今後子どもたちに伝えていけるように森林や自然、環境について学んでいます。

●農業に関する知識習得

JA主催のときめき園芸教室に参加し、実際に一区画を担当しながら、秋冬野菜の栽培や農業に関する知識について学んでいます。

●草刈り･間伐作業

地域の草刈りや、財産区の下草刈り･間伐作業に参加しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））yamamiwata@gmail.com
（電話番号（個人））　090-9907-6687
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（X）@iwata_kyoryoku
(Instagram) @yamam.iwata

三重県　尾鷲市　日下　浩辰

農業・林業

基本情報

【年　齢】
52歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
大阪府堺市
【前　職】
ペット用品製造販売メーカー/商品開発
【活動時期】
R3.1～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

50才までには自然豊かな場所に家族で移住し、自然の中でできる仕事をずっと探していました。甘夏栽培などの知識は皆無でしたが、尾鷲を視察させて頂き、風光明媚な場所にある甘夏畑に魅了されました。また、歴史はあるが、栽培量が少なく市場に出回らない希少価値の高さに魅力ある商品であると感じ尾鷲の甘夏文化を守りたいと思いました。新しい農法、6次化などで尾鷲の甘夏を活性化していくことに魅力を感じました。

今後の抱負･任期後の目標

耕作放棄地になっていた甘夏畑を再生させ、就農人口の減少、高齢化問題を解決すべく、約60年続く甘夏栽培の歴史を繋いでいく為に、甘夏栽培の新しいアプローチや尾鷲の農業を盛り上げていける中心的な役割ができる人材になりたいと考えています。任期後は、継続して甘夏栽培を軸に、収益をUPさせる為に、甘夏を使って新しい商品開発を行い、小規模メーカーを目指します。また、天満地区の活性化を考え、耕作放棄地を活用した、人が集えるような観光農園的な事業をすることが目標です。

活動内容

●耕作放棄地の再生

耕作放棄地になってしまい元気を失った畑の再生に取り組んでいます。
新しい栽培方法にもチャレンジして、今後新規就農者が就農しやすいような魅力ある栽培方法を模索していきます。

●6次産業化に向けて新商品開発

尾鷲の甘夏を使った加工品を開発することで、歴史ある尾鷲の甘夏の認知向上を目指します。
認知度が高い、お魚の町尾鷲をイメージしやすいように、お魚と相性の良い甘夏ドレッシングを23年6月10日に新発売しました。引き続き甘夏の魅力を伝えることができる新商品開発を検討していきます。

●尾鷲特産品としての甘夏の認知向上

尾鷲の甘夏は、就農者数の減少、高齢化問題などで、生産量が激減し、若年層にも特産品として認識してもらえておらず、食文化も消滅しかかっています。
まずは、尾鷲の子供達に、ソウルフルーツである甘夏を再認識してもらう活動として、地元の小学校にて、収穫体験を通しての食育をスタートしました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）nougyou@city.owase.lg.jp
（電話番号 ）0597-23-8224

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram （https://www.instagram.com/amanatsu_tenma/）

鳥取県　湯梨浜町　　藤井　遼子

農業・林業

基本情報

【出身地】
奈良県　奈良市
【転出元】
奈良県　奈良市
【前　職】
エステティシャン
【活動時期】
R4.5～

協力隊に応募したきっかけ

鳥取に母方の実家があり小さい頃から毎年遊びに来ていました。
自然豊かで農業に触れ合える環境があり
将来農業に関われる仕事がしたいと子供の頃から
考えていました。
鳥取といえば梨、梨といえば東郷と思い
湯梨浜町でまずは梨の知識を得て沢山の人と繋がりたく
地域おこし協力隊に応募しようと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

梨のＰＲ、農家さん向けのイベント開催
梨に関するイベントやＳＮＳでの情報発信

イベントで体の使い方を
農家の方に知っていただくきっかけ作り
長く農業を続けていける体との関係性を知ってもらいたいと思っています。
任期後も地域との関わりを継続していきたいです。

活動内容

●梨つくり

年間通して梨が出来るまでの作業を
町内の梨農家のもとで勉強させて頂きながら
手伝っています。

●農家さん向けのイベント

農家さん向けのイベントを開催しています。
作業で体にどれだけの負担がかかっている
のかを知ってもらい
今後どういう体の使い方をしたらいいのか
理解してもらう機会を作っています。

●梨のPR活動

新規就農イベント、農業体験、東郷梨選果場ツアー
SNSでの日々の作業や交流の発信
東郷梨選果場ポロシャツ、手ぬぐいプロデュース
東郷梨選果場の作業をSNS発信、PR、梨祭開催
東郷梨選果場で働いている方に向けてのイベント

連絡先

【メディア等の取材連絡先】湯梨浜町役場　産業振興課
（電話番号）0858-35-5384

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
インスタグラム

YURIHAMACHIKIOKOSHI

島根県邑南町　　岡村健太

農業・林業

基本情報

【年　齢】
50歳
【出身地】
静岡県浜松市
【転出元】
東京都江戸川区
【前　職】
パン屋さん
【活動時期】
R3年4月～R6年3月
（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

地域おこし×島根県オリジナルぶどう“神紅”（しんく）の新規産地化を目指して動き出した邑南町のヴィジョンと、前職のパン屋さんの地方移転計画と同時に、農業（特にぶどう栽培）への関心が高まっていた私のヴィジョンが近いと思い応募させて頂きました。

今後の抱負・任期後の目標

任期終了後すぐに就農しますので大変な事もあるかと思いますが、就農に対する準備は3年間もさせて頂いてきております。この間に培った農業に関する事、地域に関する事、生活に関する事などを活かして、人生最後の挑戦を着実に、そして邑南町の皆様と楽しみながら進んでいく覚悟です。

活動内容

●1年目の活動

初めての農業、初めての共同作業。主に地元JAさんと連携を取りながら邑南町に集まった同期の仲間と様々な野菜や花を育てて出荷致します。草刈りひとつ取っても周辺農家さん達とのコミュニケーションの大切さを学びました。

●2年目の活動

県の農林大学校で1年間の短期養成コース（果樹専攻）に通わせて頂きました。今後、島根県でぶどうを栽培していくのに必ず役立つ内容の課業にどっぷりと浸かることが出来ました。あまりにも積極的に質問し過ぎて、先生方を困らせてしまった事も度々ありました。

●3年目の活動

邑南町での就農に向けて最終準備の年です。自分がリースをする予定のハウスでぶどうの樹の育成をしながら、作成した就農計画を元に就農初年度で必要な経費の準備を行います。まだ就農前なので幻に終わりましたが、お試しで着果させてみた初なり神紅の…それはそれは美味しかったこと。

連絡先

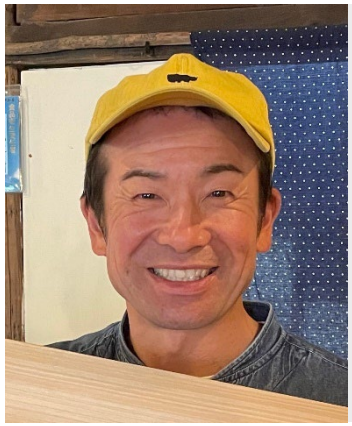
【メディア等の取材連絡先】
（電話番号）090-9144-4061（岡村健太）
就農後の屋号は、紅ぶどう園（くれないぶどうえん）です。

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
岡村健太（@posge）さん / X（旧Twitter）

岡山県美作市　熊丸　博樹

農業・林業

基本情報



【年　齢】
46歳
【出身地】
福岡県久留米市
【転出元】
岡山県岡山市
【前　職】
農業機械メーカー
設計開発、営業
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

前職の関係で農機具の紹介に、英田上山棚田団を訪問した時、稲刈りを一緒にやったことが始まりでした。
この時に、お米づくりを続けることで里山も整備され、人の暮らしも続けていくことができると教えてもらいました。
昔ながらの大変な作業も、仲間が集まることで楽しくできるし、おいしいお米も食べられる。最高だと思いました。
また、これまでの仕事柄、使用されている農機具や草刈機のメンテナンスや修理ができるので、自分の経験を活かすことができる環境だなと感じたこともきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

任期後も、上山で棚田に関わりながら暮らし続けていくことです。
生活のための稼ぎを考え出していくことが協力隊期間の課題と考えています。

楽しくなければ続けられないので、関係人口を増やし、笑顔の絶えない棚田の作業を続けていきたいです。

活動内容

●棚田の再生・維持活動

地域住民や稲株主など、棚田に関わる人と共にお米づくりを続けていくことで棚田のある景観を守っていく。
稲株主制度：稲株のオーナーとなり、農作業体験や収穫祭に参加し、配当米を受け取れる制度。

また、お米以外の棚田活用方法を試行錯誤する。

●農業機械のメンテナンス・修理

農作業に必要な機械を少しでも長く使い続けられるように、メンテナンスや修理をする。
棚田団所有の機械をはじめ、地域住民のものまで。
農機具屋から集落まで遠いので、機械の調子が悪い時に来てもらうのは時間がかかる。
機械のかかりつけ診療所的な役割を担っていく。

●いちょう庵、上山逸品

・上山でできた製品たちを「上山逸品」として紹介、販売していく。地元のマルシェから都会のデパートなど幅広く。合わせて稲株主の募集もしていく。

・上山にある棚田団の拠点「いちょう庵」の活用として、カフェやイベントスペース、ワークショップなど、人が集まって得意を披露する場所にする。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））kumapkumap83@gmail.com
（電話番号（個人））090-1018-2782

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）https://www.instagram.com/ueyama_tanadadan
（Face book）https://www.facebook.com/tanadadan

愛媛県　　鬼北町　　大村　怜

農業・林業

基本情報

【年　齢】
24歳
【出身地】
東京都八王子市
【転出元】
東京都八王子市
【前　職】
大学生
【活動時期】
R4.4～R.7.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

大学4年生の時、インターンをきっかけに鬼北町の道の駅を訪れ、鬼北町を知りました。以前から農業に興味があり、特に養鶏等の生き物に関わる仕事をしたいと考えていました。鬼北町は全国でも珍しい「きじ」の特産地です。鬼北町を訪れるまで、きじの養殖が盛んであることを知りませんでした。「きじ」という、珍しい品目を育てること、きじという食材を全国に広めることにやりがいを感じ、きじ生産に関わってみたいと思い、応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

きじの養殖で独立する事を考えています。現在は一人暮らしですが、いずれは東京の家族を鬼北町に呼び、家族の面倒を見ながら働ける方法を確立したいと考えています。私の家庭は4人家族で、父親と、私を含める三つ子の兄弟がいます。私以外の兄弟は重度の知的障害を抱えており、誰かが面倒を見る必要があります。そこで、生活介護事業者のような形で起業し、主な事業をきじの養殖や農業とし、日本の未来と自分の幸せを両立させるような仕組みづくりをしたいと考えています。

活動内容

●きじの飼育

きじの飼育の主な内容は、きじの孵卵、育雛、餌やり、きじ舎内の清掃、消毒、出荷などです。きじはニワトリ等と異なり、春にしか産卵しない生き物です。４～６月は孵卵、育雛。7~10月は成鳥の飼育。11~1月は出荷。1月からは親鳥の育成と、季節によって様々な業務があります。

●野菜の栽培、県内農家の視察

近所の畑をお借りして、様々な野菜の栽培を行っています。畑にはきじ舎で取れる糞を主に利用し、それ以外の肥料や農薬をなるべく使わない、循環型農業を目指しています。また、採れた野菜は公民館行事などに活用し、地域行事のサポートも担っています。

●町内農家のサポート

町内農家の業務、きじ生産者の出荷作業等、米農家の柵張りや、くり農家の栗収穫の作業等をしています。ただ作業を行うだけでなく、栽培技術を学ぶ機会にも繋がっています。地域行事にも積極的に参加し、地域の活性化にも意欲的に取り組んでいます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））omura_satoshi_1012@icloud.com（個人）
（電話番号（個人or職場））090-6307-6278（個人）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（facebook）https://www.facebook.com/profile.php?id=100080260146088
（instagram）https://www.instagram.com/omura_satoshi/

08 環境保全・自然保護

北海道羽幌町　三好　由芙子

環境保全・自然保護

基本情報

【年　齢】
29歳
【出身地】
千葉県千葉市
【転出元】
北海道江別市
【前　職】
学生
【活動時期】
R3.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

旅行でみた北海道の雄大な自然に憧れて、北海道の大学に進学し、野生動物について学びました。卒業後も自然に関わる仕事がしたいと考えていたところ、羽幌町で環境保全活動や環境教育に係る地域おこし協力隊の募集を見つけました。募集を知るまで“海鳥”についてほとんど知らなかったのですが、新しい分野への好奇心がありました。また、大学進学前に北海道に行った際に冬の北海道の荒々しい日本海に衝撃を受けてから、冬の日本海の荒々しい海が好きで、「ここで暮らしたい」と思い、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

羽幌町に来てから、念願のハンターになることができました。大学の頃から、農業被害の防除や捕獲・駆除個体の有効活用について関心があり、地域の人と野生動物の軋轢について取り組んでいきたいです。留萌管内には販売・流通が可能なジビエの食肉加工場はなく（2023年11月時点）、加工場設置のため経験を積んでいきたいと思います。

活動内容

●シーバードフレンドリー認証制度のリニューアル

シーバードフレンドリー認証制度とは、地域事業者の環境にやさしい取り組みを認証し、消費者へ啓発することで、環境保全と地域産業振興の両立を目指す羽幌町のローカル・エコ認証制度です。100万羽の海鳥が毎年訪れる羽幌町で、海鳥をとりまく自然環境（海・川・里・森）の保全を地域産業に広めていくため、2018年度からスタートしました。
リニューアルでは、認証エリアを羽幌町から留萌管内に広げ、漁業・農業の具体的な認証基準を作成しています。

●羽幌高校とシーバードフレンドリー推進協議会連携の環境教育

協議会と羽幌高校の連携のもと、毎年「総合的な探究の時間」カリキュラムの中で、地域の自然環境と抱えている課題について学ぶ環境教育の授業を行っています。
９月のはぼろサンセットビーチの海岸清掃では、北るもい漁業協同組合や羽幌ロータリークラブにもご参加いただきながら行っており、海洋ゴミやプラスチックの問題を身近に感じてもらって“自分達に何ができるか”を考えてもらいます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））c-seisaku@town.haboro.lg.jp
（電話番号（職場））0164-68-7013

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（協力隊HP）https://haborokyoryokutai.wixsite.com/ororon

青森県　西目屋村　山形祐介

環境保全・自然保護

基本情報

【年　齢】
３６歳
【出身地】
青森県弘前市
【転出元】
神奈川県大和市
【前　職】
会社員
【活動時期】
Ｒ４．７～
（２年目）

協力隊に応募したきっかけ

趣味が釣りやキャンプなど自然と関わるものが多く、狩猟や鳥獣被害防止対策にも関心があった。都市圏と地方の生活をどちらも経験した上で、自分には自然に囲まれて働き、暮らすのが合っていると強く感じ、地方への移住を検討するようになった。
情報収集を進めるなかで、出身地である弘前市からも近く、よく渓流釣りや山菜採りに訪れ馴染み深く、自然豊かで魅力的と感じていた西目屋村で、鳥獣被害防止対策分野の協力隊員を募集していたため、応募に至った。

今後の抱負・任期後の目標

農家とふれあうことで、鳥獣害対策は農家の生産意欲を守るために必要なことだと再認識しながら、業務を行っている。
今後は、狩猟免許等を活用して更なる貢献を目指している。また、白神山地やマタギ文化のことを深く学び、その魅力と資源を活用・発信していきたい。

活動内容

●農地パトロール

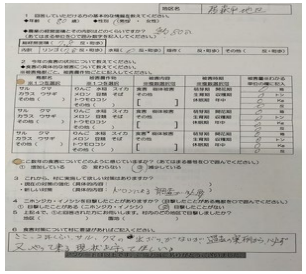
農作物被害や生息調査、鳥獣被害防止電気柵等の確認を行うための農地巡回。
園地に侵入する鳥獣を目撃した際は、追払いや捕獲を行う。

●有害鳥獣対策

農作物被害を防止するための鳥獣被害防止対策として捕獲檻の設置中。
西目屋村では、主な加害鳥獣として、サル、クマが園地に出没し、基幹作物となっているりんごに被害をもたらしている。

●被害・生息等データの活用

鳥獣被害や生息状況の記録中。農地パトロールや住民アンケートを行い記録したデータを基に効果的な被害防止策の検討を行う。



連絡先

【西目屋村企画財政課】
（メールアドレス）yoshitomo-k@vill.nishimeya.lg.jp
（電話番号）0172-85-3080

東京都八丈町　鈴木　綾

環境保全・自然保護

基本情報

【年　齢】
39歳
【出身地】
埼玉県本庄市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前　職】
金融関係
【活動時期】
R4.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

旅行やダイビングで八丈島には度々訪れており、八丈島の人・自然に魅力を感じていました。海なし県出身の私にとって、海のある生活というものにも魅力を感じていました。

また、社会人学生として島嶼地域で行われている持続可能な社会に向けた取り組みについて調査していた中で、離島で行われている再生可能エネルギー事業にかねてから関心があり、「再生可能エネルギーの活用」というミッションで募集されていたので応募をしました。

今後の抱負･任期後の目標

地域の方々に少しでも再エネに興味を持ってもらえるようなイベントやワークショップの開催をしていきたいと思っています。また、町として今後のエネルギー政策の指針となる脱炭素計画を策定する予定ですが、自治体、地域の方々と協働し、島内の現状把握や自然エネルギーのポテンシャルについて調査しながら、計画策定に向けて自身ができる業務を遂行していきたいと思います。

任期後も定住をし、地域の方々とともに、八丈島の魅力を引き出せるような活動をできればと思っています。

活動内容

●再エネ関連事業

八丈町では地熱発電所が建設中であり、地熱発電事業に関連する業務や再エネ全般に関する情報発信やイベントの開催をしています。

また、町としての脱炭素計画の策定に向けた調査や情報収集をしています。

●地域おこし協力隊協働活動

地域おこし協力隊全員で協力隊員それぞれのミッションに関連するイベントの開催をしています。

また、「地域おこし協力隊通信」を発行しており、協力隊の活動を地域の方々に認知していただくとともに、地域の方々のニーズを意識した活動を遂行できるよう努めています。

●セミナー、研修への参加

再エネ関連のオンラインセミナー等への参加を通して自己研鑽に努めています。

また、地域おこし協力隊の研修や離島住民を対象とした集合研修等に参加し、様々なアイデアや意見を共有しながら協力隊活動に活かしています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））ha130@town.hachijo.tokyo.jp
（電話番号（職場））04996-2-1120

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（八丈町地域おこし協力隊facebook）https://www.facebook.com/8okoshi

長野県松本市　小川　結

環境保全・自然保護

基本情報

【年　齢】
30歳
【出身地】
東京都杉並区
【転出元】
東京都杉並区
【前職（兼職中）】
民間シンクタンク勤務
（環境問題の調査・政策立案支援）
【活動時期】
R5.8～

協力隊に応募したきっかけ

2年前の夏、暑い東京から逃れるべく友人とワーケーション先を探していて、たまたま乗鞍高原を訪れました。1か月弱の滞在を通じて、乗鞍の自然や人が大好きになり、シーズンごとに通うように。

訪れるうちに、ゼロカーボンパークの乗鞍で進むサステナビリティへの取組に関心を持つようになり、移住をしたら地域を良くしていくことにもっと貢献ができるんじゃないかと思っていたところ、ちょうど協力隊の募集があったため、応募し、協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

乗鞍高原では、地域ビジョン「乗鞍ミライズ」をはじめとして、地域を良くしていくための様々な取組が進んでいます。乗鞍を含む周辺地域が100年先も持続可能であり続けるために、地域の人・行政・DMO・教育機関など様々なアクターが一丸となって取組を加速化させていく、そのためのお手伝いができたら嬉しいです。

最終的には、乗鞍を含むアルプス山岳郷一帯が、世界に誇れる持続可能な観光地になっていくことが目標です！

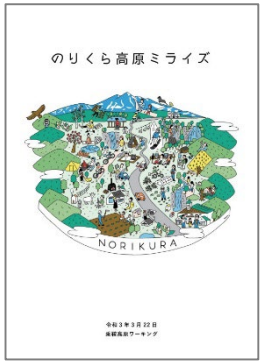
活動内容

●乗鞍高原ゼロカーボンラボラトリー（ゼロラボ）

「残したい暮らしとつくりたい暮らし」をテーマに、乗鞍高原でゼロカーボンを学び実践するコミュニティラボの運営事務局兼コミュニティマネージャーをしています。

エネルギー、資源循環、モビリティなどのテーマで講師を招きセミナーを開催し、昨年度は地域内外から24名が参加。学んだ内容を活かして今年度は6つのプロジェクトが動いています。また今年度はのプログラムには約15名が参加し、昨年度に加えて新たなプロジェクトが走り出す予定です。

●のりくら高原ミライズ



乗鞍高原では、2021年に策定された地域の将来ビジョン「のりくら高原ミライズ」を基に、課題ごとに分科会を設置し、地域をより良くしていくための活動が行われています。活動の進捗共有のために定期的に開催される全体会合の事務局として、情報共有やゼロラボの取組との調整を行っています。

●地域で活躍する方へのインタビュー

「地域を良くするためにはまずは地域を知ることから」という趣旨で、地域で活躍している方に取組や想いを伺うインタビューをしています。活動開始から、環境省国立公園事務所、松本市、アルプス山岳郷（DMO）などの方々にお話をお伺いしました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））y.ogawa@alps-sangakukyo.jp
（電話番号（個人））090-9147-8116

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
乗鞍ゼロラボ　https://zerolabo.info/

09 医療・保健

京都府綾部市　池田香理

医療・保健

基本情報

【年　齢】
５６歳
【出身地】
（京都府）（宇治市）
【転出元】
（埼玉県）（朝霞市）
【前　職】
行政保健師
【活動時期】
R3.12～ R6.11
（２年目）

協力隊に応募したきっかけ

綾部市への移住を考える中でコミュニティナースの存在を知り、自分のこれまでのキャリアを生かせるのではないかと思った。

今後の抱負・任期後の目標

地域の人々より信頼関係を築くなかで地域の健康づくりを一緒に考えていきたい。

活動内容

●コミナスの部屋

・各地区の最寄の公会堂や集会場を借りて地域の方が気軽に集まれる場所、健康を生み出す場所づくりの創出
・地域の方ならどなたでも参加可能（赤ちゃんから高齢者まで）

●個別訪問・健康相談

・個別のアプローチとして関わりをもち時間をかけて健康や暮らしについて傾聴していく。必要時は専門機関への情報共有を行い、切れ目ないフォローを目指す。

活動内容が
分かる写真など

●地域行事への参加

・行事や地域サロンへ参加し、様々な生活の場面で出会うことで多面的に生活様式をアセスメントし健康行動につながる関わりを目指す。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）nn-nabeshima@city.ayabe.lg.jp
（電話番号）0773-54-0095
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）https://www.facebook.com/communitynurseayabe/
（綾部市HP）　http://www.city.ayabe.lg.jp/teiju/kenko/cn/index.html

京都府綾部市　日詰佳世

医療・保健

基本情報

【年　齢】
５５歳
【出身地】
（大阪府）（交野市）
【転出元】
（大阪府）（交野市）
【前　職】
看護師（病院勤務）
【活動時期】
R4.1～ R6.12
（２年目）

協力隊に応募したきっかけ

地域で生活する人たちの看護に関わりたかった。

今後の抱負・任期後の目標

地域住民とともに健康活動を展開していきたい。任期後は地域が森あっがる活動に関わりたい。

活動内容

●コミナスの部屋

・各地区の最寄の公会堂や集会場を借りて地域の方が気軽に集まれる場所、健康を生み出す場所づくりの創出
・地域の方ならどなたでも参加可能（赤ちゃんから高齢者まで）

●個別訪問・健康相談

・個別のアプローチとして関わりをもち時間をかけて健康や暮らしについて傾聴していく。必要時は専門機関への情報共有を行い、切れ目ないフォローを目指す。

活動内容が
分かる写真など

●地域行事への参加

・行事や地域サロンへ参加し、様々な生活の場面で出会うことで多面的に生活様式をアセスメントし健康行動につながる関わりを目指す。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）nn-nabeshima@city.ayabe.lg.jp
（電話番号）0773-54-0095
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）https://www.facebook.com/communitynurseayabe/
（綾部市HP）　http://www.city.ayabe.lg.jp/teiju/kenko/cn/index.html

10 デジタル

北海道神恵内村　北川　健太

デジタル

基本情報

【年　齢】
25歳
【出身地】
北海道神恵内村
【転出元】
北海道札幌市
【前　職】
会社員（自動車整備士）
【活動時期】
R4.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

地元である神恵内村に帰ってこようとした時に、地域おこし協力隊の存在を知って、地域のためになる活動や地域の人と触れ合えるような活動を行ってみたいと思い応募しました。

元村民という点もあり、村になじんでいけるかという心配が少なかったのも応募に至った要因の一つでもあります。

今後の抱負･任期後の目標

これまでは、地域コミュニティツールである「かもえないチャンネル（通称：かもチャン）」を高齢者の方々に使っていただけるように活動してきましたが、今後は若い世代や子供たちに使っていただけるような取り組みを行っていきたいです。

また今後は、「かもチャン」をうまく活用しながら、地域コミュニティをより活性化できるような活動もしていきたいと考えています。

活動内容

●DX事業のサポート

神恵内村で行っている様々なDX事業の現地サポートを行っています。

神恵内村では富士通Japan㈱に委託し、「コミュニティDX」や「教育DX」などのDX事業を行っており、デジタルの導入に伴う現地の課題などを共有し、よりよく改善されるための活動を行っています。

●コミュニティDX

「コミュニティDX」の事業で導入した地域コミュニティツール「かもえないチャンネル（通称：かもチャン）」の導入補助や操作説明、「かもチャン」を使用したイベントの実施、利用状況の集計などを行っています。

●教育DX

富士通Japan㈱の社員が小・中学校に来てプログラミングの授業を行ったり、オンライン授業を行ったりしているのでそのサポートをしています。

また、「かもチャン」を使用した授業の接続サポートなども行っています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））kikaku-3@vill.kamoenai.hokkaido.jp
（電話番号（職場））0135-76-5011

北海道栗山町　鈴木　敦文

デジタル

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
神奈川県逗子市
【転出元】
神奈川県逗子市
【前　職】
プログラマー
【活動時期】
R3.10～R6.9

協力隊に応募したきっかけ

前職では約2年間、Web・ITサービスの分野でサービス開発やプログラマーなどの業務をしておりました。
プログラマーとして歩む上で、自分に足りないものや時代の変化に対応するためにどうすればいいか思案していたところ、大学時代から関心のあったファブラボの地域おこし協力隊募集を見かけすぐさま応募。
熱心に担当者へ想いを伝えて着任することとなりました、

今後の抱負・任期後の目標

現在は「地域課題プロジェクト」として、町民の困りごとをデジタルファブリケーションの文脈から解決しようと試みています。自分は現場を後方から支援する「椅子の男」と呼ばれるポジションに憧れを持っていて、幼少の頃から家族や周りに支えられていたこともあって、今度は自分がそうなりたいなと思っています。自分はあくまで裏の人としてスキルを活かし栗山で活動する人を支えられる人になりたいです。他者から要求される課題について「（IoT分野では特に）何でも作れる」スキルを習得して活動したいです。

活動内容

●自動分別機「AIソーター」の制作

地域課題調査で、栗山町はごみの分別種類が多いため、リサイクルセンターの作業員の方がごみを人力で再分別していました。その課題解決のため、カメラで画像認識したものを事前に学習させたAIによって仕分けをする「AIソーター」を制作しました。ゴミの分別の他、ペットボトルキャップの色分けや野菜の規格分けに使用できるよう考えました、

●安全操作講習インストラクター

ファブラボ栗山内の工作設備の使い方と、安全に利用するためのルールをお伝えする安全操作講習のインストラクターをしています。レーザー加工機、３Ｄプリンターの講師をしております。

●地域課題プロジェクト「地縁技融」

ものづくりで栗山町の課題を解決するためのオープンプロジェクトです。地域の人々や資源等とデジタル技術とを融合して新たな価値や創造性を生み出せるよう活動しています。その第１弾として町内在住の電子音楽ユニット「木箱」とコラボし、『フレキシトーン』という電子楽器を制作しました。町内の農家さんと連携して、ビニールハウスでも使用できるIoTデバイスも開発しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）info@fablabkuriyama.jp　（電話番号）0123-76-7787
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）　（Facebook）

北海道　上士幌町　阿部千紘

デジタル

基本情報

【年　齢】
28歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前　職】
広告代理店 営業
【活動時期】
R5.7～R8.6

協力隊に応募したきっかけ

大学時代を十勝で過ごし、部活で熱気球に関わっていたことから、もともと上士幌町に関心を持っていました。今年の２月に札幌で行われた『地方で働くこと』をテーマとした交流イベントに参加した際に、上士幌町の取り組みを知り、その中でICTを活用したまちづくりに特に興味を持ちました。地域おこし協力隊になることで、地域の人達と関わりながら、社会に貢献していると実感しながら働くことができると思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

ICTを活用した上士幌町の取り組みやそのサービスの利便性を向上させるとともに、デジタル分野が苦手な方や抵抗がある方も誰一人取り残さないように、町民の方と町の取り組みを繋げる役割を担っていきたいと思っています。

現在、任期が終了した後の具体的な目標は定まっておりません。3年間の活動を通して、自分が生涯続けていきたいことを見つけたいと思っています。

活動内容

●域内のITリテラシー向上

マイナンバーカードの保険証利用やマイナポータルの使い方について、町民向けに説明会を行っています。身近な問題の提起から実際に触れていただく体験型の構成にし、スマホの操作は地元の高校生に手伝っていただくことで、楽しみながらデジタルに親しんでいただけるように工夫しています。

●窓口業務DX

現状の課題を洗い出すため、窓口業務を担当している職員にヒアリングを行い、ライフイベント毎の申請や手続き業務のプロセスマップを作成しました。また、担当者間で共通の問題意識を持つことや、職員目線での課題を引き出すことを目的に職員研修を行いました。

●町内サービスポータルサイトと官民データ連携基盤構築

官民データ連携基盤を活用して、町内サービスの利便性向上を図るとともに、利用者向けにポータルサイトの周知活動を行っています。また、町民の利便性の向上とともに職員の業務負担を軽減するため、町内施設の予約サービス導入を検討しており、予約から利用までのフローチャートの作成等準備を進めています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）ict@town.kamishihoro.hokkaido.jp
（電話番号）01564-7-7230

岩手県岩泉町　澤里　寛行

デジタル

基本情報

【年　齢】
４６歳
【出身地】
岩手県岩泉町
【転出元】
岩手県盛岡市
【前　職】
個人事業
（ソフトウエア開発）
【活動時期】
Ｒ３.４～

協力隊に応募したきっかけ

知人の紹介をきっかけに岩泉町と総務省のウェブサイトにて情報を収集。

今後の抱負・任期後の目標

町の課題を解決しつつビジネスモデルを確立したい。

活動内容

●遠隔監視・捕獲検知装置の開発

モバイル回線を用いて有害鳥獣捕獲罠の監視・捕獲検知を行う独自の装置を開発し特許を取得。
本装置は令和5年に開催された、第59回岩手県発明くふう展で特賞となる東北経済産業局長賞を受賞。

●ドローンによる捕獲罠管理実験

レベル４飛行実現に向け、有害鳥獣捕獲罠の管理を自動航行のドローンで行うための模擬実験を実施。

●鳥獣被害対策ネットワークの構築

遠隔監視・捕獲検知装置を用い、遠隔地の従事者が相互に作業を分担することを可能とするソーシャルネットワークシステムの開発。
行政と従事者をICTで繋ぎ円滑な連携を可能とするシステムの開発。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人）） hiroyuki@sawasato.com
（電話番号）0194-22-2111（内406）
（岩泉町役場　政策推進課　政策推進室）

山形県長井市　舟山　凱

デジタル

基本情報

【年　齢】
２２歳
【出身地】
山形県川西町
【転出元】
東京都杉並区
【前　職】
大学生
【活動時期】
Ｒ４.８月～

協力隊に応募したきっかけ

単なる操作の上手い下手だけではなく、立ち回りによって戦況を変化させることができる競技性や、日々の努力の末に強い相手に撃ち勝った際に得られる大きな喜びや達成感など、それまでには感じることのなかった競技性の奥深さから、「eスポーツ」という競技について関心を持つようになり、eスポーツを通じて長井市のスマートシティ化やそれを担う人材育成に貢献したいと感じたことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

まず１年間活動して、学生や若い年齢層の方にはeスポーツに対する理解が得られたと感じています。実際にNe-stの利用者は２０歳以下が最も多く、大会への参加者についても同様です。しかし、それ以外の年齢層への働きかけが不十分であることもまた事実だと感じています。そのため今後は、eスポーツをプレイする楽しさはもちろんのこと、その他にも大会を観戦する楽しさや奥深さについての魅力も発信していきたいと思います。また、企業や社会人向けのeスポーツメニューを拡充し、幅広い年代でeスポーツに関わりを持ち地域活性化に役立つような未来を目指し活動していきたいです。

活動内容

●小規模コミュニティ大会（ACC）の開催

取得が難しいとされるゲームのカスタムサーバー権限を取得し、Aspirant Challenger Cupという名のコミュニティー大会を3度開催しました。
参加者から多くの反響の声をいただいており、今後も定期的に開催していきたく思います。
また、優勝景品に長井市の地場産品などを用いるなど、長井市の知名度向上も同時に行いたいです。

●地域イベントへの協力

旧長井小で開催されたゲームの日イベントにeスポーツのブースを出展させていただき、ゲーミングPCの体験会を開催しました。
計152名の方に体験いただき、eスポーツの認知向上に貢献することができたと感じています。
今後も積極的に地域のイベントと協力し、eスポーツの普及に努めていきたいと思います。

●やまがたデジタルこどもラボの運営

今年度より、デジタルに触れるきっかけを提供し、将来の選択肢を広げることを目的としたクラブ「やまがたデジタルこどもラボ」を開始しました。
これまでに動画編集やマインクラフトを活用したプログラミングなどを行っています。会員数が１名と少し寂しいので、今後会員数を増やしていけるよう頑張ります。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）n－chiiki@city.nagai.yamagata.jp
（電話番号）0238－82－8005

山形県遊佐市　渡辺　真央

⑩デジタル

基本情報

【年　齢】
29歳
【出身地】
群馬県伊勢崎市
【転出元】
東京都八王子市
【前　職】
都市計画コンサルタント
【活動時期】
R4.6～R7.5

協力隊に応募したきっかけ

数年前に偶然訪れたことがきっかけで、遊佐町の人や環境に惹かれ、夫婦で毎年遊びに来ていました。毎年通う度に、遊佐町内に知り合いが増えていき、ある回に「なんで東京に帰んなきゃいけないんだ？」と思ってしまったことが移住思考にシフトしたきっかけだったと思います。
頼れる存在が何人もいたことで、「ここなら移住しても大丈夫」という安心感があったことが決断の決め手でした。

今後の抱負・任期後の目標

任期後には古道具店兼カフェを営みたいと思っているので、応援される立場になれるよう、協力隊任期中になるべくたくさんの地元の方に認知してもらい、仲良くなることを頑張りたいです。（協力隊制度は、任期中に地元との関係性を作れるので、ポッと出で開業するよりだいぶスタートしやすいと思っています。）

活動内容

●スマホ道場

スマホについてわからないことを一対一で相談できる「スマホ道場」を2022年10月から実施しています。週２日程度の頻度で開催し、これまでにのべ650名の門下生が通ってくれています。スマホ道場を通して、野菜のおすそ分けをいただいたり、趣味のサークルに誘っていただいたり、地元の方とのつながりを作る場になっています。

●こどもたちのデジタル学習

こどもたちに人気のゲームソフト「マインクラフト」の教育版を使って、地元の小中学生を対象に、プログラミング教室を実施しました。

●森のインスタレーション

協力隊活動とは別に、移住前からお世話になっている地元のカフェのマスターと、「森のインスタレーション」というイベントを自主企画しました。こどもたちが描いた絵を森の中に飾ったり、森の中で音楽会や朗読会をしたりしました。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））m-watanabe@yuzamachi.com
（電話番号（職場））0234-72-5893（遊佐町役場総務課ICT推進室）
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（スマホ道場）https://sites.google.com/view/yuzamachi-smapho
（来ちゃいなよ。ゆざまち）https://yuzamachi.com/

栃木県真岡市　栗村千愛

デジタル

基本情報

【年　齢】
33歳
【出身地】
福島県郡山市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前　職】
編集者、ライター
【活動時期】
R4.4～
（育休1年取得）

協力隊に応募したきっかけ

子育てをきっかけに、地域で仕事をしたいと思ったため。
地域の仕事を探しているとき、真岡市の募集内容を見て、自分のスキルを活かして地域に貢献できるのではないかと考え応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

・子育て世代が子育てしやすく、より楽しくなるような情報を発信したり、「こんなのがほしい」と思うことをカタチにしたりしていきたいです。
・真岡のさまざまなひと、もの、ことを取材して、真岡って良いな―！と伝えられるような本をつくりたいです。

活動内容

●まちづくりに取り組む方のインタビュー記事制作

真岡でまちづくりに取り組む方々を取材・撮影して記事を月2本程度つくり、市ホームページや広報誌、noteに掲載しています。半年で16本公開。個々人のプロフィール的に活用いただくことに加え、市内外の認知度向上、つながりの構築を目指しています。

●子育て世代向けメディアの運営

地域特有の子育て向けの取り組みや、先輩からの知見をより伝わりやすくするため、真岡の子育て世代向けのメディアをつくりました。
真岡で暮らしたり働いたりしている仲間と、情報誌の発行、Instagramの運用をしています。
実際に取材をして、子育て世代の目線で情報発信中！

●真岡まちづくりプロジェクト

高校生～大人のメンバーが集まり、市内の「もったいない」ものを活かし、それぞれの「やりたい」をかなえていくプロジェクトに参加しています。2022年グッドデザイン賞を受賞しました。特に廃棄本の利活用や、図書館と連携したイベント開催などの活動をしています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
真岡市プロジェクト推進課
（メールアドレス）project@city.moka.lg.jp
（電話番号）0285-83-8059
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
note　https://moka-city.note.jp/
Instagram　@moka_baton

note

Instagram

新潟県長岡市　　内堀　裕也

⑩デジタル

基本情報

【年　齢】
27歳
【出身地】
神奈川県愛川町
【転出元】
神奈川県愛川町
【前　職】
愛川町役場
【活動時期】
R5.8～

協力隊に応募したきっかけ

以前よりeスポーツの競技シーンや観戦が好きで、競技選手を目指していた時期もあり、eスポーツに携わることのできる仕事を探していたところ、長岡市でeスポーツを活用した地域活性化に向けて協力隊を募集していることを知り、自分にも力になれることがあるのではないかと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中には多くのeスポーツイベントや対戦会などを多く開催し、普段行政とあまりかかわることのない学生や若者を中心にコミュニケーションを取りながら、「長岡市といえばeスポーツ！」といわれるような街づくりを行っていきたいです。
任期後については地域おこし協力隊の任期中に得た経験や知識、人脈を活かし長岡市内でeスポーツ施設の運営に携わりたいと考えています。

活動内容

●e-スポーツスペース　e-GATE 運営

令和5年6月より寺泊地域と栃尾地域の公共施設内に開設されたeスポーツスペースの管理運営を行っています。利用者との情報交換や操作サポート、定期的なPCのメンテナンスを行っています。

●e-GATE　受付システムの構築

e-GATEの会員制度とQRコードでの利用受付、利用者統計も取れるシステムを検討中です。

●eスポーツの普及

地域で開催されるイベントの中で、eスポーツ体験ブースを運営しています。多くの方からeスポーツを体験していただくことで、eスポーツの良さを地域に伝え、eスポーツの普及を推進していきます。

●子どもたちと一緒にゲーム内に街並みづくり

地域の子どもたちと協力して、ゲーム内に実際の街並みを作り、イベントで披露しました。宝探しの仕掛けを盛り込み、お子さんから大人まで幅広い年代の方に楽しんで頂くことができました。

連絡先

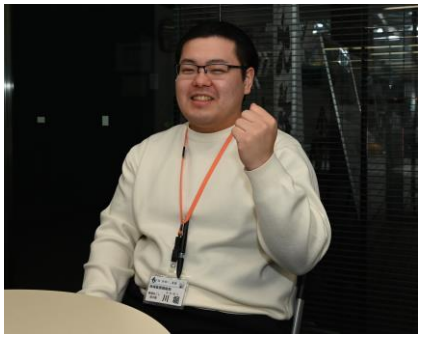
【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））uchibori.chiikiokoshi@gmail.com
（電話番号）0258-39-2515(長岡市役所　地域振興戦略部)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://x.com/eGATE_NAGAOKA

新潟県長岡市　　川堀　龍

⑩デジタル

基本情報



【年　齢】
25歳
【出身地】
埼玉県春日部市
【転出元】
愛媛県松山市
【前　職】
学生
【活動時期】
R5. 7～

協力隊に応募したきっかけ

新潟県長岡市には，大学院進学を機に転入．大学院で研究生活を送る上で，長岡市の学生と企業が繋がるイベント等に参加した際に，大学での専門分野（工学系）以外のことで自分にできることはないか模索し，地域おこし協力隊を発見．長岡市の中山間地域でのデジタルデバイドが生じており，特に豪雪地帯である長岡市の雪のシーズンはその問題が顕著であることに対して自分でもできることを！と思い応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

今後の抱負として，中山間地域のIT機器の普及を通じて市内がオンラインでつながることを目標としています。また，その普及活動でのつながりを大切にし，デジタルだけに頼らず，コミュニケーションを取りながら地域との連携をしていきたいです。

任期後には長岡に定住し，長岡市や長岡市民の新たな交流や繋がりを提案できるような活動をしていく予定です。

活動内容

●中山間地域のシニア向けスマホ教室

Google検索（音声，カメラ）を用いてシニアへスマホでできることの提案．特に，「ガラケーからスマホに買い替えたいけど，スマホが分からない」などの声に対して，スマホへの抵抗を少しでも減らし，スマホを携帯してもらうように教室を開催しています。

また，スマホのセキュリティについてやLINEを用いたスマホでのコミュニケーションの取り方，オンラインでのスマホの活用について授業．定期的にスマホ出張相談も実施しています。

●アレクサやZOOMなどを用いて中山間地域と旧長岡市を繋ぐ

支所地域の手続きのオンライン化が検討されている中，シニアはオンラインで話す（画面に向かって話す）ことに慣れていないため，スマホの困りごと相談を題材にしています。遠隔地から困りごと解決に向けた相談を開催し，シニアに寄り添って，少しでもオンラインでのコミュニケーションに慣れてもらえるように補助しています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

Mail: t.kawabori.chiikiokoshi@gmail.com（個人）

TEL.: 0258-39-2260（長岡市役所　地域振興戦略部）

熊本県宇城市　万田 麻央

デジタル

基本情報

【年　齢】
29歳
【出身地】
熊本県熊本市
【転出元】
福岡県福岡市
【前　職】
キャリアアドバイザー
【活動時期】
R3.9～R4.10

協力隊に応募したきっかけ

地元熊本の役に立っていると実感できる仕事をしたいと思ったことがきっかけです。
地域創生に関心があり、前々職でも国や自治体の地域創生事業の企画運営に携わりました。
「eスポーツ」は未開拓分野でしたが、地域の方と直接かかわる機会はこれまでなかったので、今回の協力隊の募集が拠点を活用でき、あらゆる世代の方と交流できるところを魅力に感じ応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

現在活動しているeスポーツとデジタルの拠点「うきのば」が遊べる、学べる場であるだけでなく、地域の方の「居場所」「よりどころ」になれるよう、一人ひとりとの関わりを大切にコミュニティづくりをしていきたいです。

また、取得予定のキャリアコンサルタント資格を活かして、eスポーツ人材のキャリア支援や、eスポーツ使ったキャリア教育・サポートを行っていきたいです。

活動内容

●通称は「うきのば」のおねえさん。幅広い世代の方交流中

空きスペースを活用して、熊本県内初のeスポーツ×デジタルの拠点うきのばが2023年1月OPEN。準備の段階から携わり、10月末までに累計イベント数84件、来場数8000人超の拠点に。来場者と積極的にかかわり、ユーザーの声を拾い集めるコミュニティマネージャーとして活動。イベント企画等行っています。

●予約不要の「スマホなんでも相談所」

定例のスマホ講座に加えてイベントがない時間帯でスマホの操作補助等を一人ひとりにあわせて対応。
「思い立ったときに気軽に聞けるのが心強い。」
「うきのばがあってよかった。」というお言葉も。
お饅頭やコーヒーを差し入れいただいたり、地域の方と親しくなるきっかけにもなっています。

●保護者とともに子どもの成長を見守る地域の一員

親子での来場が多く、子どもの成長を見る機会が多々あります。学校でおとなしい子がゲーム内でリーダーシップを発揮、なんてことも。気づきがあれば都度保護者の方にシェアしています。毎月2回プログラミング講座も実施しているので、可能性や選択肢を広げることに貢献できればと考えています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（うきのば））uki.espo@gmail.com
（電話番号（市長政策課直通））0964-32-1803

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（うきのばHP）https://www.ukinoba.com/

HP

LINE

11 教育･文化

北海道白糠町　山田　陽子

教育・文化

基本情報

【年　齢】
44歳
【出身地】
北海道北広島市
【転出元】
北海道北広島市
【前　職】
北海道文化財団、
ピアノ講師など
【活動時期】
R4.5～

協力隊に応募したきっかけ

音楽（ピアノ）で情操教育（こどもたちの心を豊かにする）指導者を募集していることを恩師から聞き、是非、活動したいと思った。
地域おこし協力隊として、かなりレアな任務だと思う。

今後の抱負･任期後の目標

来年度3年目を迎えるにあたり、着任1年目から始まったこの新しいプロジェクト「情操教育」を軌道に乗せたい。北海道白糠町のこどもたちが豊かな心を育むことが出来るよう、継続するもの、新規に立ち上げるものを精査し、力を尽くしたい。
また次の担い手のために、任務PR活動に力を入れたい。

活動内容

●朝のBGM

朝、ピアノのBGMの中、こどもたちが教室へ。
繰り返し、生活の中で「クラシック音楽に触れることで、心に響き、心が動く」そんな豊かな情操を育む一助となれるよう活動を展開中。日々の積み重ねを大切に。

●昼休みのミニコンサート

町内3校（全校）で昼休みにミニコンサートを実施。先生方や、児童・生徒さんに演奏していただく機会もあり。児童・生徒、先生側の意外な？（演奏する）一面を知ることが出来、盛り上がっている。町内の演奏人材の発掘！？R5.は町内で芸術鑑賞教室を実施。

●音楽の授業サポート

町内3校の音楽の授業のサポートをしている。歌の伴奏や器楽の指導、鑑賞の深堀りなど。担任や音楽教員と共に、充実した授業となるよう打ち合わせを行い、学校と地域おこし協力隊の関係づくりをし、こどもたちの豊かな心のために協力関係がある。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人）yokoklavier5411@gmail.com
（電話番号（個人 ）090-8707-3409

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Amblo 白糠町（地域おこし協力隊）日記～ピアニスト山田陽子～

岩手県金ケ崎町　有住　龍星

⑪教育・文化

基本情報

【年　齢】
23歳
【出身地】
岩手県胆沢郡金ケ崎町
【転出元】
宮城県仙台市
【前　職】
大学生
【活動時期】
R5.4～（１年目）

協力隊に応募したきっかけ

高校生の教育について、自身の経験に基づいた理想像があり、実現方法を探っていた。そんな中同級生が協力隊として活動し始め、着任当初からよく手伝っていた。協力隊に対する地元の方の理解が進み、私も協力隊としてなら学校外の立場から高校生に携われると考え応募した。

今後の抱負・任期後の目標

全ての高校生が夢に挑戦することができる町を目指す。
着任中の目標は地域のイベントや魅力的な大人と高校生のマッチングを行うこと。高校生にとって金ケ崎がアイデンティティの一つとなるように、原体験を提供する。
卒隊後は学力向上を目的とした塾と教え合いのできる自習室の経営を目指す。

活動内容

●中高生向け放課後自習室

中高生が放課後に自習するために学びの空間を作る。現在、町内施設を間借りして試験的に実施中。中高生の認知が増えてきており、利用者も増えてきた。各机にホワイトボードを設置するなどして、教え合いが活性化するように働きかけている。

●金ケ崎高校魅力化コーディネーター

主に「総合的な探究の時間」のサポートを行っている。目的の設定や具体的な内容への助言をしている。また、高校生のアクションで必要な情報を町内から集め、提案している。

●町内のイベントと高校生のマッチング

課外活動へのサポートとして、町内のボランティア募集情報やイベント告知を行っている。
地域の方へ向けて高校生の活動を周知し、関心を持ってもらうきっかけにしてもらいたい。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】金ケ崎町中央生涯教育センター
（メールアドレス）chuou38@town.kanegasaki.iwate.jp
（電話番号）0197-44-3123

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）@ryusei.arisumi

長野県岡谷市　渡邉陽子

教育・文化

基本情報

【年　齢】
36歳
【出身地】
兵庫県宝塚市
【転出元】
東京都江戸川区
【前　職】
（独）国際協力機構
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

これまで、国際協力の現場に身を置き、海外の問題に取り組んできたが、コロナ以降、国内の特に地方社会が抱える問題に関心が深まったことがきっかけ。登山が趣味で、何度も訪れていた長野県への憧れもあり、協力隊の制度を活用して地方移住を決意。

今後の抱負・任期後の目標

人や環境にやさしい繊維素材が見直される中で、日本のシルクの良さを多くの人に広められるよう、地域内に岡谷シルクのファンを作っていきたい。任期後は、伝統産業を通じて地方経済が豊かになるような活動に従事したい。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メール（職場）　：watanabe.yoko@city.okaya.lg.jp
電話番号　（職場）：0266-23-3489

【活動の様子を発信しているSNS】　（Instagram）

（Facebook）

活動内容（一例）

●養蚕振興

地域コミュニティと養蚕を行い、地域における養蚕振興。養蚕に必要な技術を普及するため、桑園管理のセミナー開催等。

●PR・情報発信

SNSを活用し、地域ブランド「岡谷シルク」に関する活動を発信。岡谷シルクの紹介冊子制作や、地域メディアに出演等。

●シルク文化の教育普及

外国人留学生（JICA研修員）へ岡谷シルクの取り組み紹介や、国産シルクの普及についてWSの開催等。

●染織に関する研修活動

市内の染織工房にて、染織に関する基本的な知識や技術を学び、岡谷シルクの製品化に向けた検討等。

岡山県　西粟倉村　川上えりか

教育・文化

基本情報

【年　齢】
26歳
【出身地】
東京都　杉並区
【転出元】
福岡県　福岡市
【前　職】
なし（修士課程修了）
【活動時期】
R3.4～R6.3
（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

大学時代、森林の炭素循環について研究を行っており、山間部でのフィールドワークに熱中していました。その中で、地方の最前線で働くことに興味を持ち、各地の取り組みを調べたり、実際に足を運ぶ中で、西粟倉村とご縁ができました。林業や森林活用やもちろん、地域全体の脱炭素やデジタルといった他分野にまたがる地方創生に関わることができる西粟倉村で、地方創生の現場を学びながら成長したいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地方創生推進室での業務を通じて、自分の興味関心の軸であった「森林」や「カーボン」といった分野がどのように地域づくりに影響していくのか、他の施策とどのように関わっているのか、学ぶ日々を過ごしています。今後は、森林に関する専門性をさらに高めながら、地域の最前線で幅広い分野にまたがって活動できる人材を目指したいと考えています。

活動内容

●脱炭素先行地域づくり事業事務

本事業の所管課である地方創生推進室・産業観光課の上司の下で、脱炭素先行地域づくり事業の交付金申請や進捗管理などといった事務に携わっています。自分のエネルギーに関する知識の浅さに苦労しており、予想外の事態への対処に戸惑うこともありますが、「2058年にエネルギー自給率100%を目指す」という村の大きなビジョンに関わることができていることをやりがいに感じています。

▲外部評価委員会の開催

●行政ポイントサービス事業の普及促進

2021年6月に開始した行政ポイントサービス「あわくらポイントサービス」の広報・普及を行っています。この事業を通じて、村が力を入れる脱炭素なまちづくりやSDGsといった施策に対して、村民の方の興味関心が高まるような仕組みを構築したいと考えています。

▲窓口でのポイント付与

●森林を様々な視点から発信する団体「ちぐさ研究室」運営

地域おこし協力隊の活動の一環として、役場での業務以外に任意団体の運営を行っています。同時期に着任した地域おこし協力隊と一緒に、森林に関するワークショップや展示拠点の運営、情報発信などを行っています。

▲村民向け講座の運営

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（電話番号）0868-79-2111（西粟倉村役場　総務企画課）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（団体ホームページ）https://sites.google.com/view/chigusalabo/

福岡県うきは市　黄　盈姿

⑪教育・文化

基本情報

【年　齢】
33歳
【出身地】
台湾新北市
【転出元】
福岡県福岡市
【前　職】
ネット通販海外担当
【活動時期】
R3.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

大学を卒業後、企業での営業職から通信販売会社の海外担当に転職約８年間、会社の収益が優先されていることに気付きました。その時自分の生きがいを考え始めました。ずっと「地方創生」に興味があり、人々のために何かできることを模索していて、そこで地域おこし協力隊という言葉に出会い、「会社ではなく、社会のために働きたい」と思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

うきは市を国際的に宣伝すると同時に、台湾文化を地元に普及させるように３年間活動してきました。例えば、イベント出店で台湾スイーツを作って、図書館に台湾コーナーを設けるなどの取り組みを行いました。
卒業後も引き続き台湾と日本の架け橋として、台日の地方創生のための訪問や文化交流をコーディネートし、うきは市に台湾茶館をを設立して交流の拠点としたいと考えています。

活動内容

●国際・異文化交流

うきは市は人口の2.7万人の中で、海外出身者が1%の約350人がいます。地元民、移住者と外国人が交流できるように、うきは市と異文化交流を楽しむ「Enjoyうきは」国際交流コミュニティを設立。日本の文化を体験する年賀状作りや、田植え体験、文化財の古民家で花嫁衣装体験などを主催から集客までの運営。

●台湾との交流

✓市の事業者を台湾の地方町（高雄市美濃区）に台日交流出店をコーディネート
✓広報誌に「台湾知りたいわん！」コーナーを設け、執筆
✓小学校で台湾文化交流のゲストティーチャーに教育活動
✓台湾台南市と魅力を互いに紹介する観光交流展示会
✓台湾の日常写真展主催

●魅力発信@中国語で中華圏向け

InstagramとFacebookを使用して、中国語で中華圏向けに情報発信しています。
祭りや行事の紹介、観光スポットの案内などをSNSを通じて広めています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））zuzu.go2016@gmail.com　→公開して構いません
（電話番号（職場））0943-77-9029

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram:zuzu.go　　(左)
Facebook :zuzu.go.ukiha（右）

12 スポーツ

北海道厚真町　歸山　雄太

スポーツ

基本情報

【年　齢】
34歳
【出身地】
北海道苫小牧市
【転出元】
北海道苫小牧市
【前　職】
総合建設業
【活動時期】
R5.2～R6.3（１年目）

協力隊に応募したきっかけ

私は７歳から28歳までの21年間スピードスケートの競技者として活動しておりました。その経験を生かして、スポーツに関わる仕事をしてみたいと思っていました。知人から厚真町でスポーツ振興を担う協力隊を募集しているとお聞きしてぜひやってみたいと思ったので応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

さらにスポーツ施設やスポーツ環境の充実を図り、多世代、多志向、多種目のニーズに応じたスポーツをする機会の確保に向けて活動していきたいです。そして、スポーツを通じてコミュニティを活性化させていきたいです。また厚真町はスポーツ環境が充実していることから合宿誘致などにも力を入れていき、町全体の活性化も図っていきたいです。

活動内容

●エンジョイスポーツ活動

スポーツを通した交流の場やスポーツの楽しさに出会う場を創出したいと考えて、多世代に向けたスポーツ活動を行いました。1回目は軽運動（ミニハードル、ラダー）、バスケットボール、バレーボールを行いました。スポーツを通じた参加者同士の交流が広がりました。

●４市町広域合同合宿イン厚真

苫小牧市、千歳市、日高町、厚真町の４市町の指導者、選手合わせて約50名が厚真町で合宿を行いました。普段一緒に練習したことがない選手、初めての地での合同練習によって、選手は新鮮さをもちつつも切磋琢磨して取り組んでいました。厚真町のスポーツ環境の充実により効果的な練習ができました。

●総合型クラブ設立向けて

厚真町では、スポーツ、文化活動を通したコミュニティ形成のために総合型クラブ設立に向けた活動をしています。地域クラブ検討会議において全委員から承認を頂き、設立準備委員会が発足しました。多世代、多種目、多志向の交流が生まれるクラブを目指していきたいです。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）shakai@town.atsuma.lg.jp
（電話番号）0145-27-2495

愛知県新城市　小山貴大

⑫スポーツ

基本情報

【年　齢】
26歳
【出身地】
群馬県太田市
【転出元】
静岡県浜松市
【前　職】
飲食店、自転車選手
【活動時期】
R4.12～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

新城市はサイクリングに適している環境であることから、自転車競技でのトレーニングで訪れることが何度かありました。新城市でのトレーニングをしていく中で、新城市の自然や文化など多くの魅力を感じ新城市での活動を考えていました。その際、新城市の知人からサイクルツーリズムで地域おこし協力隊を募集している事を教えていただき、私の特技である「自転車」でこの地域を盛り上げたいと思い、応募させて頂きました。

今後の抱負・任期後の目標

新城市は、サイクリングを含めたアウトドアスポーツを楽しめるフィールドが多くあります。そのフィールドを多くの人に知っていただき新城市の魅力を発信していけるよう、アテンド活動などのサイクルツーリズムで新城市を盛り上げていきたいと考えています。また、マウンテンバイクを中心とした子供向けの活動にも力を入れ、スポーツとしての自転車の楽しさを広めていきたいです。

活動内容

●マウンテンバイククラブ

毎週水曜日の放課後、市内の小学生向けにマウンテンバイククラブを行っています。
競技力の向上は目的とせず、マウンテンバイクを楽しむことを目的にご家族で楽しんでいただく地域サークル活動です。

●新城市での合宿アテンド

自転車ロードレースチームにトレーニングを行いながら新城市の魅力を知っていただくよう合宿のアテンドを行っています。新城市の地形はロードトレーニングの環境に適しており、地域の温かみを感じながらトレーニングに打ち込める魅力を発信しています。

●自転車安全教室

市内の小学校にて自転車安全教室を実施し、従来の「自転車の危険性を理解し安全に乗る」ことの目的に加え、「自転車を楽しむ」ことを伝える活動をしています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））takaky.mash11@gmail.com
（電話番号（職場））0536-23-7613

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）@takahiro_koyama11

13 事業承継

北海道　湧別町　田渕　徹平

事業継承

基本情報

【年　齢】
45歳
【出身地】
大阪府豊中市
【転出元】
東京都江戸川区
【前　職】
携帯通信会社の子会社にて物流管理
【活動時期】
R2.10～R6.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

社会に貢献できる仕事への転職を検討し、転職サイト等で探していたところ、地域おこし協力隊制度を知ったため。募集していた湧別町の場所が魅力的に感じたため。

今後の抱負・任期後の目標

まずは事業継承したエゾシカ肉の加工事業所を継続的に運営できるよう安定経営を目指したい。また、精肉を中心とした商品しか展開できていないため、町内の道の駅やお土産品として展開できるような加工済み商品などの開発、販売も目指したいと考えている。

将来的には、有害鳥獣対策や木育、自然体験、環境保全など自然との共生やその持続可能性をテーマとした包括的な事業に発展させ、湧別町を代表する企業に成長させていきたい。

活動内容

本隊員は当初雇用型協力隊員として水産林務課にて森林管理や有害鳥獣対策、町有林の木材を活用した木育活動に従事していたが、町内で唯一エゾシカの食肉加工を行っている事業所を継承するため、令和５年度より委託型協力隊に移行し、ジビエの普及のために活躍している。

ハンターが捕獲したエゾシカを受け入れ、食肉化し精肉として販売している。

鹿肉はふるさと納税の返礼品としても取り扱っており、人気ランキング上位に入るなど高い評価を得ている。

また、鹿肉の普及促進のみにとどまらず、解体作業の見学や鹿皮の利活用として加工体験ツアーも開催している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））tabuchi.ezoshika@gmail.com
（電話番号（個人））080-3477-1589

北海道　平取町　岡本　朋也

事業承継

基本情報

【年　齢】
26歳
【出身地】
浦河町
【転出元】
北海道札幌市
【前　職】
学生
【活動時期】
R5.4～R8.3（１年目）

協力隊に応募したきっかけ

大学時代にアイヌ文化を学び始め、学んでいく中で木彫りに興味を持ち、タイミングよく「アイヌ民族文化財団」の伝承者育成事業の誘いを受け３年間技術を高めました。転機となったのは地元に研修に行った際に、講師の方から祖父が昔民芸店を営んでいたという話を聞き、運命的なものを感じました。木彫家として生活していきたいと考えているときに、平取町でアイヌ工芸を担っていくための木彫りに挑戦できることを知り、応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

販売ルートを確保し、評価してくれるお客さんを増やしていけるように努力していくこと、アイヌ工芸品コンテストで一番いい賞を取ることを目標に頑張っていきたいと思います。将来的には祖父のお店の名前である「フシコ民芸」（フシコとは「古い」を意味するアイヌ語）の名前を受け継ぎ、伝統的なものを大切にしながら新たな自分自身を表現できるような作品を生み出したいです。

活動内容

●二風谷イタの製作

二風谷イタは木製の平たい形状のお盆で、その上に伝統的なアイヌ文様を施していくものです。埼玉県大宮市の物産展にイタを２枚出品しました。そのイタは２枚とも買っていただけました。
また、アイヌ工芸品コンテストでは鹿角を用いたマキリ（小刀）を出展し、奨励賞をいただきました。

●アイヌ文化のブランド化推進事業との連携

平取町の「アイヌ文化のブランド化推進事業」と連携し、富山県高岡市の株式会社能作で視察研修を行いました。企業の運営やコラボレーションの手法を学びました。

●日本一の群生地！すすらんツーリズム推進事業との連携

一般社団法人平取町観光協会の「日本一の群生地！すずらんツーリズム推進事業」と連携し、日ごろ平取町アイヌ工芸伝承館（愛称：ウレシパ）で学んでいる技術を活かしながら、木彫り体験の講師として協力していく予定です。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））fluffy.zz2528@gmail.com
（電話番号（個人））080-1861-1462

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

茨城県　稲敷市　谷野正朝

事業承継

基本情報

【年　齢】
39歳
【出身地】
茨城県北茨城市
【転出元】
東京都調布市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R3.4.1～ R6.3.31

協力隊に応募したきっかけ

生まれ育った茨城県で、今まで培った建築の知識・技術を生かしながら地域貢献したいとの思いと、建物を建てる最前線で働きたいとの思いから稲敷市の地域おこし協力隊(建築大工育成支援事業)に応募した。

今後の抱負・任期後の目標

木造住宅の設計、大工作業の知識・技術を習得して工務店を引き継ぎ、お客様に寄り添いながら設計と工事のどちらにも重きを置いて、一貫した仕事をすることでいい家を提供できる工務店にすること。

活動内容

●大工仕事

協力隊となってからの約2年半で平屋や２階建て住宅、寮や床屋の新築に携わり、道具の使い方や木造建物を建てる工程や手順が身についた。

また、修繕工事は住宅だけでなく、神社やお寺などの高い技術が要求される案件に関わり、腕を磨いた。

●設計

基本的な大工仕事が身についてきたこともあり、設計にも携わった。施主との打ち合わせで要望を確認し、敷地の条件や予算、家族構成等を考慮しながら間取りを考え、図面や三次元パースを用いながら最終的な設計案をまとめることができるようになった。

また、建築確認申請の手続きや工事記録の作成、完了検査対応も実施し経験を積んだ。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）tanino.inashikicooperator@gmail.com
（電話番号）080-3209-5588

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.facebook.com/profile.php?id=100050400967149

岐阜県七宗町　後藤　司

事業承継

基本情報

【年　齢】
２５歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前　職】
学生
【活動時期】
Ｒ３.４～Ｒ６.３

協力隊に応募したきっかけ

田舎で暮らしながら、木工を仕事にしたいと思い就職活動をしていた時に、地域おこし協力隊という新たな選択肢を知りました。
日本の伝統的な木工技術継承として、七宗町が募集していたのでそこに応募したことがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

木工の知識や技術を取得し、独立を目標に頑張っていきます。また、七宗町の住民がより良く過ごしていくためや、町外の人を呼び入れるための町づくりをしていきたいと思っております。

活動内容

●建具製作

町内の木工事業所を拠点として活動をしています。
木工の技術を学びながら仕事をしていく上で、今まで出来なかったことが出来るようになることにやりがいを感じます。

●地域との関わり

地域との関わりも大事にしていることの１つです。
消防団などの地域の集まりには積極的に参加しています。
生活する上で自分の存在を認識していただける人が増え、気軽に声をかけてくださった時は嬉しかったです。

●町のPR活動への参加

町が行うイベントなどにも参加しています。
今年の１０月にも町のPRの為に活動拠点の端材を利用したキーホルダー作りのワークショップを行いました。
町の発展に自分も携わることができることには大きなやりがいを感じます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））tsukasa.g.12@gmail.com
（電話番号（個人or職場））090-7553-8968

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
特になし

兵庫県豊岡市　福井 智子

事業承継

基本情報

【年　齢】
32歳
【出身地】
大阪府箕面市
【転出元】
大阪府箕面市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R４.４～R７.３

協力隊に応募したきっかけ

子どもの頃からものづくりに興味があったことや、豊岡市城崎町へ旅行した際に出会った「麦わら細工」の魅力に引き込まれたことをきっかけに、大阪から城崎へ通いながら麦わら細工について学んでいました。

通いながら技術だけでなく歴史や文化、城崎の暮らしに触れ「城崎で麦わら細工をやっていきたい。本格的に学びたい」という思いが強くなっていたところ、豊岡市が「麦わら細工」の技術継承の地域おこし協力隊を募集すると聞いて応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

作業療法士の資格を持っていることから、麦わら細工職人との両立を図りつつ、将来的には「城崎で自分の麦わら細工のお店を持つ」ことができるように日々頑張っています。何年かかるかわかりませんが、今は師匠の元で学び、技術を磨き、麦わら細工の歴史を繋いでいきたいです。

活動内容

●麦わら細工の製作

麦わら細工は、江戸時代から続く城崎の伝統工芸です。乾燥させた大麦の節を切り、ストロー状の茎を染色して割り開き、桐箱などに張り詰め、花鳥や幾何学模様を描きます。ごはんを練った糊や日本剃刀など昔ながらの道具を使い、すべて手作業で製作します。大麦のわらでつくられる細工は、絹のように滑らかな手触りと上質なツヤが特徴的です。

麦わらは、紙と違って繊維の方向によって思うように切るのが難しいところがあります。直線的な模様でも下書きに沿ってぴったり切るのは難しく、曲線を切り出すことはさらに繊細な技術を要します。

また麦わらの特徴として、同じ色でも繊維の方向を変えて張ると色の見え方が変わります。その特徴を活かした模様は唯一無二の魅力だと思っています。

●「麦わら細工」の体験指導

主に城崎温泉を訪れる観光客向けに、麦わら細工のしおりや小物入れなどの製作体験の指導も行っています。城崎温泉は、国内だけでなく海外からも多くの観光客が訪れる温泉街で、“旅の思い出”を作ることができる麦わら細工の製作体験は人気があります。

外国人の方にもしっかりと指導できるように、英語の勉強などにも励んでいます。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）straw.kinosaki@mugi-fuku.com(個人)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram：tomk4737

奈良県吉野郡野迫川村　藤田 真浩

事業継承

基本情報

【年　齢】
３５歳
【出身地】
愛知県豊橋市
【転出元】
愛知県豊橋市
【前　職】
ガソリンスタンド社員
【活動時期】
２０２２年１０月～

協力隊に応募したきっかけ

小さい頃から田舎暮らしに憧れがあり、昨年前職を退職し、転職活動の際に、自然を感じられる仕事に就くか、自然を感じられる地域に移住したいと考えており、地域おこし協力隊の募集内容が前職と同じであり、役に立ちたい一心で応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

とにかく住民の方に一人でも多く顔を覚えて貰う事、今後村民や一般客の方によりよいサービスを提供して、多くの住民の方やお客様に愛されるお店作りを目指していきます。

活動内容

●ガソリンスタンド運営

村内唯一のガソリンスタンドの後継者候補として、燃料、ガス、米の配達や集金、事務業務等、ガソリンスタンドの運営全般の業務に従事しています。

役場に隣接する村内唯一のガソリンスタンド（住民生活のライフラインを担う重要施設となっている）

●「お買い物バス」運転手

村民の方でお買い物に行くのが困難な方のために昨年度から村が運行を始めた「お買い物バス」その運転手をしています。
利用される村民の方々とお話するのが楽しいですね。
（令和６年５月まで実施）

最寄りの商業施設まで直接送迎してもらえるので、大きな荷物を抱えてバスを乗り継ぐ苦労が要らず買い物できると好評

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（野迫川村産業課）sangyou1@vill.nosegawa.nara.jp
（電話番号（野迫川村産業課）0747-37-2101

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
野くる -nokuru- 野迫川村地域情報発信サークル
https://www.youtube.com/@--nc5kv

島根県浜田市　　由井　辰

事業承継

基本情報

【年　齢】
２８歳
【出身地】
長野県川上村
【転出元】
神奈川県川崎市
【前　職】
会社員
【活動時期】
Ｒ５.４～Ｒ８.３

協力隊に応募したきっかけ

元々、2019年3月まで浜田市にある島根県立大学に在籍していました。当時、サーフィンやスノーボード、ライフセーバーを行うサークルを設立する中で、地域の方々と非常に親しい仲になりました。一旦東京へ就職するも、浜田市の自然と人々が忘れられず移住を決意しました。

今後の抱負･任期後の目標

宿泊業、観光業を中心に、浜田市の自然豊かな環境を活かした体験メニューなども組み合わせて地域の活性化と魅力あるまちづくりを行いたいです。

活動内容

●概要

浜田市の後継者不在の事業者を、起業・創業を目指す地域おこし協力隊が事業承継という形で引き継ぎ、浜田市の産業・伝統を維持していく取り組み。

●後継者不在企業の情報収集･訪問

・県、市が行った後継者不在事業者のアンケートをもとに訪問先のリストアップを行う。
・後継者のいない事業所を分析し、原因・課題を明らかにする。
・実際に事業所を訪問し、事業承継に対する課題や想いなどを掘り起こす。
・後継者が存在する事業所へも訪問を行い、人脈を広げる。

●インターン

・後継者不在の事業所に実際にインターンとして研修を行い、経営や業務に取り組む。
・事業者の技術の承継や、隊員の強みを活かした戦略を取り入れ、後継者候補として従事する。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））yui.chiikiokoshi@gmail.com
（電話番号（個人））０８０－２３９８－５８５７

熊本県天草市　渡邉　隼

⑬事業承継

基本情報

【年　齢】
31歳
【出身地】
熊本県天草市
【転出元】
東京都中野区
【前　職】
システムエンジニア
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

地元高校卒業後、進学や就職で故郷を離れたが、就職先の東京にて地元出身者の集まりである「天草元気プロジェクト」の一員に。（関係人口団体）
約7年ほど、東京で天草の知名度を広げるために様々なイベントを実施。
活動を通してふるさとへの想いが醸成され、Uターンを決意。
タイミングよく協力隊の募集があったため、迷わず応募し現在に至る。

今後の抱負・任期後の目標

高校までしか地元におらず、産業分野について無知であったが、この協力隊任期中に多くの事を知ることができた。
これまでインプットした情報を元に、地域の課題を解決できるようなまちづくり会社を運営していきたい。
まずはキャッシュを生み出すところから、1歩ずつ始めていき、持続可能な地域となれるように頑張りたい。

活動内容

●起業創業・中小企業支援（R4.4~R5.3）

天草市内の自治体、地場商工団体、地銀で運営されている産業支援拠点センターで1年間勤務。センター長と共に業種問わず、様々な企業や個人の相談を受ける。前職のエンジニア時代で培ったITスキルや先進自治体の情報を提供。同時に、長らく離れていた地元天草の情報収集ができた。

●企業誘致支援(R5.4~)

人口流出の緩和や産業の発展のため、天草市が推進している企業誘致活動。企業派遣研修型地域おこし協力隊員として誘致企業に所属し、コワーキングオフィスの運営を行う傍ら、VR技術を駆使したメタバース体験会や視察の対応を実施している。

●スタートアップ支援(R5.5~)

天草市が運営するスタートアップ支援に特化した相談窓口を運営中。中小企業診断士と共に事業計画の策定や資金繰り相談などに対応している。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））hayato.Watanabe.hw@gmail.com
（電話番号（個人））080-6430-1031

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook （個人））
https://www.facebook.com/hayato.watanabe2/